

Panasonic

Editing Controller

AJ-A900

取扱説明書

第2版

保証書別添付

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、お受け取りください。

製造番号は、品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。



ご使用前に本誌をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保管し、わからないときは再読してください。

上手に使って、上手に節電
ご使用後は、忘れずに電源スイッチを切ってください。

目次

安全上のご注意	4	さまざまな編集	46
特長	10	マルチレコーダ編集	46
編集機能の特長	10	マルチイベント編集	47
インターフェイスの特長	10	オープンエンド編集	48
各部の名称と機能	11	パークアンドエディット	48
カウンター部	11	ファーストエディット	49
ソース選択/調整ボリューム部	12	TC インサート編集	50
液晶表示部/数字ボタン/モニター切り替え部	13	スロー編集	51
VTR 操作/VTR ソース選択部	14	ワンタッチスロー再生	52
編集操作部	16	補助ソース (AUX) の編集	53
コネクターパネル部	20	手動編集	54
システム接続	21	オーディオスプリット編集	55
システム設定	25	手動エフェクト編集	58
メニュー一覧	26	シンクロール編集	59
HOME メニュー	27	補助機能	60
詳細画面	27	編集点の設定値を確認する (IN, OUT, DUR, SPEED)	60
簡易画面	28	編集点の映像を確認する (GO TO)	60
ソースデータ表示	29	データの修正	62
グラフィック表示	30	編集データの登録と呼び出し (FS, BS, EVENT)	62
編集点設定状態表示	31	リールナンバーの設定 (REEL)	63
編集操作の基本的な流れ	32	サーバーのクリップ設定 (CLIP)	63
編集操作	33	修正した編集点を元に戻す (LAST X)	64
カット編集の操作方法	33	一度編集したデータを呼び出す (LAST ED)	64
ディゾルブ編集の操作方法	36	編集の合計時間の表示 (TOTAL)	64
ワイプ編集の操作方法	38	オートタグ	65
モザイク編集の操作方法	40	自動タイムトラック (自動マッチフレーム)	65
キー編集の操作方法	42	TRACK (手動タイムトラック)	66
ディゾルブキー編集の操作方法	44	コレクト機能 (CORCT)	66
ワイプキー編集の操作方法	45	BG MATTE 設定	67
		画像のモニター	68
		FUNC メニュー	69
		フィット処理の実行	69
		GPI の出力設定	70
		VAR メモリのクリア	71
		TC インサート編集の開始点設定	71
		サーバー情報の表示	71
		SW'ER メニュー	72

目次

EDLメニュー	73	外部機器のSETUP	109
EDL表示画面	73	AJ-HSW900のセットアップ	
EDL操作	74	(SWITCHER SETUP)	109
EDLの加工 (LIST MANAGEMENT)	75	AJ-HSW900のセットアップ	
編集データ操作	76	(MIXER SETUP)	110
AJ-A900の設定	80	ボタン、ランプ機能一覧	111
SETUPメニュー	80	エラー表示一覧	117
システム設定	81	VTR・スイッチャーの設定	119
素材の状態設定	82	当社製VTRの設定	119
設定内容の呼び出し・保存	83	当社製DISK RECORDERの設定	120
動作状態の確認	85	JVC社製VTRの設定	121
セットアップ一覧	86	SONY社製VTRの設定	121
SETUP (BASIC) の一覧	88	ビデオスイッチャーの設定	122
操作方法のセットアップ		オーディオミキサーの設定	122
(OPERATIONAL CONTROL)	88	付録1. 編集に関する解説	123
システムのセットアップ		編集コントローラーの機能	123
(SYSTEM CONTROL)	90	編集方法の種類	123
SWITCHER/MIXERのセットアップ		タイムコード (TC) に関して	124
(SWITCHER/MIXER CONTROL)	92	プリロール、ポストロールに関して	125
GPIのセットアップ (GPI CONTROL)	95	編集開始点 (IN点) 終了点 (OUT点)	
サーチダイヤルのセットアップ		に関して	125
(DIAL CONTROL)	96	カラーフレーム及びHDTV信号に関して	125
画面表示のセットアップ		付録2. 編集モードの種類と図解	126
(DISPLAY CONTROL)	97	A / Bロール編集	126
ブザーのセットアップ		マルチレコーダ編集	126
(BUZZER)	97	シンクロール編集 (手動TAKE)	126
SETUP (ENHANCED) の一覧	98	オーディオスプリット編集	126
システムの拡張セットアップ		スロー編集	126
(ENH. SYSTEM CONTROL)	98	付録3. EDLフォーマットについて	127
SWITCHERの拡張セットアップ		付録4. 編集用語集	129
(SWITCHER PROTOCOL)	100	お問い合わせになる前に	133
ミキサーの拡張セットアップ		故障かな?...と思うときは	
(MIXER PROTOCOL)	101	(トラブルシューティング)	133
RS-232Cの拡張セットアップ		補足説明	135
(RS-232C PROTOCOL)	101	アフターサービスについて	136
GPIの拡張セットアップ		コネクター信号について	137
(ENH. GPI CONTROL)	102	定格	138
SETUP (PORT ASSIGN) の一覧	103		
ポート、ディレイの拡張セットアップ			
(PORT ASSIGN)	103		
SETUP (VTR CONSTANT) の一覧	104		
VTRの拡張セットアップ			
(VTR CONSTANT)	104		
CONFIG の一覧	108		

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です)



このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。










このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

安全上のご注意

必ずお守りください

設置について

警告










<p>不安定な場所に置かない！</p> <p> 落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。</p> <p>禁止</p>	<p>電源コードに重いものを載せない！</p> <p> 本機の下敷きにならないよう注意してください。</p> <p>禁止</p> <p>コードが傷ついて、火災・感電を起こすおそれがあります。</p>	<p>コードに重いものを載せない！</p> <p> 本機の下敷きにならないよう注意してください。</p> <p>禁止</p> <p>コードが傷ついて、火災・感電を起こすおそれがあります。</p>
<p>水場に設置しない！</p> <p> 火災・感電の原因となります。</p> <p>水場使用禁止</p>	<p>ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない！</p> <p> 感電の原因となります。</p> <p>禁止</p>	<p>コンセントや配線機器の定格を越える使い方や、交流100V以外での使用はしない！</p> <p> たこ足配線などで定格を越えると、発熱による火災の原因となります。</p> <p>禁止</p>
<p>付属品・オプションは、指定の製品を使用する！</p> <p> 本体に誤って指定外の製品を使用すると、火災や事故を起こすおそれがあります。</p>		

安全上のご注意

必ずお守りください

使用方法について

警告

<p>本機の上に水の入った容器、小さな金属物を置かない！</p> <p> 本機内部にはいると、故障や事故を起こすおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>表示された電源電圧以外は、使用しない！</p> <p> 火災・感電のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>本機を改造しない！</p> <p> 火災・感電の原因となります。</p> <p>分解禁止</p>
<p>電源コード・電源プラグが破損するようなことはしない！</p> <p>傷つけたり、加工したり、高温部に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない！</p> <p> 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。</p> <p>禁止</p>	<p>機器が濡れたり、水が入らないようにする！</p> <p> 火災・感電のおそれがあります。 雨天・降雪・海岸・水辺での使用は、特にご注意ください。</p> <p>禁止</p>	<p>水場で使用しない！</p> <p> 火災・感電の原因となります。</p> <p>水場使用禁止</p>
<p> 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。</p> <p>禁止</p> <p>●コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店に、ご相談ください。</p>	<p>電源プラグは、根元まで確実に差し込む！</p> <p> 感電の原因になります。</p>	<p>本機の裏ぶた・キャビネット・カバーなどを外さない！</p> <p> 感電の原因となります。</p> <p>分解禁止</p> <p>●点検・整備・修理は、お買い上げの販売店に、ご相談ください。</p>

安全上のご注意

必ずお守りください

異常時の処理 について

警告

本機を落としたり、破損した場合は、電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。
電源プラグを抜く

本機の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。
電源プラグを抜く

本機の内部に異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。
電源プラグを抜く

煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態の場合は、電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



火災・感電の原因となります。
電源プラグを抜く

- お買い上げの販売店に、修理をご依頼ください。

電源コードが傷んだ場合は、交換を依頼する！



そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

- お買い上げの販売店に、ご相談ください。

お手入れについて

警告

電源プラグのほこりなどは、定期的にとる！



プラグにほこりがたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因となります。






- 電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

安全上のご注意

必ずお守りください





設置について

⚠ 注意

<p>電源コードを熱器具に近づけない！</p> <p> コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となります。 禁止</p>	<p>油煙や湯気が当たる場所に置かない！</p> <p> 火災・感電の原因となることがあります。 禁止</p>	<p>湿気やほこりの多い場所に置かない！</p> <p> 火災・感電の原因となることがあります。 禁止</p>
<p>プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない！</p> <p> コードが傷つき、火災・感電の原因となります。 禁止</p> <p>●必ずプラグを持って抜いてください。</p>	<p>コネクタを抜くときは、コードを引っ張らない！</p> <p> コードが傷つき、火災・感電の原因となります。 禁止</p> <p>●必ずコネクタを持って抜いてください。</p>	

使用方法について

⚠ 注意

<p>本機の上に重い物を置かない！</p> <p> バランスがくずれて、落下し、けがの原因となります。 禁止</p>	<p>移動させる場合は、電源スイッチを切り、プラグを抜き、外部の接続コードを外す！</p> <p> コードが傷つき、火災・感電の原因となります。 電源プラグを抜く</p>	<p>長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く！</p> <p> 火災の原因となります。 電源プラグを抜く</p>
<p>本機に乗らない！</p> <p> 倒れたり、壊れたりし、けがの原因になります。 禁止</p>		

安全上のご注意

必ずお守りください

お手入れについて

注意

お手入れの際は安全のため、電源スイッチを切り、電源 (プラグ) を抜く！



電源プラグ
を抜く

火災・感電の原因となることがあります。

1年に1度ぐらいは、販売店に内部の掃除の相談を！



本機の内部にほこりがたまったまま、使用し続けると、火災・故障の原因となることがあります。

特 長

編集機能の特長

液晶表示

液晶とLED表示、シンプルなボタン配置により、簡単操作で編集ができます。電磁式ジョグ/シャトルダイヤルで素早いサーチが行えます。

512 イベントのマルチ編集

最大512のマルチイベントメモリーにより、カット数が多い番組制作でも、一気に連続自動編集が可能です。

A / B ロール編集

2つのシーンを合成して編集する(ディゾルブやワイプ)など映像の効果の高い編集を制御できます。

シンクロール編集

プレーヤー3台の映像をスイッチャーで切り換えながら編集するシンクロール編集が可能です。

カラーフレーミング編集

VTRのカラーフレームロック機能を使った、カラーフレーミング編集が可能です。また、タイムコード基準を用いて、正確な同ポジ編集を行うこともできます。

オーディオスプリット編集

映像の編集点と音声の編集点をずらして編集するオーディオスプリット編集に対応しています。設定はIN、EFFECT、OUT点のうち2ヶ所へ行え、マークボタンを用いた登録も可能です。映像の編集点、音声の編集点のどちらでも基準にすることができます。

バリエーションスピードメモリー(スロー編集)

リハーサル中のバリエーションスピードをメモリーし、本番編集で再現させることが可能です。(EDLには記述できません)スロー編集は、調相により精度の高い編集が可能です。

オートタグ機能

連続編集の登録に便利な、オートタグ機能をサポートしていますので、操作のスピードアップがはかれます。

オートリセット機能

編集の開始ごとにプレーヤーのカウンターを自動リセットできます。

リストマネージメント機能

EVENTの追加、削除、移動、複写、リナンバーなどマルチイベント編集では不可欠な作業をサポートしています。

リールナンバー設定機能

4桁のリールナンバーを各ソースVTRごとに設定することができます。何本もテープをかけかえて編集するときなどに便利です。

インターフェイスの特長

5台のVTRを同時制御

5つのVTR用リモート端子(RS-422)を標準装備しています。また、最大3台までレコーダとして同時に制御できますので、一度に3巻のマスターテープを作成することもできます。(スイッチャー、ミキサーを使用しない場合、最大7台のVTRが接続できます)

スイッチャー・ミキサーを制御

ビデオスイッチャーとオーディオミキサー用のリモート端子(RS-422)を標準装備しています。スナップショット制御、デジタルプロセスディレイの補正などの機能も備えています。

スイッチャーのマニュアル制御

ビデオスイッチャーが対応していれば、次の操作がリモート可能です。

- アスペクト比、マットカラー、ボーダー幅等がリモート調整できます。
- マニュアルでワイプ、フェード操作ができます。
- ポジションナーで丸ワイプ、四角ワイプ、モザイクの位置変更が可能です。モザイクでは軌跡をメモリーして再現可能です。

HD・NTSC・PAL対応

リファレンス入力は従来のコンポジットはもちろん、3値HDシンクへも対応しています。HD・NTSC・PALでご使用いただけます。

2個のGPIポート

GPI端子(ピンジャック)を2ポート標準装備しています。そのうち1ポートは、1回の編集中に2度の動作を設定できます。

コンピュータとの接続

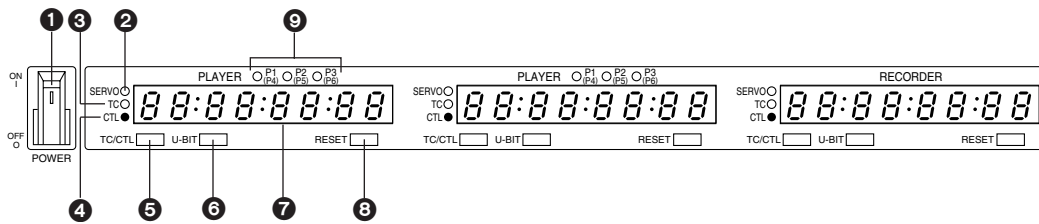
RS-232C端子(9pin)を標準装備していますので、EDLデータをコンピュータとの間で送受信できます。EDLフォーマットはAJ-A900の機能が活かせるオリジナルフォーマットと、他の編集コントローラとデータの互換性が高いAG-A850、CMX340フォーマット、およびBVE9000フォーマットに対応しています。EDLをダンプ、ロードするパソコン用ソフトウェア(フリーウェア)も用意しておりますのでお問い合わせください。

DVCPRO SERVER AJ-HDR150 サポート

AJ-HDR150の制御プロトコル「Odetics」をサポートしていますので、クリップごとの表示や選択を行うことができます。(AJ-HDR150はプレーヤとしてのみご使用いただけます)

各部の名称と機能

カウンター部



① POWER スイッチ

ON 側を押すと電源が入り、OFF 側を押すと電源が切れます。本機には EDL メモリーに登録したデータを約 3 日間バックアップする機能がありますので完全にシャットオフできます。

② SERVO ランプ

テープがサーボロックして走行しているとき、点灯します。

③ TC ランプ

点灯しているときは、⑦ のタイム表示部はタイムコードを表示しています。

⑤ の TC/CTL ボタンを押すごとに切り換わります。

④ CTL ランプ

点灯しているときは、⑦ のタイム表示部は CTL カウンタによる時間を表示しています。

⑤ の TC/CTL ボタンを押すごとに切り換わります。

⑤ TC / CTL ボタン

VTR のテープ位置の時間表示を、タイムコード (TC) または、CTL に切り換えます。

VTR にタイムコードの機能がないときは、必ず CTL になりますので、押しても切り換わりません。

⑥ U-BIT ボタン

押している間のみ、⑦ のタイム表示部は UB (ユーザービット) の値を表示しています。

⑦ タイム表示

VTR の現在のテープ位置または編集点を表示します。

左および中央はプレーヤー、右はレコーダの値を表示します。

⑧ RESET ボタン

CTL を表示中のとき、時間表示をリセットします。

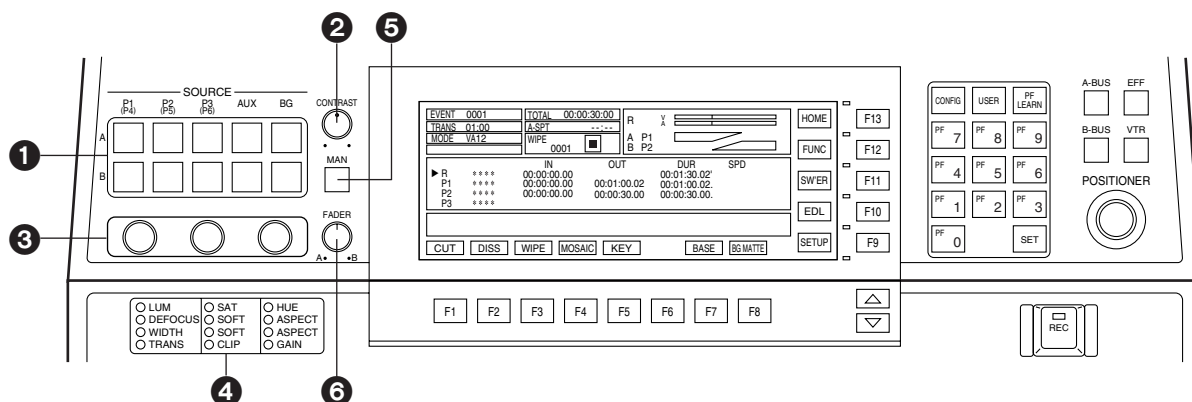
⑨ ソースランプ

現在 ⑦ に表示されているソース (VTR) のランプが点灯します。

P1 ~ P3 が点灯、P4 ~ P6 が点滅となります。

各部の名称と機能

ソース選択/調整ボリューム部



① SOURCE (ソース) 選択

編集に使用する信号源を選択します。

特に設定しなくてもビデオスイッチャー、オーディオミキサーはVTRの選択に自動的に連動します。

A / B ロール (ディゾルブ/DISS、ワイプ/WIPE を選択した) 編集では、上段 A 列から下段 B 列に切り替わります。

編集点入力の順序で A / B の順を決めた後もここで順番を入れ替えることが可能です。

● P1, P2, P3 / P4, P5, P6

それぞれのプレーヤー (SETUP で設定されたスイッチャー、ミキサーの入力) を選択します。

P4、P5、P6 は SHIFT ボタンを押しながら選択します。表示はタイム表示部上部の LED の点灯および点滅で判別できます。

● AUX (オグジュアリー)

ビデオスイッチャーに接続した外部入力 (カメラ、タイ틀ー等の補助ソース) を選択します。

SHIFT ボタンと同時に押すことで、別の AUX (AUX-2) の選択が可能です。

● BG (Back Ground/バックグラウンド)

スイッチャーに内蔵したバックカラー発生器を選択します。

明るさや色は LUM, SAT, HUE ボリュームで調整します。詳しくは BG MATTE 設定をご覧ください。

編集用テープを作成するとき使用する、ブラックバースト (BB) もここで選択できます。

② CONTRAST (コントラスト) ボリューム

LCD (液晶ディスプレイ) の明るさを調整します。

③ 調整ボリューム

用途によって機能が切り替わります。

現在の機能は、下部 ④ の LED の点灯で表示されます。

④ ボリューム機能表示

③ のボリュームの機能を表示します。

選択した操作に従って自動的に点灯します。

● LUM/SAT/HUE (ルミナンス/サチュレーション/ヒュー)

BG (バックグラウンド) 色の LUM (輝度)、SAT (色の濃さ)、HUE (色相) を調整できます。

ワイプのボーダー色などの調整にも使います。

● DEFOCUS/SOFT/ASPECT (デフォーカス/ソフト/アスペクト)

DEFOCUS : モザイク (MOSAIC) のぼかし程度を調整します。

SOFT : モザイクの境界線のぼかし程度を調整します。

ASPECT : モザイクの縦横比を調整します。

● WIDTH/SOFT/ASPECT (ウイドゥス/ソフト/アスペクト)

WIDTH : ワイプの境界線 (ボーダー) 幅を調整します。

SOFT : ボーダーのぼかし程度を調整します。

ASPECT : ワイプパターンの縦横比を調整します。

● TRANS (トランジション)

トランジション時間を変更するときに使います。

● CLIP/GAIN (クリップ/ゲイン)

KEY 信号の抜き取りレベルを調整します。

⑤ MAN (Manual/マニュアル) ボタン

ディゾルブまたはワイプモードの時、ボタンを押すと点滅します。

フェードおよびワイプを下記ボリュームを用いて手動で行うことができます。

⑥ FADER (フェーダー)

フェードおよびワイプを手動で行うボリュームです。

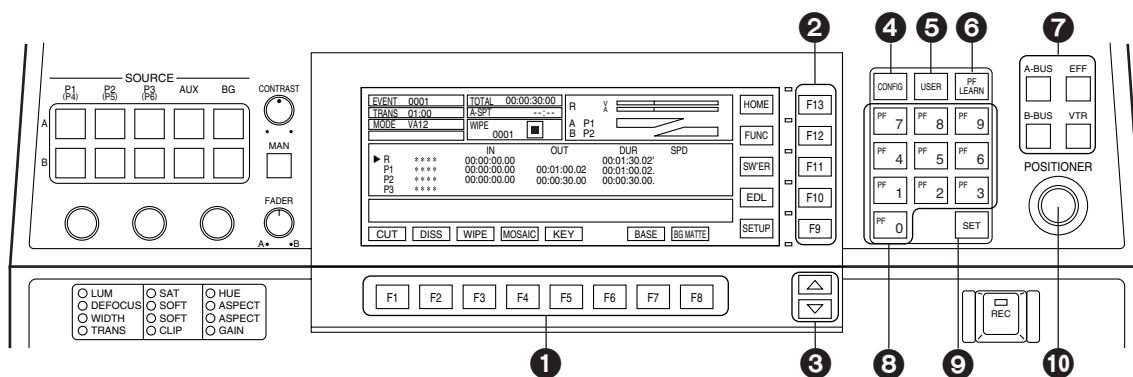
時計方向へ回転することで、選択された A ソースから B ソースへ切り替わります。

< ノート >

③ ~ ⑥ の機能はスイッチャーが対応していないと動作しません。

各部の名称と機能

液晶表示部/数字ボタン/モニター切り替え部

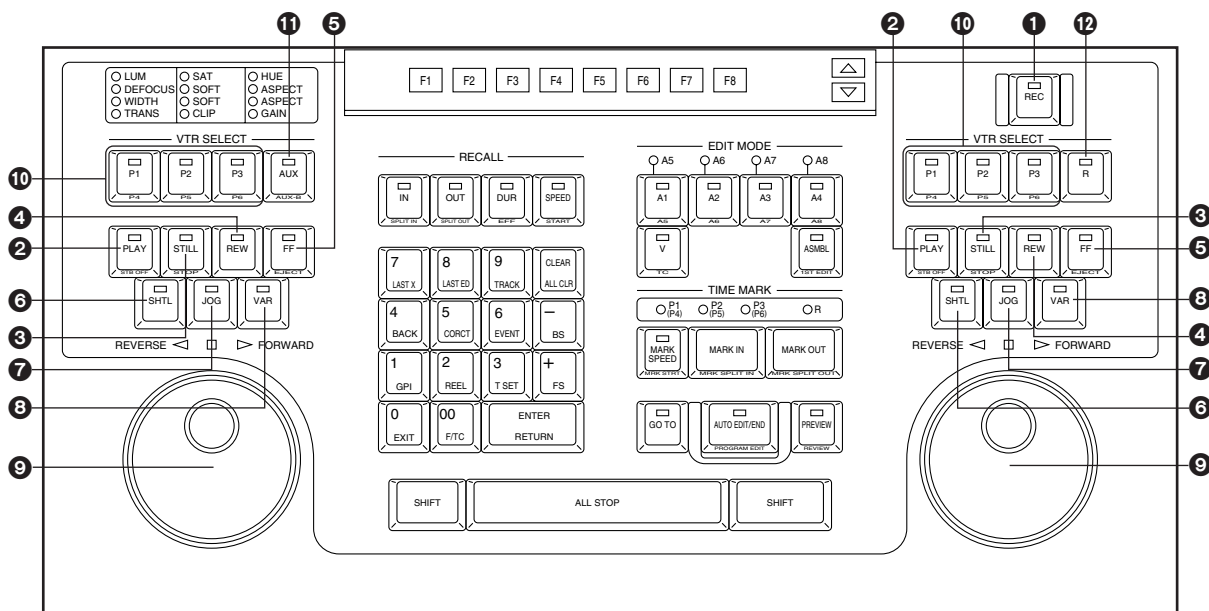


- ① 横方向ファンクションボタン**
ボタン上部の液晶に表示された機能を選択します。
- ② 縦方向ファンクションボタン**
ボタン左側の液晶に表示された機能を選択します。
- ③ 上下ボタン**
表示項目の切換、選択に使用します。
- ④ CONFIG ボタン**
CONFIG ボタン 数字ボタン [0 ~ 9] SET ボタンを続けて押すことで、保存されている CONFIG データの呼び出しがメニューを開かずに行えます。
数字ボタンと CONFIG データはそれぞれ以下のように対応しています。
[0] : FACTORY DEFAULT
[1]~[8] : USER AREA 1 ~ 8
[9] : USER DEFAULT
- ⑤ USER ボタン**
USER ボタン 数字ボタン [0 ~ 9] SET ボタンを続けて押すことで、保存されている SETUP データの呼び出しがメニューを開かずに行えます。
数字ボタンと SETUP データはそれぞれ以下のように対応しています。
[0] : FACTORY DEFAULT
[1]~[8] : USER AREA 1 ~ 8
[9] : USER DEFAULT
- ⑥ PF (プログラムファンクション) LEARN ボタン**
プログラムファンクションとは一連の動作を登録させておく機能です。
登録させるには、PF LEARN ボタン 数字ボタン [0 ~ 9] 登録したい動作 SET ボタンの順に押します。
登録した動作の実行は、数字ボタン **⑧** を押すことにより行えます。
- ⑦ モニター出力選択ボタン**
一般的に、スイッチャーのモニター出力は自動選択されますが、強制選択することができます。

 - A-BUS (A バス) ボタン
ソースの A 列の信号をモニターします。
 - B-BUS (B バス) ボタン
ソースの B 列の信号をモニターします。
 - EFF (Effect/エフェクト) ボタン
ソースの A 列、B 列で選択した信号に、効果を加えた状態をモニターできます。
ワイプパターンを選択した場合、ボーダーの色、幅、ぼかし具合を調整できます。
バックグラウンドの場合、輝度、色の濃さ、色合いを調整できます。
編集操作を行うと VTR ボタンモードに自動的に戻ります。
 - VTR ボタン
VTR 選択部で選択した信号をモニターします。
通常はこのモードが自動的に選択され、プレビューや編集中は記録される実際の画像が確認できます。
- ⑧ 数字ボタン (PF 実行ボタン)**
CONFIG データ、SETUP データの呼び出しや、PF の登録、実行に使用します。
- ⑨ SET (セット) ボタン**
入力データ確定のときに押します。
- ⑩ POSITIONER (ポジショナー)**
丸ワイプ、四角ワイプ、モザイクの位置を調整します。
軌跡をメモリーし、本番編集で用いることができます。

各部の名称と機能

VTR 操作/VTR ソース選択部



VTR 操作部

① REC (レック) ボタン

このボタンを押しながら、レコーダ側の PLAY ボタンを押すと、録画を始めます。

静止、再生、サーチ中に単独で押すと、レコーダ側のモニターに、レコーダ VTR の入力映像・音声を出力します。(レコーダのクロスポイントの設定状態により、入力映像・音声に切り換ええない場合もあります)

② PLAY (プレイ) / STB OFF (スタンバイオフ) ボタン

再生を行います。

SHIFT ボタンを押しながら操作すると、スタンバイオフの状態にします。

③ STILL (スチル) / STOP (ストップ) ボタン

再生を一時停止させます。

SHIFT ボタンを押しながら操作すると、VTR を停止させます。

④ REW (リワインド)

テープを巻き戻します。

⑤ FF (エフエフ) ボタン / EJECT (イジェクト) ボタン

テープを早送りします。

SHIFT ボタンを押しながら操作すると、テープを VTR から取り出します。

⑥ SHTL (シャトル) ボタン

ダイヤルをシャトルモードにします。

ダイヤルの回転角度に応じて、再生速度が変化します。右回転で正方向、左回転で逆方向に再生します。

⑦ JOG (ジョグ) ボタン

ダイヤルをジョグモードにします。

ダイヤルを回す速度に応じて、再生速度が変化します。右回転で正方向、左回転で逆方向に再生します。

⑧ VAR (バル) ボタン

ダイヤルを VAR (Variable speed) モードにします。

ダイヤルの回転角度に応じて、再生速度が変化します。右回転で正方向、左回転で逆方向に再生します。

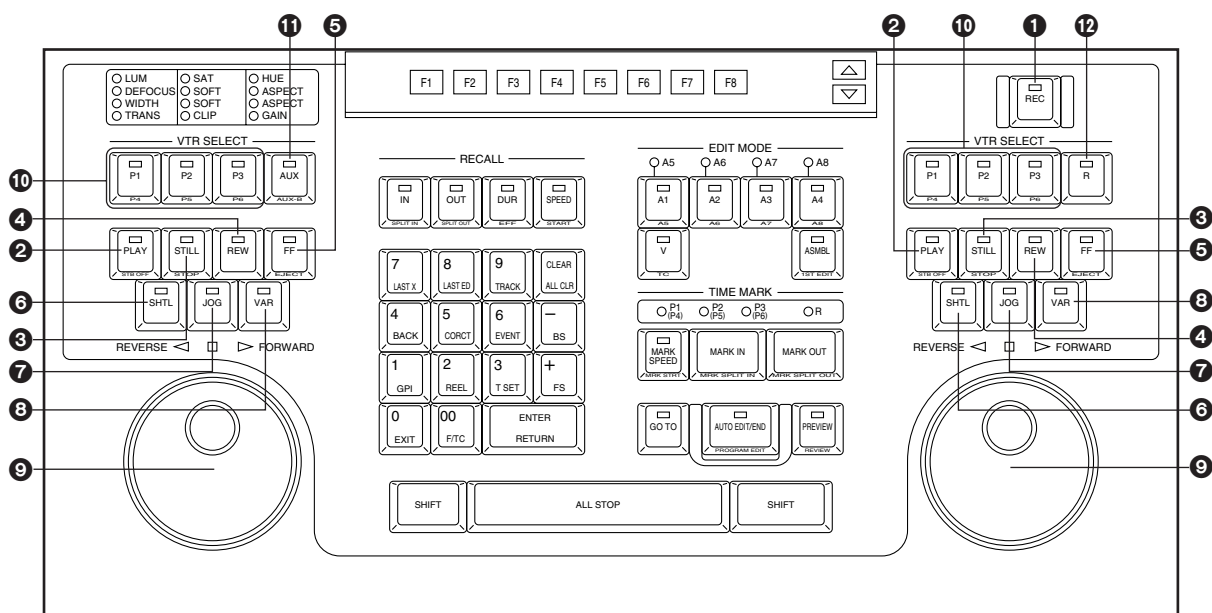
⑨ サーチダイヤル

走行速度を調整しながら、編集点の映像を探するときなどで使います。ダイヤルには SHTL / JOG / VAR モードがあり、対応するボタンを押すごとに切り替わります。

SETUP (BASIC) の「サーチダイヤルのセットアップ」(96 ページ) で各モードの最大スピードの設定ができます。(VTR・ディスクのタイプによって可能な範囲は異なります)

各部の名称と機能

VTR 操作/VTR ソース選択部



VTR ソース選択部

⑩ P1 / P4、P2 / P5、P3 / P6 ボタン

編集設定を行ったり、VTR 操作部でコントロールする VTR を選択します。

P4 ~ P6 は、ENTER ボタンを押しながら選択します。

⑪ AUX / AUX-B ボタン

編集設定を行う補助ソース (AUX) が選択されます。

AUX-B は、SHIFT ボタンを押しながら選択します。

< ノート >

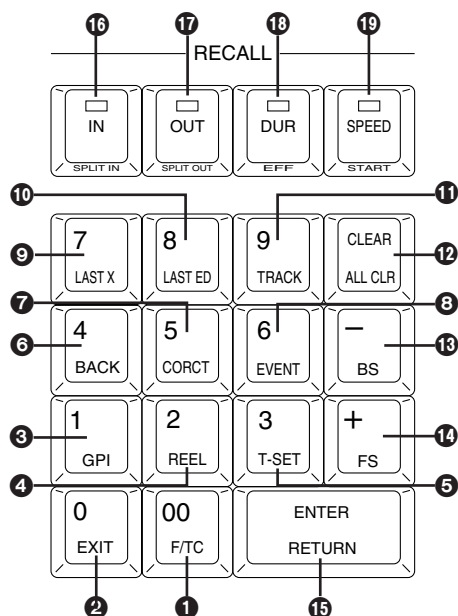
AUX-B では「AUX 2」「BG (BKGD)」「CB (COLOR BAR)」のうち「BG MATTE 設定」で選んだソースが選択されます。

⑫ R ボタン

レコーダの編集設定を行ったり、VTR 操作部でレコーダを操作するとき、押します。

各部の名称と機能

編集操作部

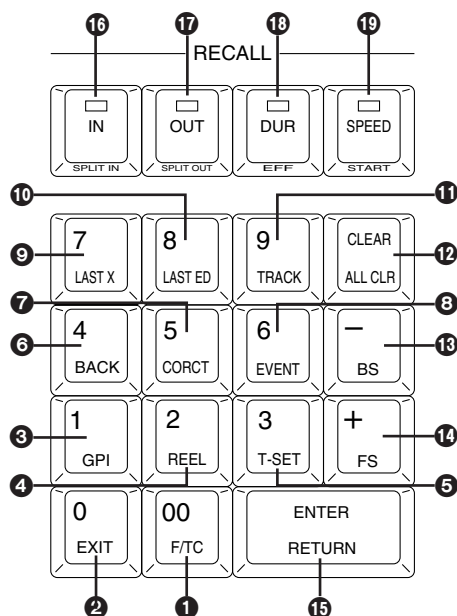


数値入力ボタン

- ① [00] / F/TC ボタン
数字の00を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、数値を入力するときタイムコードで入力するかフレームで入力するかを切り換えます。
- ② [0] / EXIT ボタン
数字の0を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、編集点などの入力データを破棄して、入力操作を終了します。
- ③ [1] / GPI ボタン
数字の1を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、GPIに出力するタイミングを設定できます。
- ④ [2] / REEL ボタン
数字の2を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、リール番号を入力できます。
- ⑤ [3] / T SET ボタン
数字の3を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、TC インサート編集などでタイムコード (TCG) の初期値を設定します。
- ⑥ [4] / BACK ボタン
数字の4を入力するときに使用します。
IN/OUT/DUR ボタンを押した後に SHIFT ボタンと同時に押すと、IN 点/OUT 点/DUR 時間をスクラッチパッドに表示します。
- ⑦ [5] / CORCT ボタン
数字の5を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、EDL メモリーの登録済みの編集データを更新します。
- ⑧ [6] / EVENT ボタン
数字の6を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、イベント番号を更新することができます。
- ⑨ [7] / LAST X ボタン
数字の7を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、一度修正した編集点データを元に戻します。
- ⑩ [8] / LAST ED ボタン
数字の8を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、編集データを以前レビュー編集したデータに戻します。
- ⑪ [9] / TRACK ボタン
数字の9を入力するときに使用します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、タイムトラック処理を行います。

各部の名称と機能

編集操作部

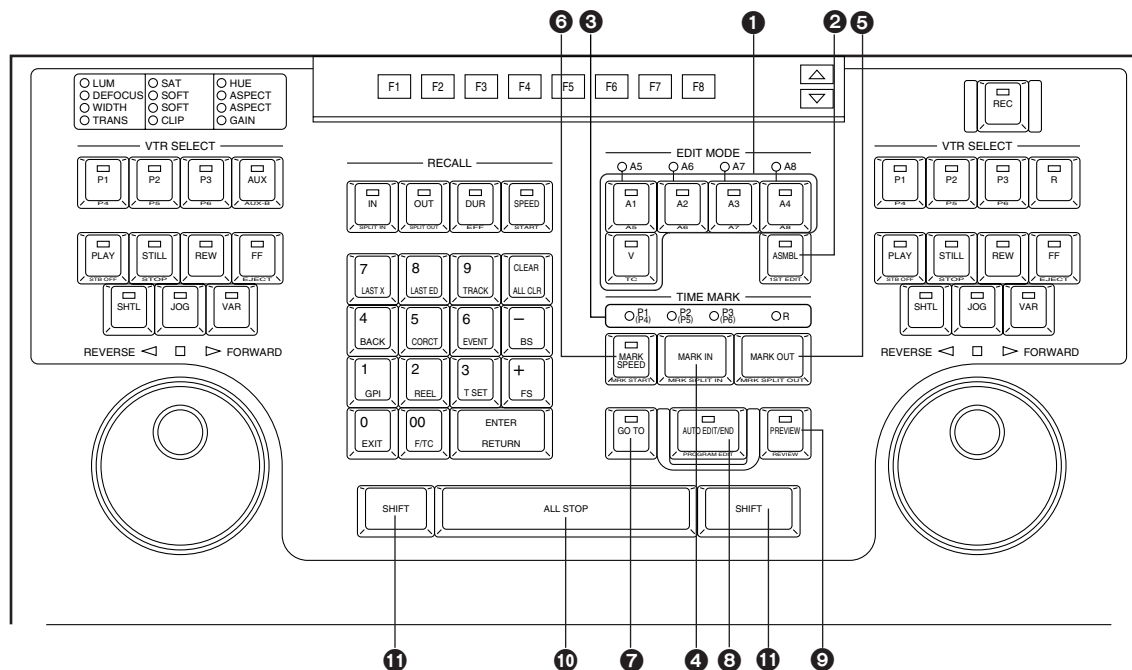


編集設定部

- 12** CLEAR / ALL CLEAR ボタン
データ等を消去するときに使います。
SHIFT ボタンと一緒に押すと、現在のイベント（1 イベントのみ）の全データを消去します。（編集モード設定は除きます）
- 13** [-] / BS ボタン
データを減算修正します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、一つ前のイベントに戻します。
- 14** [+] / FS ボタン
データを加算修正します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、一つ後のイベントに進みます。
- 15** ENTER / RETURN ボタン
数値入力ボタンで数字を入力した後、確定のために押します。
SHIFT ボタンと同時に押すと、入力データを破棄して登録作業を終了します。
- 16** IN / SPLIT IN (イン/スプリットイン) ボタン
数値入力ボタンを用いてIN点の登録や修正ができます。
SHIFT ボタンと同時に押すと、オーディオスプリットのIN点の登録や修正ができます。
- 17** OUT / SPLIT OUT (アウト/スプリットアウト) ボタン
数値入力ボタンを用いてOUT点の登録や修正ができます。
SHIFT ボタンと同時に押すと、オーディオスプリットのOUT点の登録や修正ができます。
- 18** DUR / EFF (デュレーション/エフェクト) ボタン
数値入力ボタンを用いてデュレーションの登録や修正ができます。
SHIFT ボタンと同時に押すと、ワイプ、ディゾルブが選択されている場合は、A列のプレーヤーのOUT点とB列のプレーヤーのIN点を表示します。
- 19** SPEED / START (スピード/スタート) ボタン
通常再生スピードを100%として数値入力ボタンを用いて設定できます。
SHIFT ボタンと同時に押すと、[TOTAL]で表示するタイムコードのスタート値を登録できます。

各部の名称と機能

編集操作部



編集モード設定部

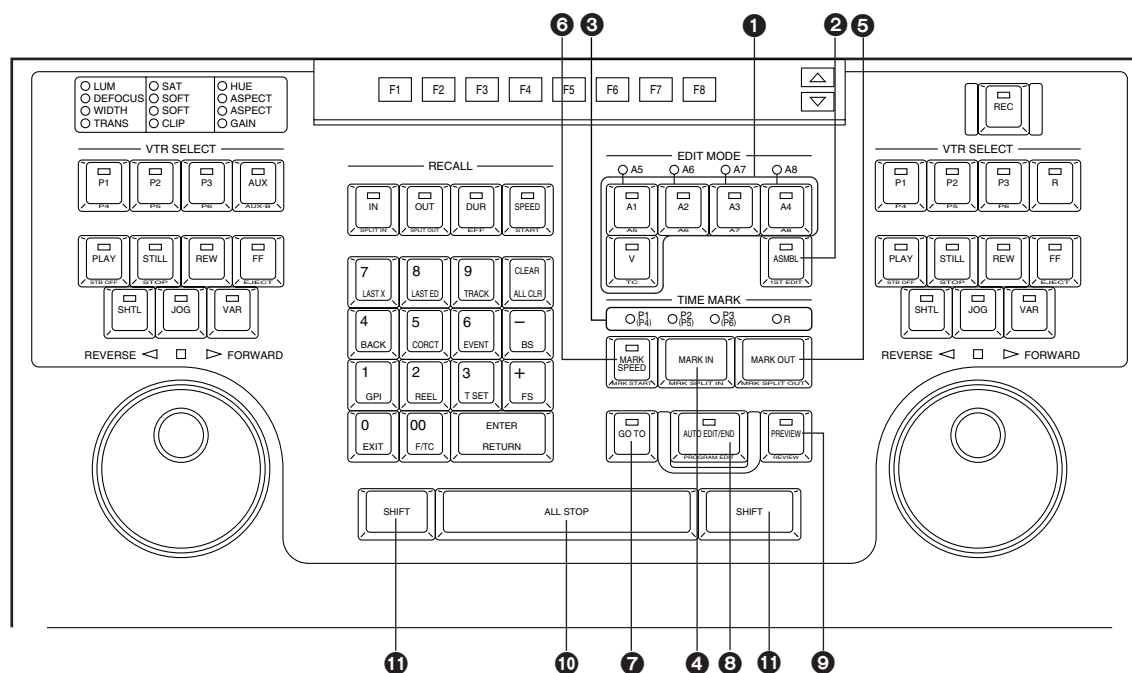
- 1** A1 / A5 ~ A4 / A8、V / TC
インサート編集を行うとき、ボタンを押して点灯させます。同じボタンを2度押すと消灯します。TC以外は重複して点灯させることが可能です。アッセンブル編集ランプが点灯している場合は、アッセンブルを解除してから押してください。
A1 ~ A8 : オーディオチャンネル1 ~ 8のインサート
V : ビデオのインサート
TC : タイムコードのみのインサート
- 2** ASMBL / 1ST EDIT (アッセンブル / ファーストエディット) ボタン
アッセンブル編集をするとき押して点灯させます。再度押すと解除できます。
インサートモードにしているときは、解除してからボタンを押してください。
SHIFT ボタンを押しながら操作するとアッセンブル編集用テープのプリロール部分の記録を行うモード (ファーストエディット) になります。

自動編集操作部

- 3** P1 / P2 / P3 / R (プレーヤー、レコーダ) ランプ
VTR SELECT 部で選択したVTRに対応するランプが点灯します。([P1] [P2] [P3]の点滅は、それぞれ[P4] [P5] [P6]を表します)
データの設定や修正は、ランプの点灯しているVTRに対して有効となります。
- 4** MARK IN / MRK SPLIT IN (マークイン / マークスプリットイン) ボタン
タイム表示部に表示されている数値を、IN点として登録する場合押します。
SHIFT ボタンを押しながら操作するとスプリットのIN点を登録できます。
- 5** MARK OUT / MRK SPLIT OUT (マークアウト / マークスプリットアウト) ボタン
タイムカウンターに表示されている数値を、OUT点として登録する場合押します。
SHIFT ボタンを押しながら操作すると、スプリットのOUT点を登録できます。
オープンエンド編集でプレビュー中に押すと、OUT点を登録して、中止します。

各部の名称と機能

編集操作部



6 MARK SPEED / MRK STRT (マークスピード/マークスタート) ボタン
スローモーションを試行中にこのボタンを押すと、現在走行中のスピードを登録することができます。SHIFT ボタンを押しながら操作すると、編集開始情報を登録できます。トータル時間は、ここを起点に計算されます。

7 GO TO (ゴーツー) ボタン
IN、OUT、EFF ボタンを押した後このボタンを押すと、指定部を頭出しします。
指定無しで押すと、TIME MARK 部で点灯している VTR の IN 点を頭出しします。

8 AUTO EDIT/END / PROGRAM EDIT (オートエディット/エンド/プログラムエディット) ボタン
自動編集をするとき押します。
再度押すと OUT 点を登録して中止します。
SHIFT ボタンを押しながら操作すると、マルチイベント編集を行います。
編集中はランプが点灯します。

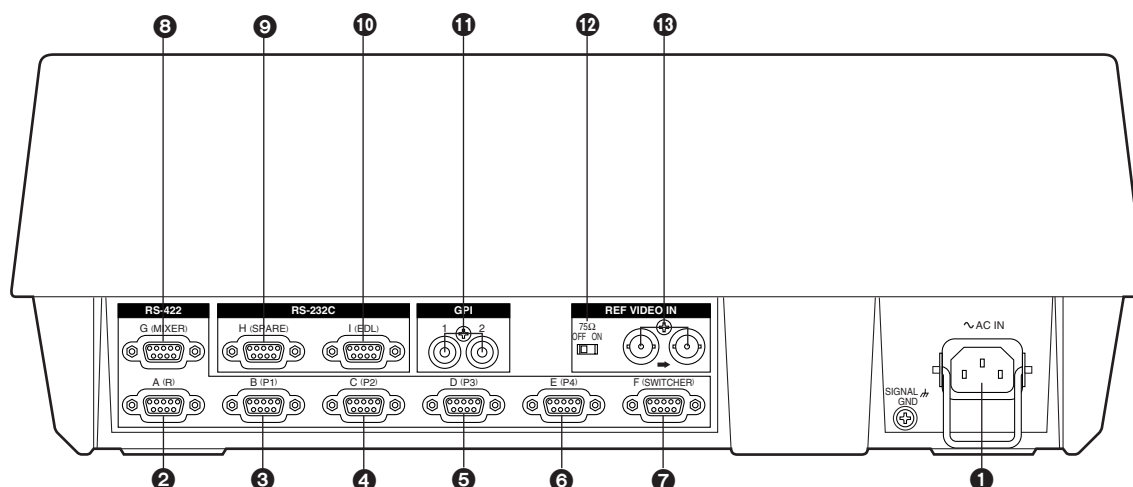
9 PREVIEW / REVIEW (プレビュー/レビュー) ボタン
編集のリハーサルを行うことができます。
SHIFT ボタンを押しながら操作すると、編集結果を確認できます。プレビュー中はランプが点灯し、レビュー中はランプが点滅します。

10 ALL STOP (オールストップ) ボタン
全ての VTR を停止します。
編集中は編集を中止しますが、OUT 点は登録されません。登録して編集を中止する場合は、AUTO EDIT/END ボタンを使用します。

11 SHIFT (シフト) ボタン
このボタンを押しながら他のボタンを操作すると、それぞれのボタン側面(数値入力部は中央下)に表示している機能が有効になります。

各部の名称と機能

コネクターパネル部



RS-422 端子はスイッチャー、ミキサー端子に VTR を接続することも可能です。その場合、最大 7 台の VTR の制御が可能です。

また、P3、P4 等のプレーヤーを記録機に設定し、レコーダと同期して編集動作をさせることも可能です。

これらの設定は、「ポート、ディレイの拡張セットアップ」(103 ページ)で行います。

① AC 電源端子 (R)

付属の電源コードを接続して、AC100V の電源に接続します。

RS-422 端子

② ポート A (R)

基本的にはレコーダ VTR を接続します。

③ ポート B (P1)

④ ポート C (P2)

⑤ ポート D (P3)

⑥ ポート E (P4)

基本的にはプレーヤー VTR を接続します。

⑦ ポート F (SWITCHER)

基本的には、ビデオスイッチャー、DVE 等を接続します。

⑧ ポート G (MIXER)

基本的には、オーディオミキサーを接続します。
本機は、RS-232C 制御のミキサーには対応しておりません。

RS-232C 端子

⑨ ポート H (SPARE)

現在使用していません。

⑩ ポート I (EDL)

パーソナルコンピューターや AG-A850、AJ-A900 の RS-232C 端子へ接続し、EDL (編集データ) の転送、受入を行います。

接続ケーブルは、クロス (インターリンクケーブル) を用いてください。

⑪ GPI (General Purpose Interface/ジーピーアイ) 出力端子

GPI 1 と GPI 2 は、独立して設定できます。

GPI 1 は、1 回の編集で 2 か所のパルスを発生できます。

⑫ 75 Ω ON/OFF スイッチ

⑩ の REF 信号をループでつながらないとき (出力をオープンで使うとき) ON 側に設定します。

⑬ REF (リファレンス) 入力

編集精度が必要なシステムでは、外部基準信号 (ブラックバーストやカラーバー) を入力します。

HD システム用に 3 値シンクを入力できます。入出力は、ループスルー (直結) になっています。

システム接続

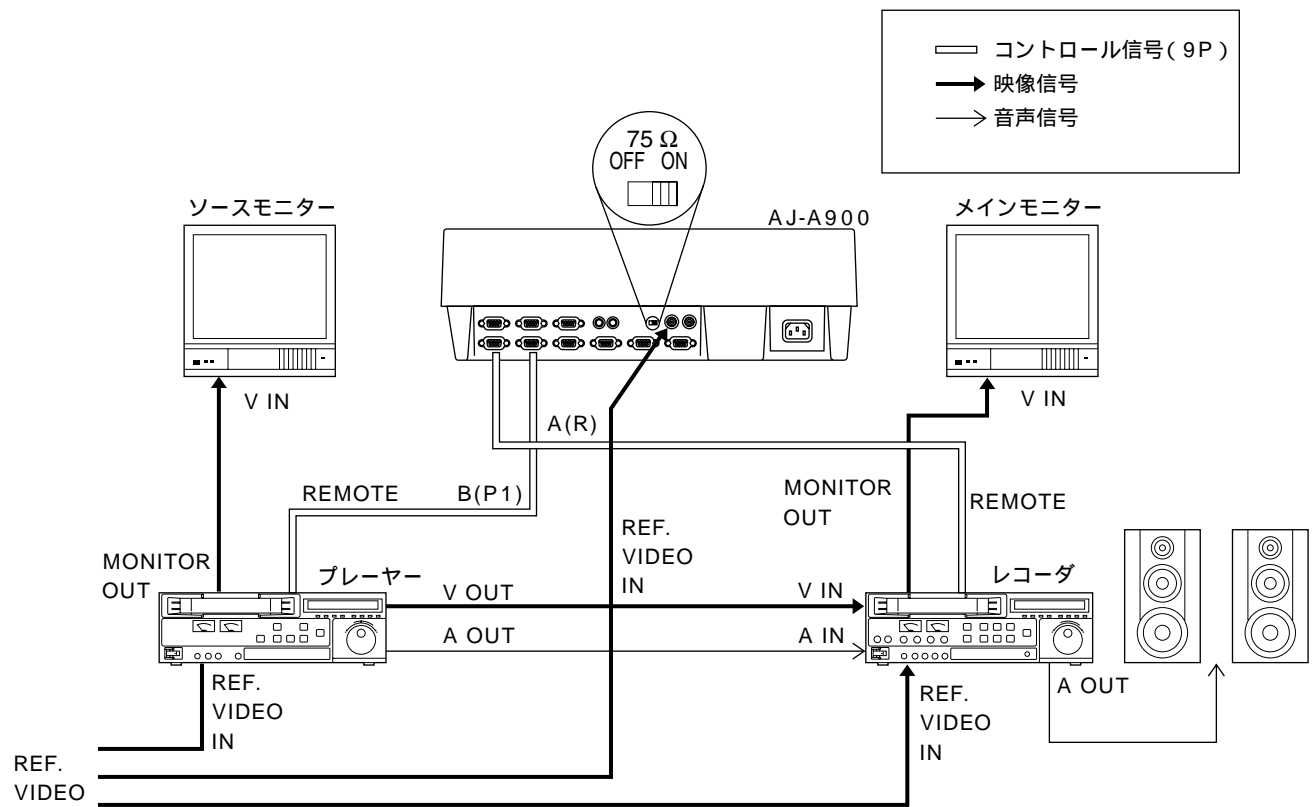
AJ-A900には、9ピンリモートコントロールができるVTRのほか、ビデオスイッチャーなどを接続して編集を行うことができます。

ここでは、代表的なシステムの接続例を4つ説明します。

1. プレーヤー、レコーダ各1台を使ったカット編集システム
2. プレーヤー4台と、レコーダ1台を使ったA/Bロール編集システム
3. プレーヤー2台と、レコーダ3台を使ったマルチレコーダA/Bロール編集システム
4. プレーヤー2台とレコーダ1台、HDマルチフォーマットデジタルスイッチャーAJ-HSW900を使ったHD編集システム

*接続できる機種に関しては、巻末の定格をご覧ください。その他の対応機種については、お買い求めになられました販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

プレーヤー、レコーダ各1台を使ったカット編集システム

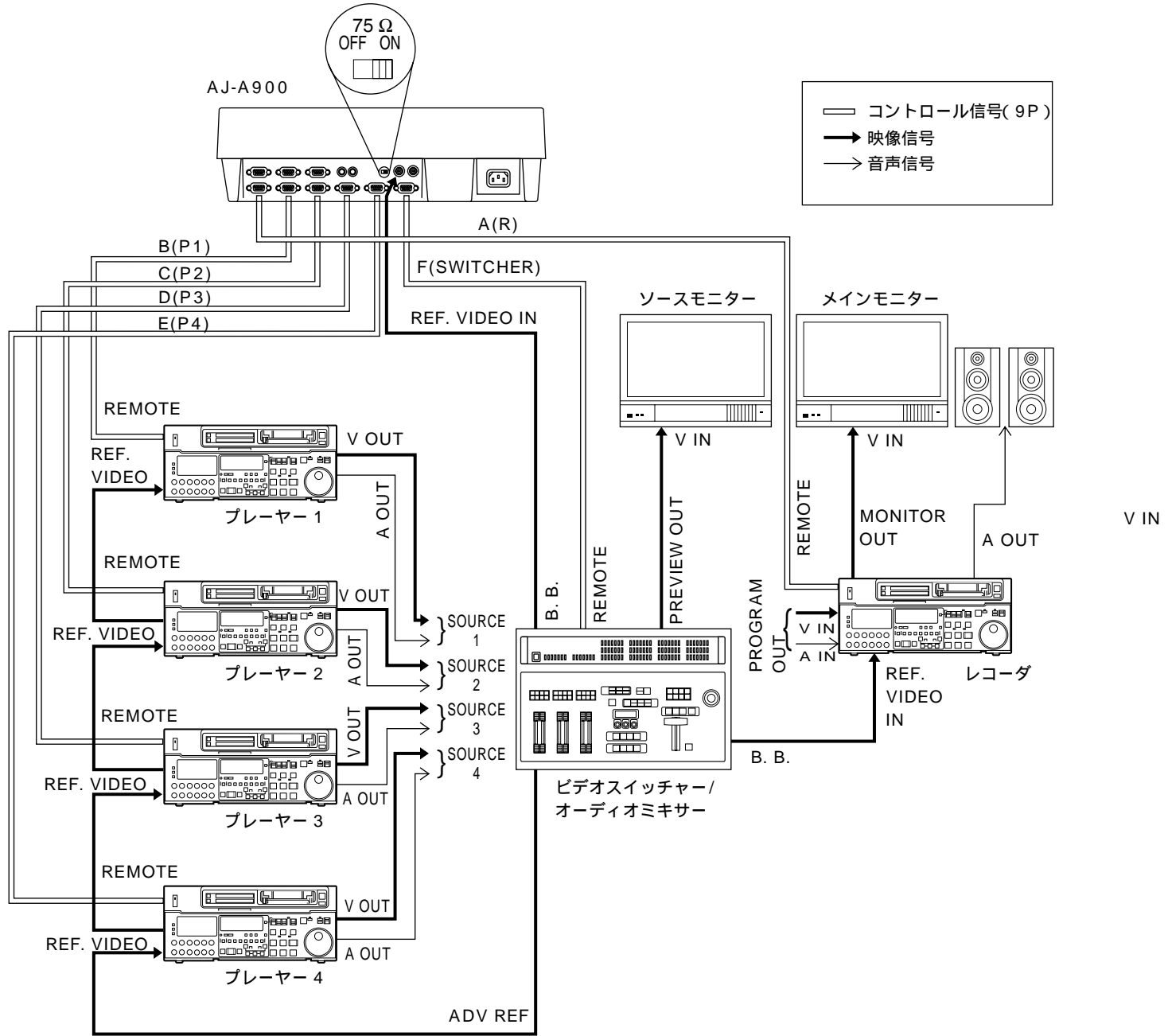


編集コントローラAJ-A900のREF. VIDEOは必ず接続してください。

レコーダVTRのREF. VIDEOに入力する信号は、使用するVTRによって変わることがあります。詳しくは、VTRの取扱説明書をご覧ください。

システム接続

プレーヤー 4 台と、レコーダ各 1 台を使った A / B ロール編集システム



REF. VIDEO は終端になる VTR の 75 Ω スイッチを ON し、その他の VTR の 75 Ω スイッチは OFF にしてください。

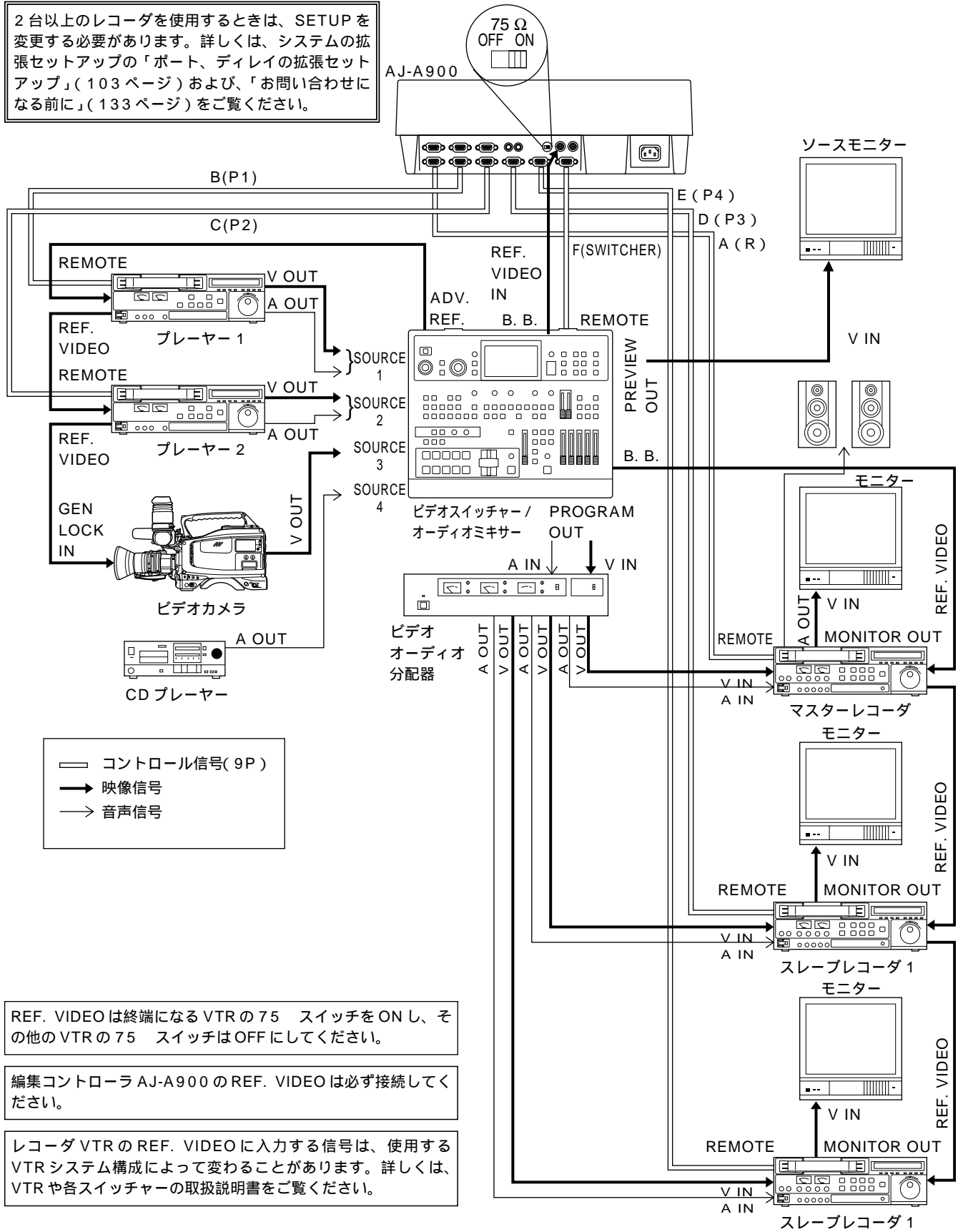
編集コントローラ AJ-A900 の REF. VIDEO は必ず接続してください。

レコーダ VTR の REF. VIDEO に入力する信号は、使用する VTR によって変わることがあります。詳しくは、VTR の取扱説明書をご覧ください。

システム接続

プレーヤー 2 台と、レコーダ 3 台を使ったマルチレコーダ A / B ロール編集システム

2 台以上のレコーダを使用するときは、SETUP を変更する必要があります。詳しくは、システムの拡張セットアップの「ポート、ディレイの拡張セットアップ」(103 ページ) および、「お問い合わせになる前に」(133 ページ) をご覧ください。



———— コントロール信号(9P)
 —————▶ 映像信号
 —————▶ 音声信号

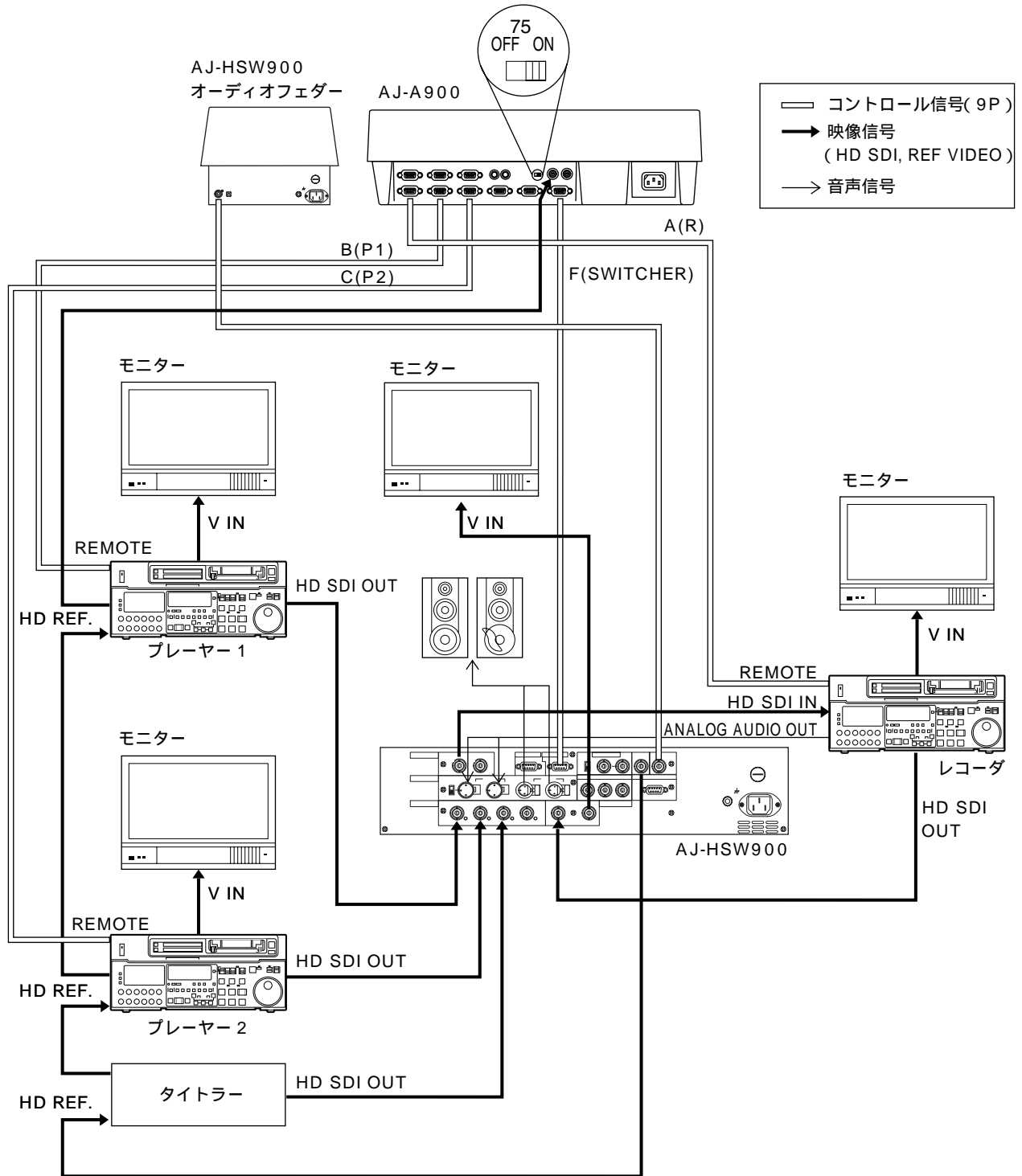
REF. VIDEO は終端になる VTR の 75 Ω スイッチを ON し、その他の VTR の 75 Ω スイッチは OFF にしてください。

編集コントローラ AJ-A900 の REF. VIDEO は必ず接続してください。

レコーダ VTR の REF. VIDEO に入力する信号は、使用する VTR システム構成によって変わることがあります。詳しくは、VTR や各スイッチャーの取扱説明書をご覧ください。

システム接続

プレーヤー 2 台とレコーダ 1 台、HD マルチフォーマットデジタルスイッチャー AJ-HSW900 を使った HD 編集システム



REF. VIDEO は終端になる VTR の 75 スイッチを ON し、その他の VTR の 75 スイッチは OFF にしてください。

編集コントローラ AJ-A900 の REF. VIDEO は必ず接続してください。

システム設定

システム接続が終わりましたら、編集を始める前に VTR やスイッチャーなどの設定を行ってください。ここでは、一般的な設定項目についてご説明します。

1) プレーヤー VTR の設定

- テープのトラッキング調整
- 再生時の音声出力レベル調整
- CONTROL スイッチを REMOTE (9P) 側に設定してください。
- カラーフレーミング編集を行うときは、CF スイッチを ON 側に設定してください。

[ご参考]

機種固有の設定については、「VTR・スイッチャーの設定」(119 ページ)をご覧ください。

2) レコーダ VTR の設定

- テープのトラッキング調整
[通常は、FIX の位置にしてください]
- 記録時の映像・音声入力レベル調整
- 映像・音声の INPUT スイッチの設定
[信号が入力される端子に設定してください]
- タイムコードジェネレーターの設定
[INT、PRESET、FREE RUN]
- レコーダ VTR が 2 台以上のシステムでは、スレーブレコーダ側のテープはマスターレコーダ側のテープと同じもの(タイムコードの値、DF/NDF)をご用意ください。
- CONTROL スイッチを REMOTE (9P) 側に設定してください。
- カラーフレーミング編集を行うときは、CF スイッチを ON 側に設定してください。

[ご参考]

機種固有の設定については、「VTR・スイッチャーの設定」(119 ページ)をご覧ください。

3) スイッチャー・ミキサーの設定

- ビデオスイッチャーの通信条件の設定
[BAUDRATE = 38400 b/s、LENGTH = 8 bit、PARITY = ODD、STOP = 1 bit]
- オーディオミキサーの通信条件の設定
[BAUDRATE = 38400 b/s、LENGTH = 8 bit、PARITY = EVEN、STOP = 1 bit]
- リモートスイッチがある機種は、リモート可能にしてください。

[ご参考]

機種固有の設定については、「VTR・スイッチャーの設定」(119 ページ)をご覧ください。

4) AJ-A900 の設定

- SETUP モードで、ご使用になるシステムの設定を行ってください。詳しくは「セットアップ一覧」(86 ページ)をご覧ください。
- CONFIG モードで、VTR ごとにご使用になるテープの基準を設定してください。詳しくは「セットアップ一覧」(86 ページ)をご覧ください。
(通常は、LTC/VITC にします。ご使用になるテープのタイムコードが LTC と VITC とで異なっているときは、LTC にしてください)
- 表示時間の選択を VTR ごとに行ってください。
[TC/CTL]

5) システムの調整

ビデオスイッチャーの入力にフレームシンクロナイザ機能がない場合は、より完成度の高い編集を行うために、次の調整を行ってください。

- VTR ごとの TBC の調整
(VIDEO LEVEL, SYNC LEVEL, BURST LEVEL, CHROMA LEVEL, HUE)
- システム位相の調整
(H PHASE, SC PHASE, VIDEO PHASE)

メニュー一覧

本機のメニュー一覧です。

HOME

基本メニューです。特殊効果のタイプ選択、データ入力などを行います。

- CUT …… カット編集を行うときに、選択します。
- DISS …… ディゾルブ編集を行うときに、選択します。
 - TRANS : トランジションタイムの設定を行います。
- WIPE …… ワイプ編集を行うときに、選択します。
 - TRANS : トランジションタイムの設定を行います。
 - PATTERN : ワイプパターンを選択します。
 - EFF : ワイプパターンの境界幅、エッジのぼかし、縦横比の設定を行います。
 - MATTE : ワイプパターンの境界線の明るさ、色の濃さ、色合いの設定を行います。
- MOSAIC …… モザイク編集を行うときに、選択します。
 - PATTERN : マスクパターンを選択します。
 - EFF : マスクのぼかし、縦横比の設定を行います。
 - POS : マスク位置の設定を行います。
- KEY …… キー編集を行う時に、選択します。
 - EDGE : エッジパターンを選択します。
 - CUT : キー信号のクリップ、ゲインの調整を行います。
 - MATTE : エッジの明るさ、色の濃さ、色合いの設定を行います。
- BASE …… スプリット編集の基準を選択します。
- BG MATTE …… バックグラウンド色の明るさ、色の濃さ、色合いの設定を行います。[AUX-B] ボタンで選択されるソースも選べます。
- DISS KEY …… キー編集にディゾルブ効果を加えるときに選択します。
 - TRANS : トランジションタイムの設定を行います。
- WIPE KEY …… キー編集にワイプ効果を加えるときに選択します。
 - TRANS : トランジションタイムの設定を行います。
 - PATTERN : ワイプ効果のパターンを選択します。

FUNC

特殊操作を行うメニューです。

- FIT …… フィット処理を実行します。
- GPI …… GPI の出力タイミングを設定します。
 - GPI1 : GPI1 の出力タイミングを設定します。
 - GPI2 : GPI2 の出力タイミングを設定します。
- VAR CLEAR …… バリアブルスピードの記録をクリアします。
- TC SET …… TC インサート編集で、記録する TC の開始点を設定します。
- SERVER …… サーバーの情報を表示するとき選択します。

SW'ER

外部スイッチャーの設定を行うメニューです。

- MATTE …… バッググラウンド色、ワイプパターン境界色、キーエッジ色のプリセット値を設定します。
- EFF …… モザイクとワイプ、キーの境界効果のプリセット値を設定します。
- SETUP …… スイッチャーとミキサーの動作環境を設定します。
 - SWITCHER SETUP : スイッチャーの動作環境を設定します。
 - MIXER SETUP : ミキサーの動作環境を選択します。

EDL

EDL 管理を行うメニューです。

SETUP

動作設定を行うメニューです。メニュー構成については、「セットアップ一覧」(86 ページ)を参照してください。

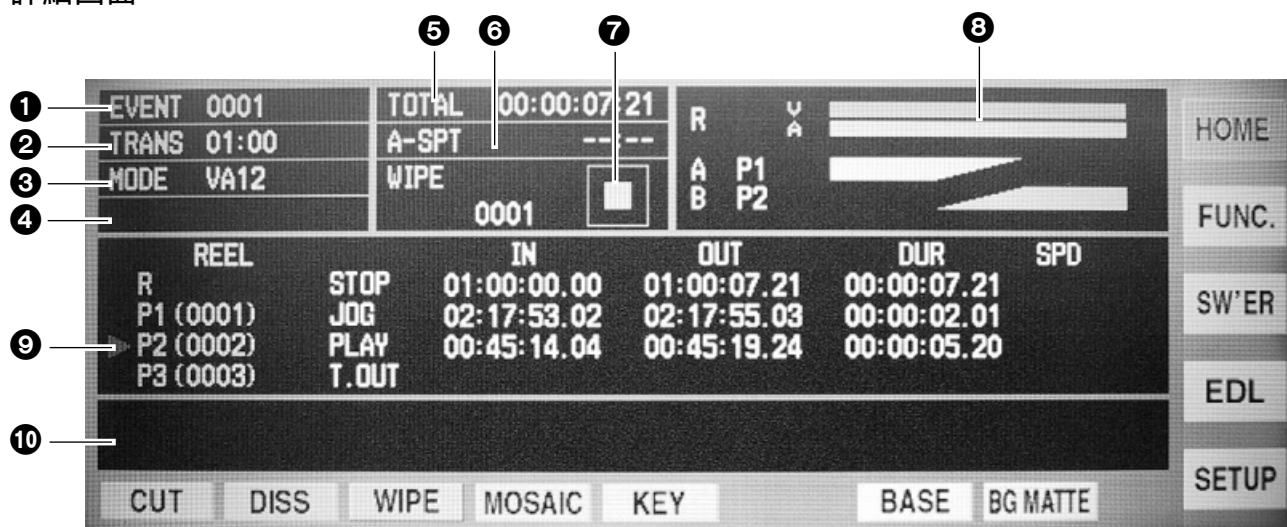
HOME メニュー

HOME メニューは、詳細画面と簡易画面の2種類の画面を持っています。[ENTER] を押しながら [F13 (HOME)] を押すことで、2つの画面の切替が可能です。また、SETUP メニューで、電源投入時の初期画面が設定できます。

< ノート >

長時間ボタン入力が行われない場合、スクリーンセーバー機能が働いて液晶画面の表示が消されます。どれかボタンを押すと再び表示されます。スクリーンセーバー機能が働くまでの時間は「画面表示のセットアップ」(97 ページ)の SLEEP DISPLAY で設定することができます。

詳細画面



① EVENT 情報表示

イベント(レコーダが1回記録する単位)の番号を表示します。特別に入力しない限り、0001から順に繰り上がります。新規イベントの際にはNEWと表示されます。またイベント管理を行わないモードに設定することもできます。その際の表示はSINGLE EVENTとなります。

② TRANS 情報表示

ディゾルブ、ワイプを行うときの、効果開始から終了までの時間を表示します。

③ エディットモード表示

選択した編集モードを表示します。

V : ビデオのインサート
A12345678 : オーディオチャンネル 1、2、3、4、
5、6、7、8のインサート
ASSEMBLE : アッセンブルモード
FIRST EDIT : ファーストエディットモード
TC INSERT : TCインサートモード

④ ステータス表示

EDIT、PREVIEWなど、現在実行中の動作を表示します。

⑤ TOTAL 情報表示

最初の編集前に[MARK START (SHIFT + MARK SPEED)]を押しておくで、現在までの記録の合計時間を表示します。設定しない場合はメニューで設定したTC、または最初のレコーダIN点を基準とします。

⑥ SPLIT 情報表示

SPLIT IN点の設定値を相対値で表示します。見出しが“A-SPT”の時はオーディオスプリット(ビデオの編集点を基準にします)、“V-SPT”のときはビデオスプリット(オーディオの編集点を基準にします)が設定されていることを示します。

⑦ 特殊効果表示

現在イベントの設定されている特殊効果を表示します。選択されたワイプパターン、モザイクのマスクパターンなどもこの欄に表示されます。

⑧ グラフィック表示

現在イベントの設定状況を示すグラフィックが表示されます。

⑨ ソースデータ表示

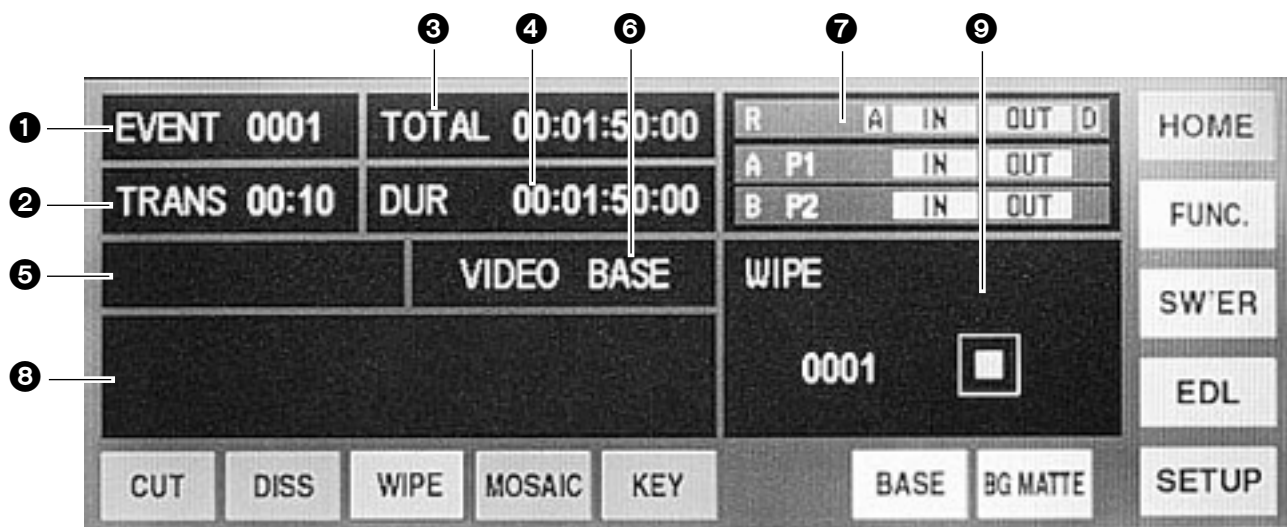
レコーダとプレーヤーの情報が表示されます。

⑩ スクラッチパッドエリア

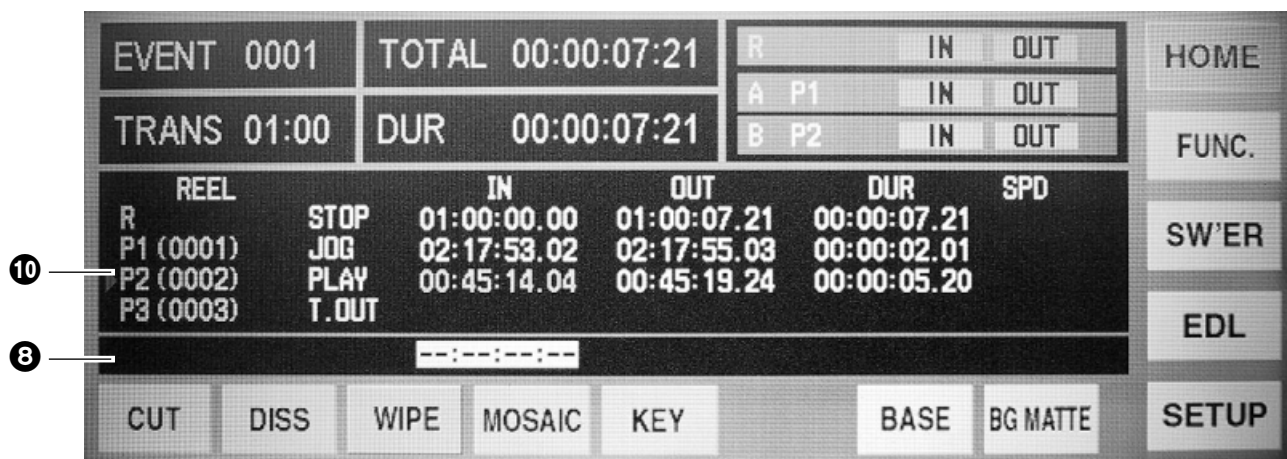
入力した数値データ、エラーメッセージなどが表示されます。

HOMEメニュー

簡易画面



IN点、OUT点などのソースデータを入力する場合、以下のように表示が変化します。



- ① EVENT 情報表示 (詳細画面と同様)
- ② TRANS 情報表示 (詳細画面と同様)
- ③ TOTAL 情報表示 (詳細画面と同様)
- ④ DUR 情報表示
現在実行中のイベントの記録時間 (区間長) を表示します。
- ⑤ ステータス表示 (詳細画面と同様)
- ⑥ ベース表示
スプリット設定がビデオの編集点を基準とするか (VIDEO BASE)、オーディオの編集点を基準とするか (AUDIO BASE) を表示します。
- ⑦ 編集点設定状態表示
レコーダ、プレーヤーのIN点、OUT点、スプリットの設定状態を表示します。
- ⑧ スクラッチパッドエリア (詳細画面と同様)
- ⑨ 特殊効果表示 (詳細画面と同様)
- ⑩ ソースデータ表示 (詳細画面と同様)

HOME メニュー

ソースデータ表示

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
R	STOP	IN	OUT	DUR	SPD	N	M	+		
P1	STBOF (0001)	00:00:50:00	01:00:42.00	01:00:47.00.	00:00:19:11	00:00:05.00	+110	N	M	+
P2	STBOF (0001)	00:00:30:00	00:00:45.25	00:00:14:11.				N	S	
P3	**** (0001)									

① ソース選択マーク

選択されたソースの左側に表示されます。

② ソース名表示

R : レコーダ
P1 ~ P6 : プレーヤー 1 ~ プレーヤー 6
AX、AX 2 : 補助ソース、補助ソース 2
BKGD : バックグラウンド (マットカラー)
CB : カラーバー

③ ステータス表示

動作状態を表示します。

表示	状態
CUE	テープの頭出し中 (CUE-UP)
EDIT	編集集中
EE	E to E モード
EJECT	カセットの取り出し中
EPLAY	エディットプレー中
FF	早送り中
JOG	ジョグモード
LOCAL	VTR の CONTROL が LOCAL になっている。
PLAY	再生中
REC	記録中
REW	巻き戻し中
SHTL	シャトルモード
STBOF	スタンバイオフモード
STILL	静止画出力中
STOP	停止中
SYNC	調相中
T.OUT	テープが装着されていない。
- 100 ~ + 300	VAR モード (数字は走行スピード)
****	VTR が接続されていない。

④ リールナンバー表示

4 桁のリールナンバーを表示します。サーバーが接続されているときは最大 8 文字のクリップ名が表示されます。(リールナンバーの設定方法については 63 ページを参照ください)

⑤ 編集 IN 点

編集の IN 点を時 : 分 : 秒 : フレームで表示します。秒とフレームの間の記号で VTR の状態がわかります。

: ノンドロップフレーム
. ドロップフレーム

またフレームの後の記号で、編集点の状態がわかります。

表示なし : 設定された編集点
. : 他の編集点から自動的に算出された編集点
' : タイムトラックで管理された編集点

⑥ 編集 OUT 点

編集の OUT 点を表示します。表示の形式は IN 点と同じです。

⑦ デュレーション

編集のデュレーションを表示します。表示の形式は IN 点と同様です。

⑧ スピード表示

編集またはプレビュー時に VTR が動作するスピードを表示します。VAR メモリが設定されているときは緑色で表示されます。

⑨ フレームコントロールモード表示

ドロップフレームの設定が本機と VTR 上のテープとで異なる時、VTR 上のテープのモードが表示されます。

D : ドロップフレーム
N : ノンドロップフレーム

⑩ マスタースレーブ表示

スレーブに設定された VTR が存在する場合に表示されます。

M : マスター
S : スレーブ

⑪ カラーフレーム表示

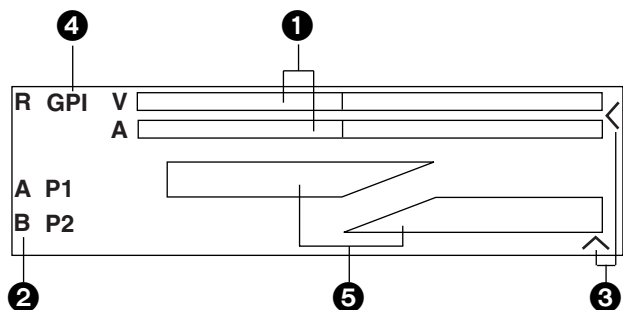
カラーフレーミング編集をするとき、プレーヤー側の IN 点にフレームシフト量を表示します。

表示なし : シフト量 0
+ : プラス 1 フレーム
@ : シフト量未確定
: プラス 2 フレーム (PAL 方式のみ)
- : マイナス 1 フレーム (PAL 方式のみ)

HOME メニュー

グラフィック表示 (詳細画面のみ表示)

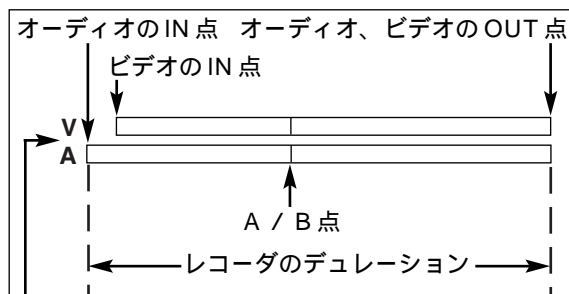
現在イベントがどのように設定されているかグラフィックによって確認できます。



① レコーダのデータ表示

レコーダにどのように信号が記録されているかを示します。グラフィックは左端はIN点、右端がOUT点を表しています。A / B ロール編集が設定されている場合はAロールとBロールの信号を色分けして示します。IN点、OUT点、A / B点 (特殊効果の開始点) において、ビデオ信号とオーディオ信号の位置が異なっていた場合、スプリット編集が設定されていることを示します。

下図はA / B ロール編集で、AUDIO-ADVANCEのスプリットが設定されている例です。



エディットモード
V : ビデオ信号
A : オーディオ信号

② ソース表示

AソースとBソースのVTRを示します。設定した特殊効果によって見出しが変化します。編集に使うリールナンバーがどのVTRにも設定されていない場合は# 1、# 2と表示されます。

- A : Aソース
- B : Bソース
- BG : BACKGROUND ソース
- FG : FOREGROUND ソース

③ エラー表示

OUT点の設定に誤りがあるときや、デュレーションが短く設定されているときなどに表示されます。

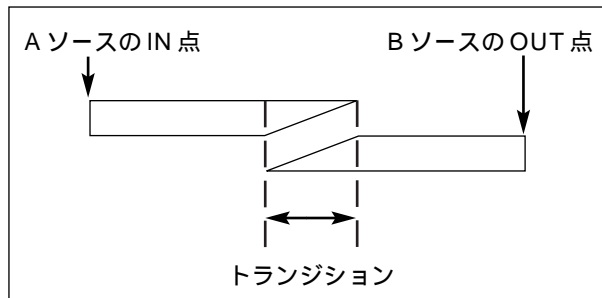
④ GPI表示

GPIが動作をするように設定されている場合、GPIの文字が表示されます。

⑤ ソースのデータ表示

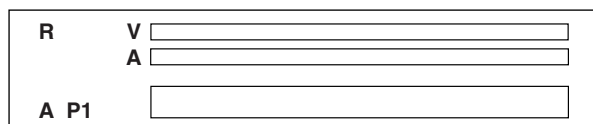
ソースの信号がどのように用いられるかを示します。選択した特殊効果によってグラフィックが異なります。特殊効果別のグラフィック表示については下図を参照してください。

A / B ロールの場合を例に示します。



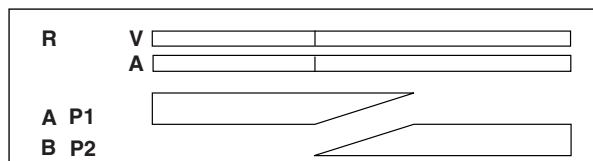
特殊効果別のグラフィック表示

(1) カット

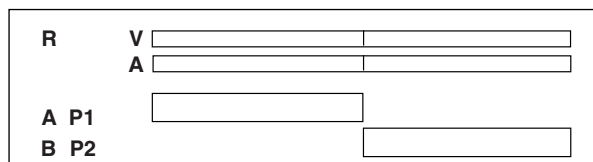


(2) ディゾルブ、ワイプ

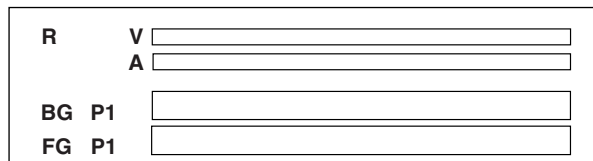
- トランジションが0でない場合



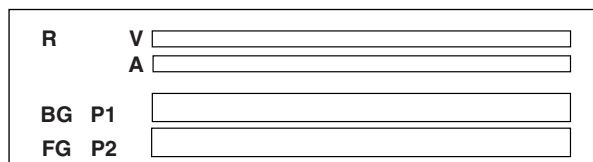
- トランジションが0の場合



(3) モザイク

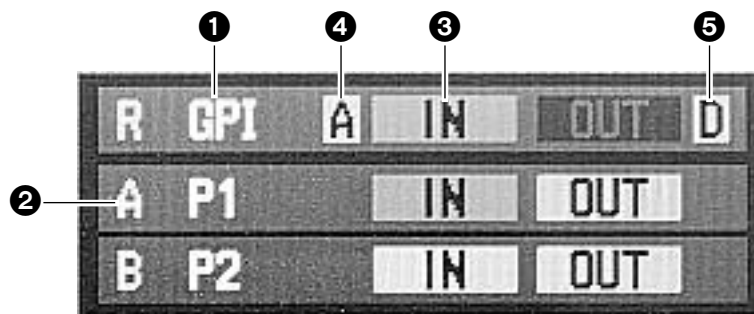


(4) キー



HOME メニュー

編集点設定状態表示（簡易画面のみ表示）



① GPI 設定表示

GPIが動作するように設定されている場合、GPIの文字が表示されます。

② ソース表示

設定した特殊効果によって見出しが変化します。

A : A ソース

B : B ソース

BG : BACKGROUND ソース

FG : FOREGROUND ソース

③ IN 点、OUT 点設定表示

IN 点、OUT 点が設定されている場合、表示欄が点灯します。表示色によって設定点の状態がわかります。

黄色：設定された編集点

緑色：他の編集点から自動的に算出された編集点

橙色：タイムトラックで管理された編集点

④ スプリット IN 設定表示

IN 側のスプリットが設定されているときのみ表示されます。

A : 設定された編集点がベースの編集点よりも前にあるとき、表示されます。

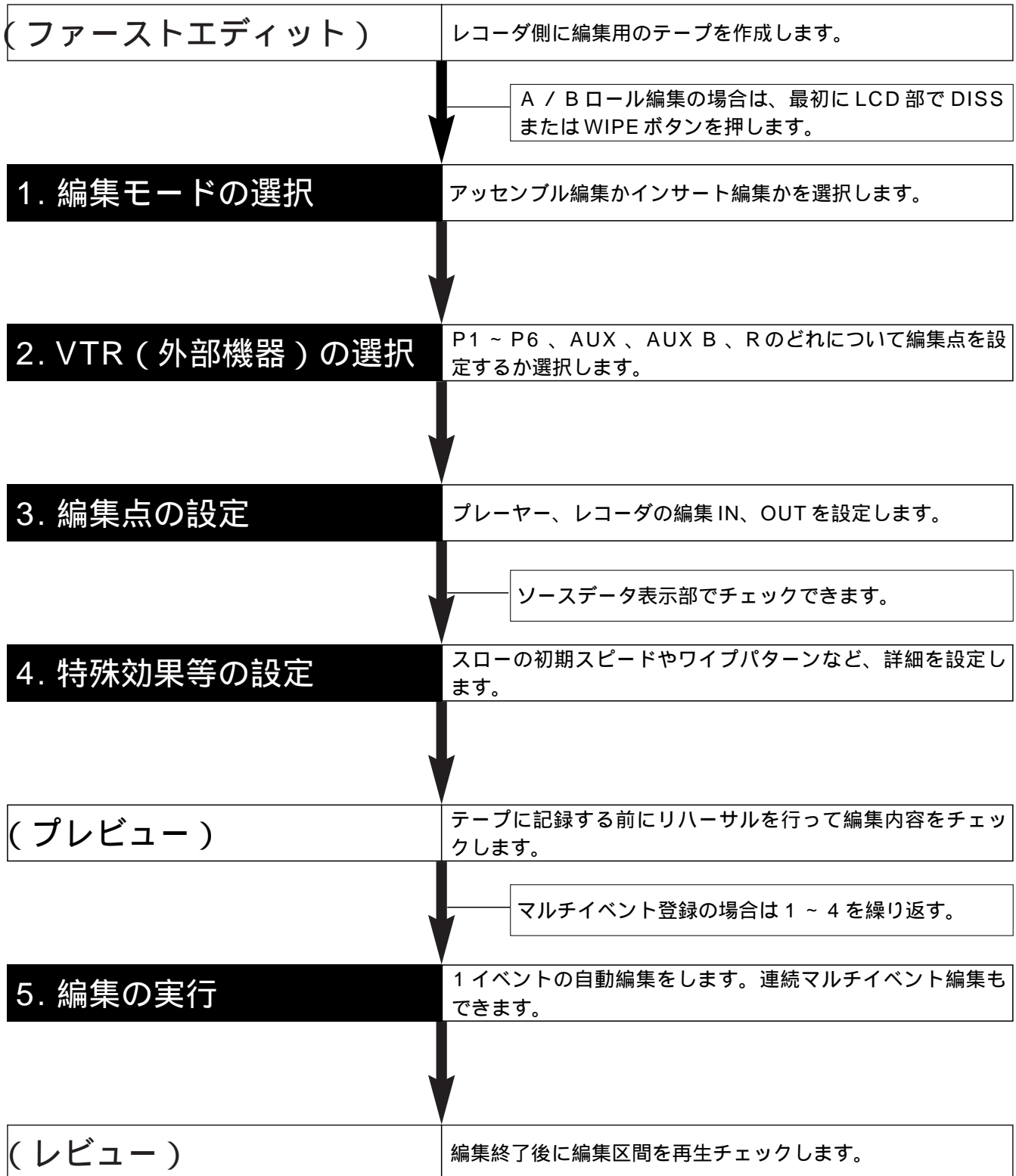
D : 設定された編集点がベースの編集点よりも後にあるとき、表示されます。

⑤ スプリット OUT 設定表示

OUT 点側のスプリットが設定されているときのみ表示されます。表示の形式は IN 点側と同様です。

編集操作の基本的な流れ

編集操作は、基本的に次の操作で行います。



カット編集の操作方法

次の例をもとに編集の基本であるカット編集について説明します。

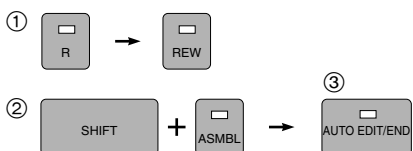
モード : アッセンブル編集またはインサート編集
 ソース : プレーヤー 1 IN : 00:08:32:09
 OUT : 00:08:58:18
 レコーダ : IN : 00:00:00:00
 OUT : 00:00:26:09 (自動計算)



(ファーストエディット) レコーダ側編集用のテープを作成します。
 レコーダの入力にカラーバー、ブラックバースト等を接続します。

アッセンブルモード

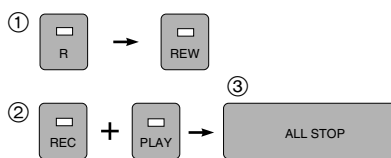
最初のイベントのレコーダ側IN点の前に、正常な映像信号を記録する必要があります。これは正常なプリロール動作のために必要です。



- ① 記録開始部の頭出しをします。
- ② [SHIFT] ボタンを押しながら [ASMBL] ボタンを押します。
- ③ [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。
 詳しくは、ファーストエディットをご覧ください。

インサートモード

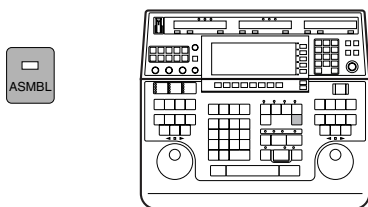
テープのフォーマットを行って、テープ全体に正常な映像信号を記録する必要があります。



- ① 記録開始部の頭出しをします。
- ② [REC] ボタンを押しながら、レコーダ操作部の [PLAY] ボタンを押します。
- ③ 編集を行う時間分、フォーマットできたら [ALL STOP] ボタンを押します。
- ④ テープを巻き戻し、頭出しします。
 (プリロール部を残しておいてください)

1. 編集モードの選択

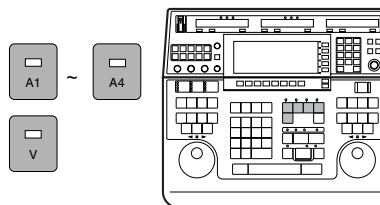
アッセンブル編集のモードを選択します。



編集設定部の [ASMBL] ボタンを押します。
 映像・音声・タイムコードを同時に記録します。
 [A1]~[A4] [V] 等のランプが点灯しているときは、該当ボタンを押して、全て消灯させてから [ASMBL] ボタンを押します。
 [V] のみの点滅はTCのインサートモードです。その場合も [SHIFT] と [V] ボタンを同時に押して消灯後設定します。
 設定の取り消しは、再度 [ASMBL] ボタンを押します。

1. 編集モードの選択

インサート編集のモードを選択します。



編集設定部の [A1]~[A4] (オーディオ) [V] (ビデオ) ボタンを押し、記録する信号を選択します。
 [ASMBL] ボタンが点灯している場合は、押して消灯後、選択します。
 設定の取り消しは、再度同じボタンを押します。

編集操作

カット編集の操作方法

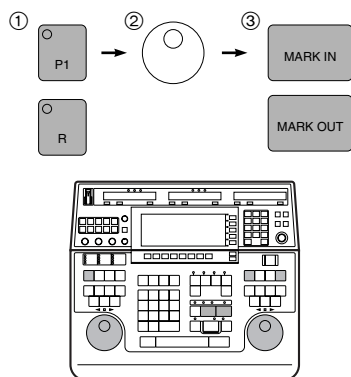
2. 特殊効果の選択

通常は特に操作しない場合、カット編集モードになっています。

3. 編集点の設定

下記 ABC の方法があります。

A. サーチダイヤルで編集画面を探し、MARK IN / OUT ボタンで設定する。

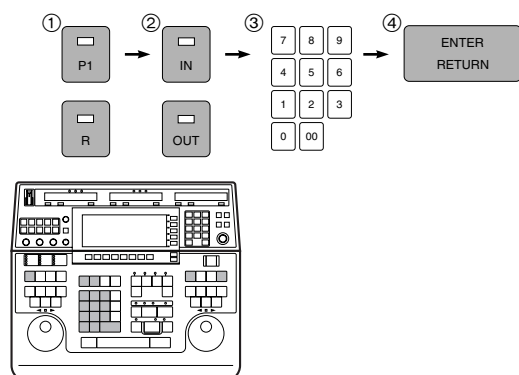


- ① VTR ソース選択部のボタンを押し、操作する VTR (P1) を選択します。
- ② サーチダイヤルを使い、シャトルまたはジョグサーチで編集点を探します。
- ③ 編集点で一時停止させた後、[MARK IN/OUT] ボタンを押すと編集 IN 点/OUT 点がそれぞれ設定されます。

[ご参考]

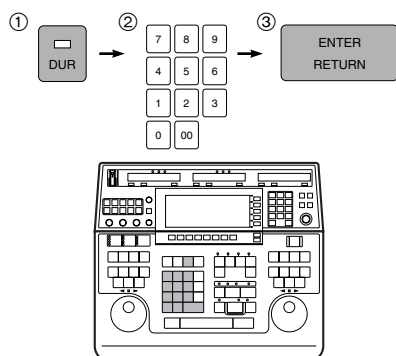
[MARK IN/OUT] は必ずしも一時停止にする必要はありません。PLAY で再生を確認しながら「ここ」と思うポイントで [MARK IN/OUT] ボタンを押す設定方法も使えます。

B. 数値入力ボタンで編集点のタイムコードをダイレクトに入力する。



- ① VTR ソース選択部のボタンを押し、登録する VTR (P1) を選択します。
- ② [IN / OUT] ボタンを押します。
- ③ 例えばプレーヤー 1 の IN 点ならば、83209 (8 分 32 秒 09 フレーム) と押します。
- ④ 一つの編集点を入力するごとに [ENTER] ボタンを押します。

C. 編集区間の長さを指定して設定する。



先に IN 点を登録後、

- ① [DUR] ボタンを押します。
- ② 例えばプレーヤー 1 ならば、2609 (26 秒 09 フレーム) を入力します。
- ③ [ENTER] ボタンを押します。OUT 点が登録されます。

カット編集に必要な登録点

アッセンブル編集では、プレーヤーの IN 点および OUT 点を登録します。(OUT 点はなくても編集可能です)

インサート編集では、プレーヤーとレコーダの IN 点およびプレーヤーかレコーダの OUT 点を登録します。(前の編集の OUT 点と同一の場合、レコーダの IN 点は登録不要です)

編集操作

カット編集の操作方法

4. 特殊効果等の設定

スローの初期スピードの設定、GPIの設定、オーディオスプリットの設定（インサート編集のみ）などが行えます。詳しくは、さまざまな編集をご覧ください。

5. 編集の実行

1～4で例題の編集に必要な編集点の設定が終了しました。これで編集を実行すれば、1イベントの自動編集が行われます。その前に「プレビュー」機能を使えば、意図どおりの設定ができているか確認することができます。編集を実行した後は「レビュー」で編集結果を確認することができます。

（プレビュー）

編集を実行する前にリハーサル再生をします。



[PREVIEW] ボタンを押すと、今登録したイベント（ディスプレイにイベント No. が表示されているイベント）についてプレビューを行います。

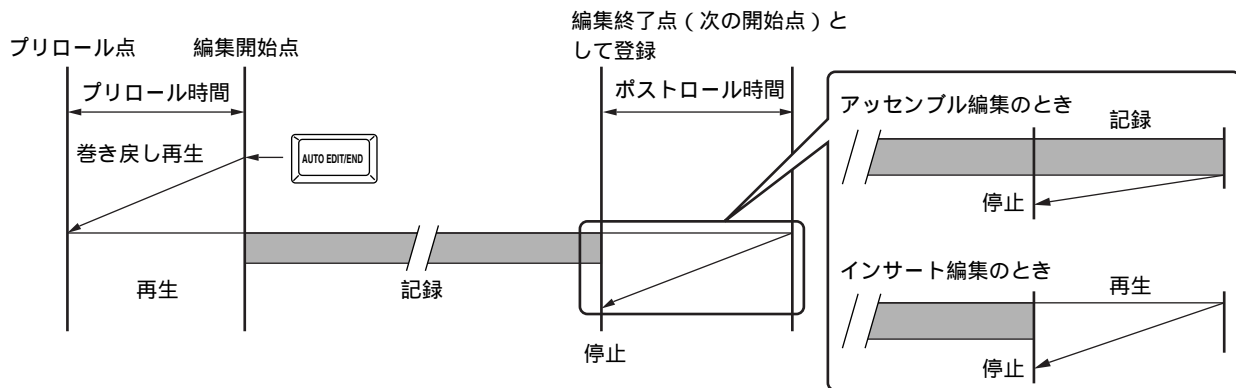
（編集の実行）



[AUTO EDIT/END] ボタンを押すと1イベントの自動編集を開始します。

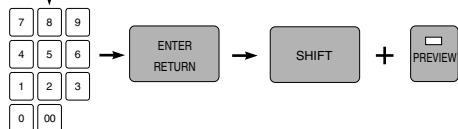
【ご参考】

- 編集実行後 EVENT No.が追加され、今までのレコーダの編集 OUT 点が編集 IN 点として自動的に計算されます。
- 途中で編集を中止したい場合は、[ALL STOP] ボタンを押します。



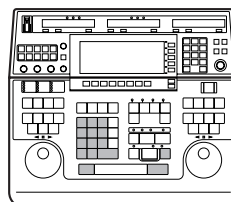
（レビュー）

編集後、テープに記録された内容を再生して確認できます。



- ① ニューイベントでも [REVIEW] ボタンを押すと、すでに編集されている前のイベントを再生します。
- ② 編集済みのイベントはどこからでも呼び出してレビューすることができます。

(イベント呼び出し)



編集操作

ディゾルブ編集の操作方法

1. 編集モードの設定

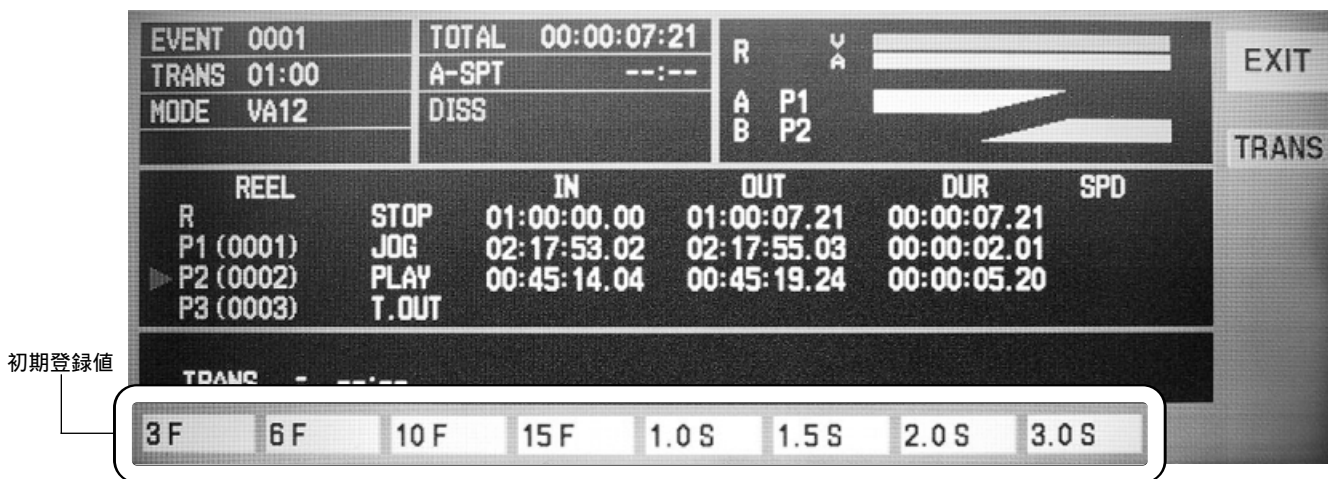
アッセンブル編集を行うか、インサート編集を行うかを設定します。

2. 特殊効果の選択

HOMEメニューで [F2 (DISS)] ボタンを押します。

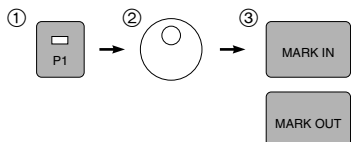
3. トランジションタイム (効果時間) の設定

ディゾルブが選択された場合、自動的にトランジションタイムを設定する画面に切り替わります。[F1] ~ [F8] ボタンには初期値が登録されています。[F1] ~ [F8] ボタンで値を選択します。数値入力ボタンで値を直接入力するか、調整ボリュームを用いて設定を行うことも可能です。

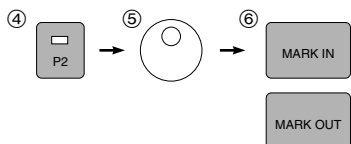


4. 編集点の設定

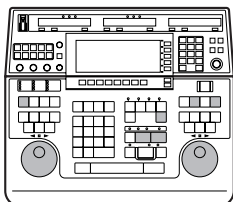
FROM ソース側の設定



TO ソース側の設定



レコーダ側の設定



- ① [P1] を選択します。
- ② ジョグダイヤルでFROM (Aロール) 側のIN点を探します。
- ③ [MARK IN] ボタンを押します。
OUT側も同様に探し、[MARK OUT] を押します。
登録されるとソース部のランプが点灯します。
- ④⑤⑥
TOソース (Bロール) 側も同様に登録します。
先に登録した側がAロールとなります。
- ⑦⑧⑨
レコーダ側も同様にIN点を登録します。
この場合、OUT点の登録は不要です。

[ご参考]

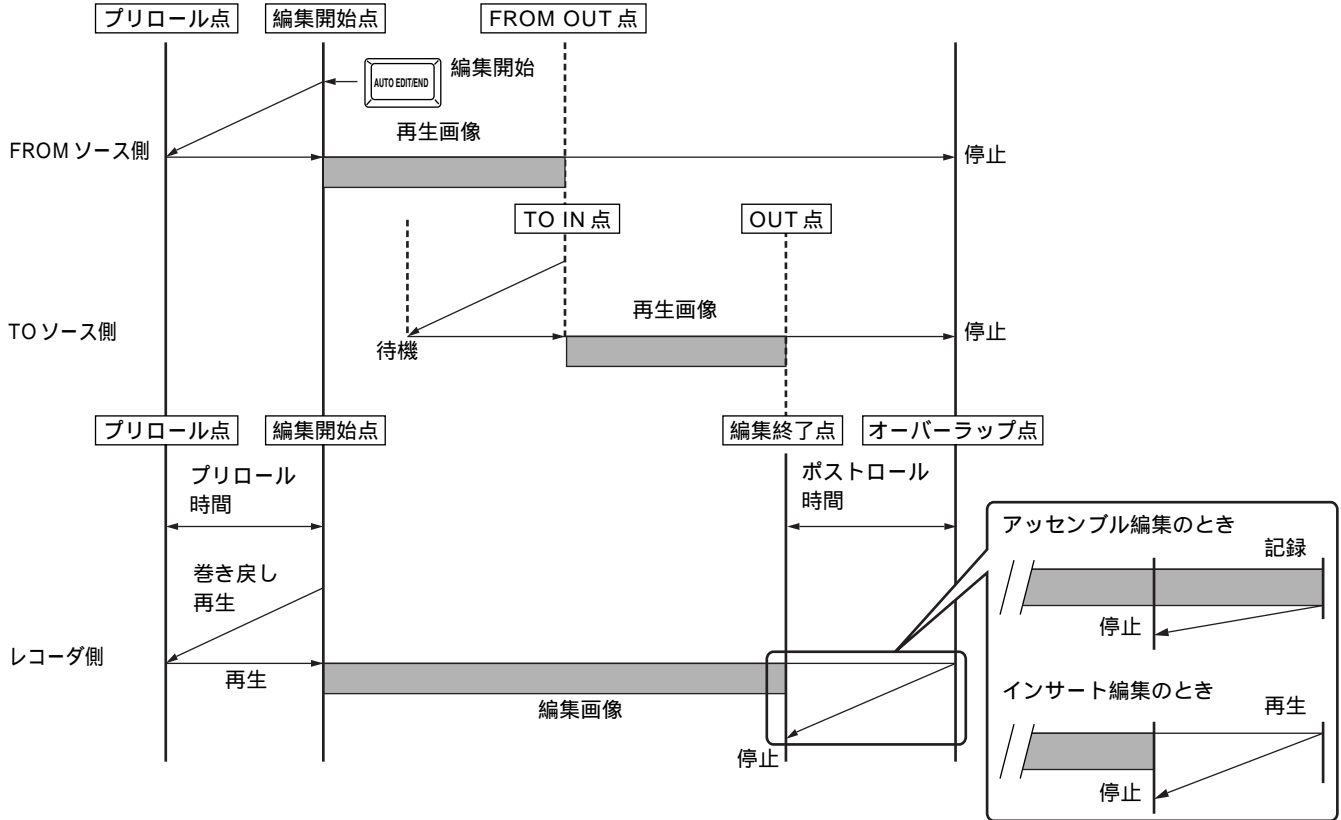
- P1・P2・RのIN点、P1のOUT点は必ず登録します。
OUT点はP2のかわりに、R側で登録することも可能です。
- MARKボタン以外の登録方法は、CUT編集部を参考にしてください。
- FROM側とTO側のVTRの入れ替えは、ソース部のボタンを押すことで入れ替えができます。
- P1・P2以外のVTRの編集点が登録されていても、支障はありません。

編集操作

ディゾルブ編集の操作方法

5. 編集の実行

編集点と特殊効果の設定が終了したらプレビューしてみます。
手順はカット編集と同じです。OK ならば自動編集を実行します。



編集操作

ワイプ編集の操作方法

1. 編集モードの設定

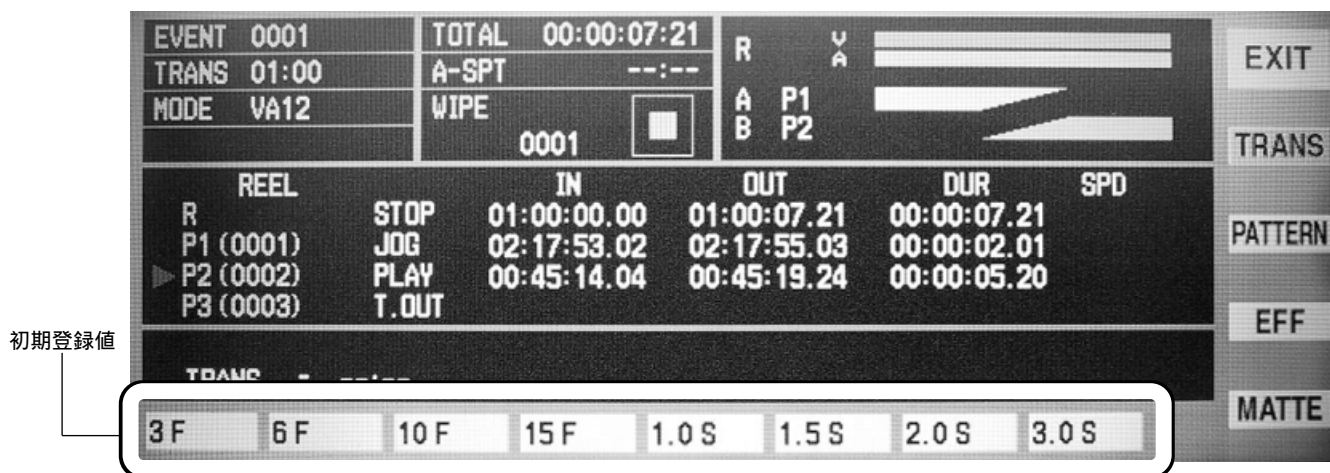
アッセンブル編集を行うか、インサート編集を行うかを設定します。

2. 特殊効果の選択

HOMEメニューで [F3 (WIPE)] ボタンを押します。

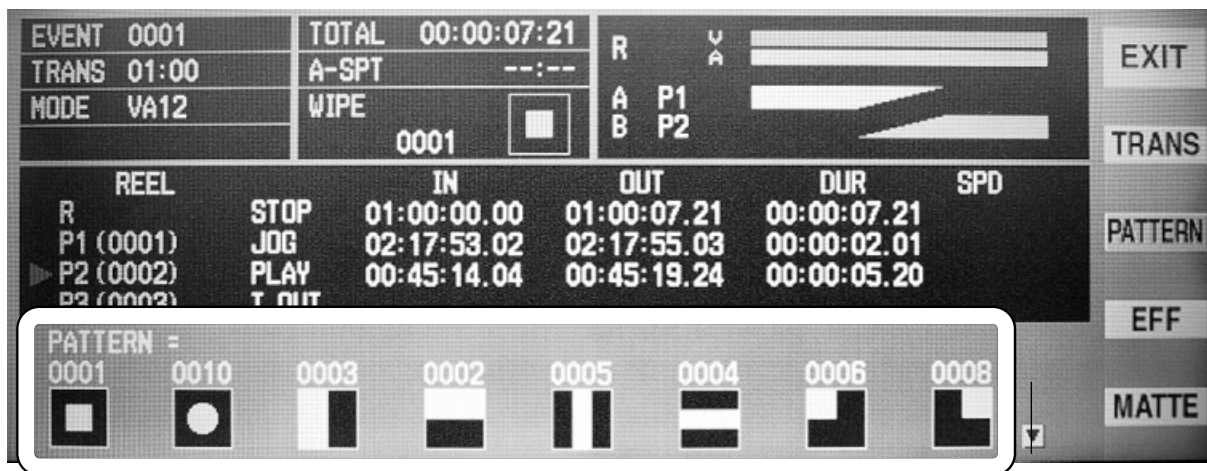
3. トランジションタイム (効果時間) の設定

- [F12 (TRANS)] ボタンを押します。
- [F1] ~ [F8] ボタンには初期値が登録されています。[F1] ~ [F8] ボタンで値を選択します。
数値入力ボタンで値を直接入力し [ENTER] ボタンを押すか、調整ボリュームを用いて設定することも可能です。



4. ワイプパターンの選択

- [F11 (PATTERN)] ボタンを押します。(トランジションタイムを設定した場合は自動的に移動しますので必要ありません)
- 画面下にワイプパターンが最大8個表示されます。[] [] ボタンで表示されているパターンの一覧を切り替えることができます。[F1] ~ [F8] ボタンでワイプパターンを選択します。
数値入力ボタンでパターン番号を直接入力し [ENTER] ボタンを押しても設定可能です。



ワイプパターン

他のワイプパターンがあるときに表示されます。

編集操作

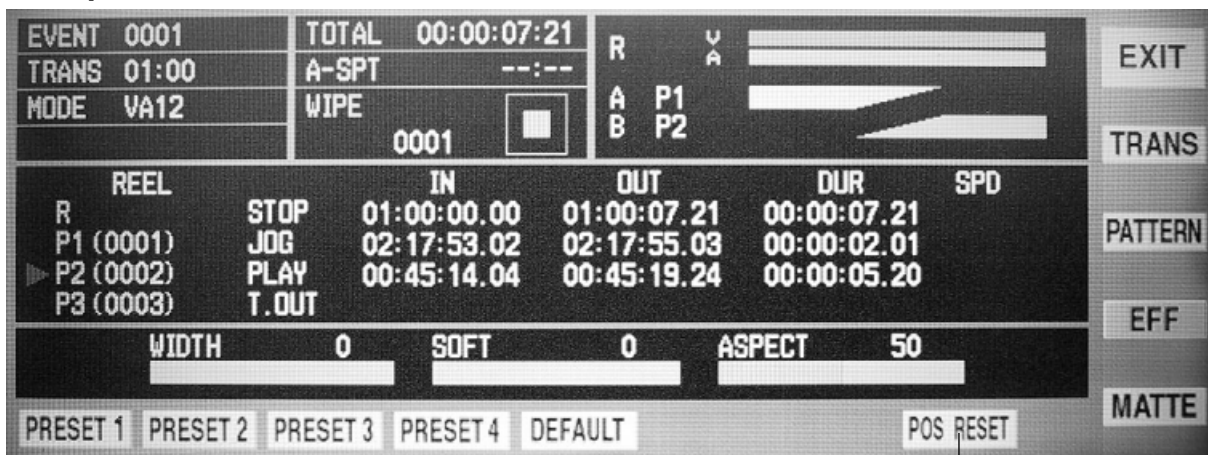
ワイプ編集の操作方法

5. ボーダー幅、ぼかし具合、縦横比の設定

1. [F10 (EFF)] ボタンを押します。
2. [WIDTH] ボリュームでボーダー幅を調整します。
3. [SOFT] ボリュームでエッジのぼかし具合を調整します。
4. [ASPECT] ボリュームで縦横比を調整します。

< ノート >

[ENTER] を押しながら、[F1 (PRESET 1)] ~ [F4 (PRESET 4)] ボタンを押すことで、ボリュームの値を記憶させることができます。[F1 (PRESET 1)] ~ [F4 (PRESET 4)] ボタンを押せば、呼び出すことができます。[F5 (DEFAULT)] ボタンを押すと工場出荷値に戻すことができます。また SW'ER メニューでもプリセット値を設定できます。



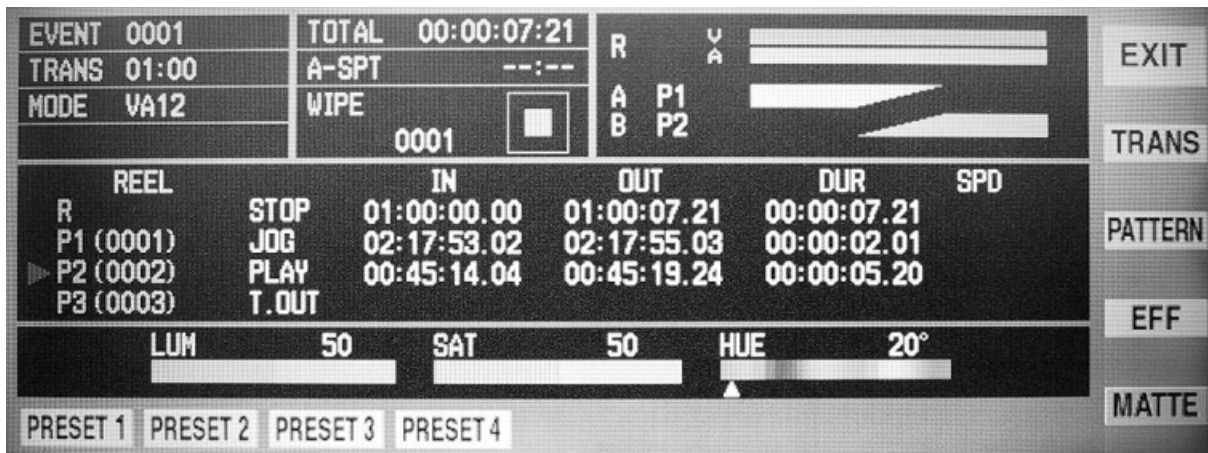
ワイプ位置を初期位置に戻します。

6. ボーダーカラーの設定

1. [F9 (MATTE)] ボタンを押します。
2. [LUM] ボリュームで明るさを調整します。
3. [SAT] ボリュームで色の濃さを調整します。
4. [HUE] ボリュームで色合いを調整します。

< ノート >

ワイプ編集と同様の方法で、プリセット値の記憶、呼び出しができます。また SW'ER メニューでも同様です。



7. 編集点の設定

ディゾルブ編集と同様に編集点を設定します。

8. 編集の実行

ディゾルブ編集と同様にして編集を実行します。

編集操作

モザイク編集の操作方法

1. 編集モードの選択

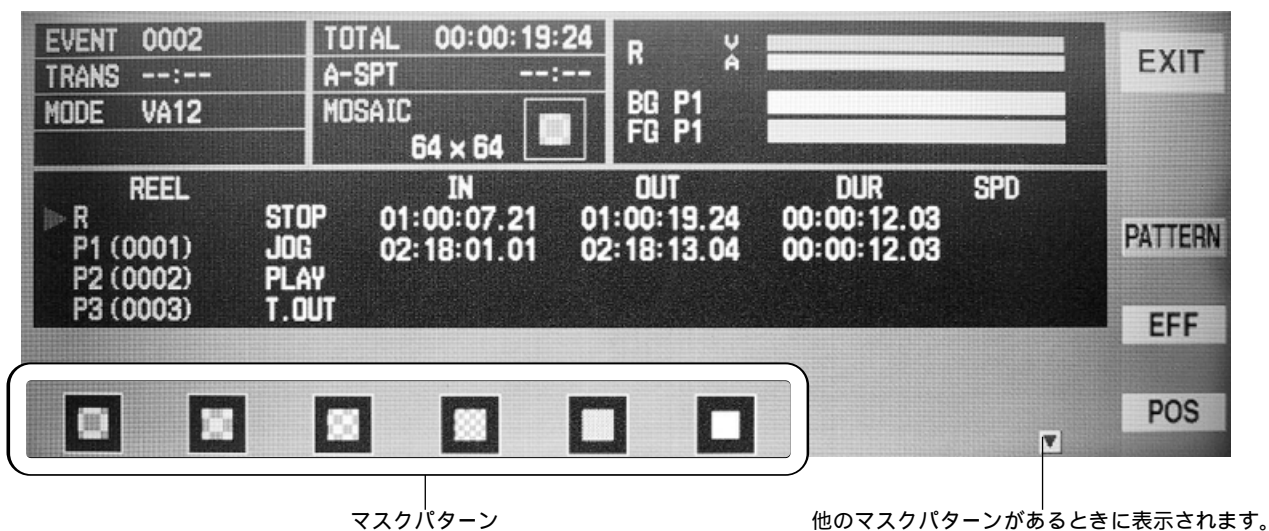
アッセンブル編集を行うか、インサート編集を行うかを設定します。

2. 特殊効果の選択

HOMEメニューで [F4 (MOSAIC)] ボタンを押します。
MONITOR OUT 部分の [EFF] が点滅し、MAN ランプは点灯します。

3. マスクパターンの設定

- [F11 (PATTERN)] ボタンを押します。
- 画面下にマスクパターンが表示されます。[] [] ボタンで表示されているパターンの一覧を切り替えることができます。
[F1] ~ [F6] ボタンでマスクパターンを選択します。



4. マスク効果の設定

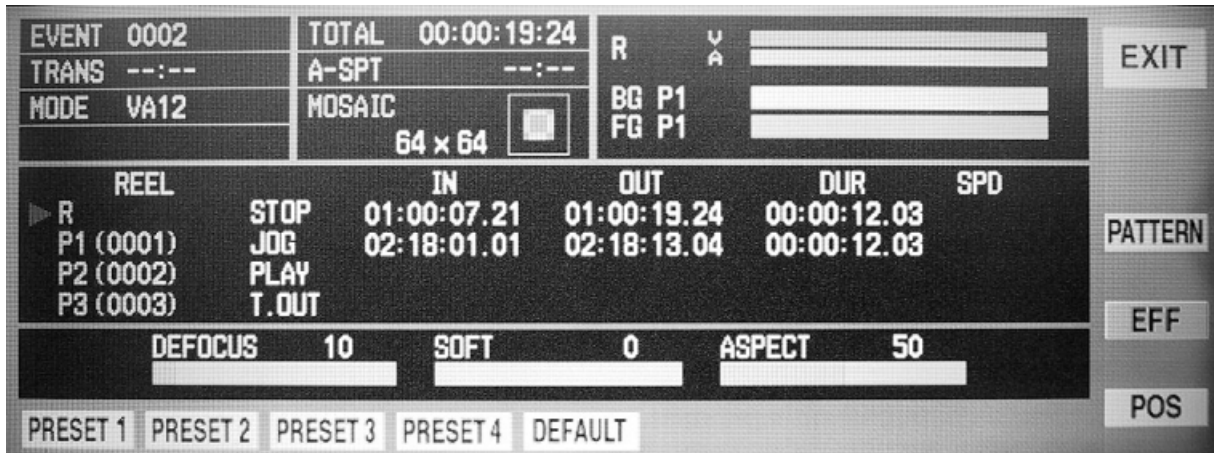
- [F10 (EFF)] ボタンを押します。
- [DEFOCUS] ボリュームでマスクの荒さを調整します。
- [SOFT] ボリュームでマスク周辺を調整します。
- [ASPECT] ボリュームで縦横比を調整します。
- [FADER] で大きさを調整します。

< ノート >

- ワイプ編集と同様の方法で、プリセット値の記憶、呼び出しができます。また SW'ER メニューでも同様です。
- マスク効果 (DEFOCUS, SOFT, ASPECT) の設定は「マスクパターンの設定画面 (PATTERN)」でも行えます。

編集操作

モザイク編集の操作方法



5. 編集点の設定

カット編集と同様に編集点を設定します。入力開始と同時にマスクの設定メニューは解除されます。

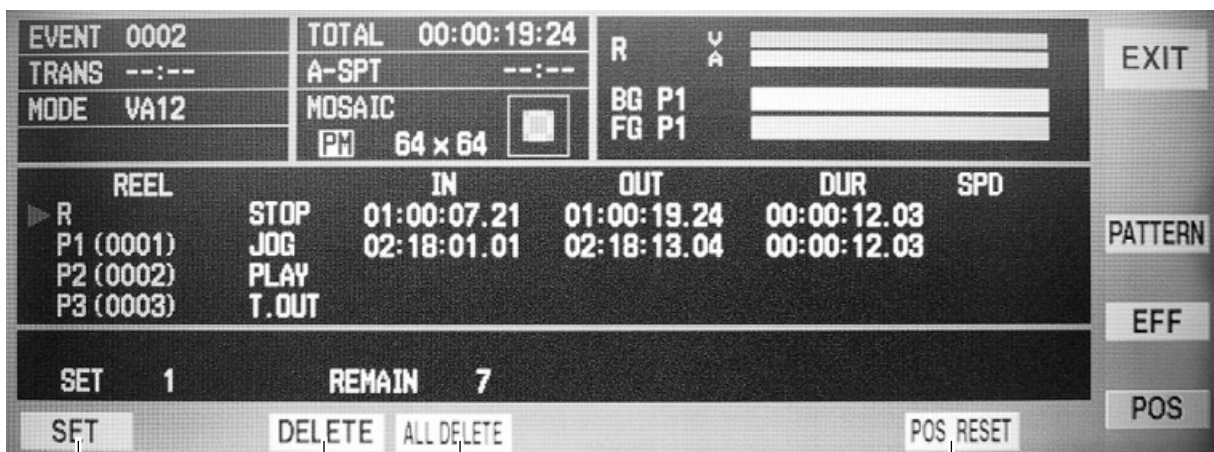
6. ポジションの設定

マスクしたい映像を編集とともに動かしたいときは、その位置を8点まで登録することができます。動かす必要がないときは [POSITIONER] で最初の位置だけ決めてください。

1. [F9 (POS)] ボタンを押します。
2. プレーヤーのIN点を頭出しし、[POSITIONER] で最初の位置を決め、[F1 (SET)] ボタンを押します。特殊効果表示欄に [PM] の表示が点灯します。
3. プレーヤーの映像を進めた後、その映像でマスクしたい位置へ [POSITIONER] を動かし、再び[F1 (SET)] ボタンを押します。
4. 2点以上のマスク位置を設定したいときは2. の操作を繰り返します。

[ご参考]

編集時、マスク位置は [SET] で設定した位置をつなぐように移動します。



ポジションナーの位置を
ポジションナーメモリー
に記録します。

直前に設定した
ポジションナーメモ
リーを消去します。

全てのポジションナー
メモリーを消去しま
す。

ポジションナーをセンター
位置に戻します。

7. 編集の実行

カット編集と同様にして編集を実行します。

編集操作

キー編集の操作方法

1. 編集モードの設定

アッセンブル編集を行うか、インサート編集を行うかを設定します。

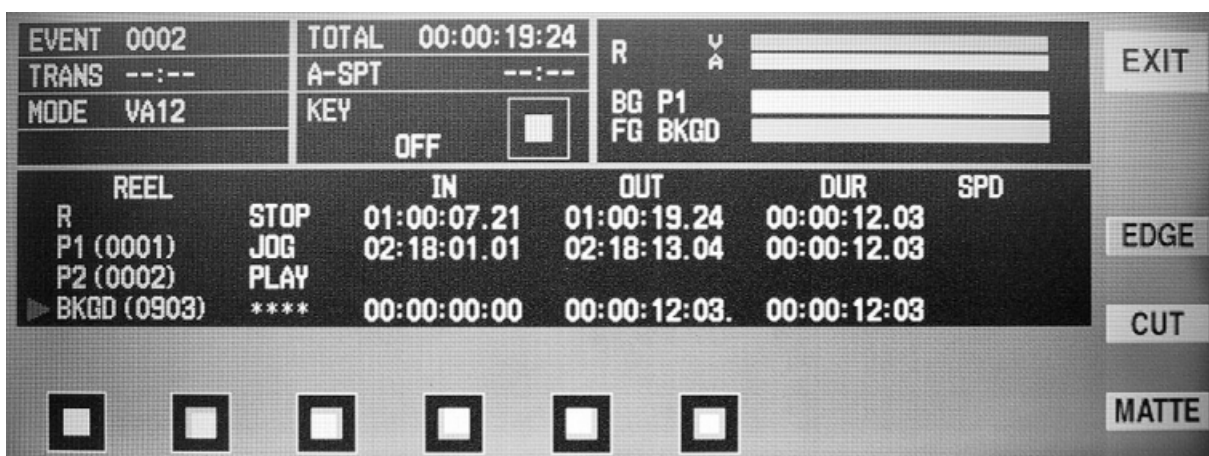
2. 特殊効果の選択

HOMEメニューで [F5 (KEY)] ボタンを押します。

3. 縁取りパターンの選択

1. [F11 (EDGE)] ボタンを押してEDGEメニューに移動します。

2. [F1] ~ [F6] ボタンで縁取りパターンを選択します。



4. クリップレベルの調整、キー信号方式の選択

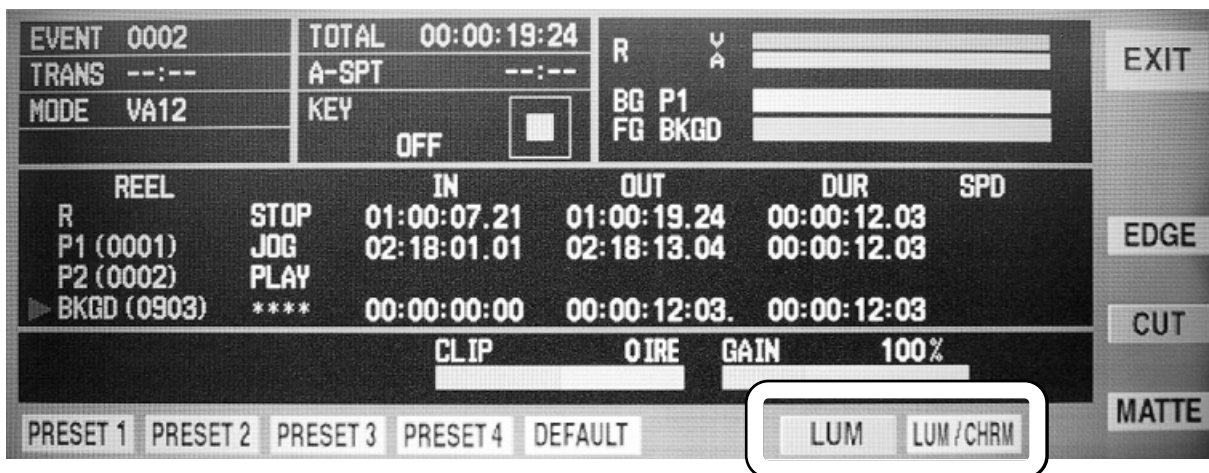
1. [F10 (CUT)] ボタンを押します。

2. キー信号の方式を選択します。輝度のみをキー信号とする場合は [F7 (LUM)] ボタンを、クロマ信号を含めてキー信号とする場合は [F8 (LUM/CHRM)] ボタンを押します。

3. [CLIP] [GAIN] ボリュームで文字などが鮮明になるように調整します。

< ノート >

ワイプ編集と同様の方法で、プリセット値の記憶、呼び出しができます。また SW'ER メニューでも同様です。



キー信号方式選択ボタン

編集操作

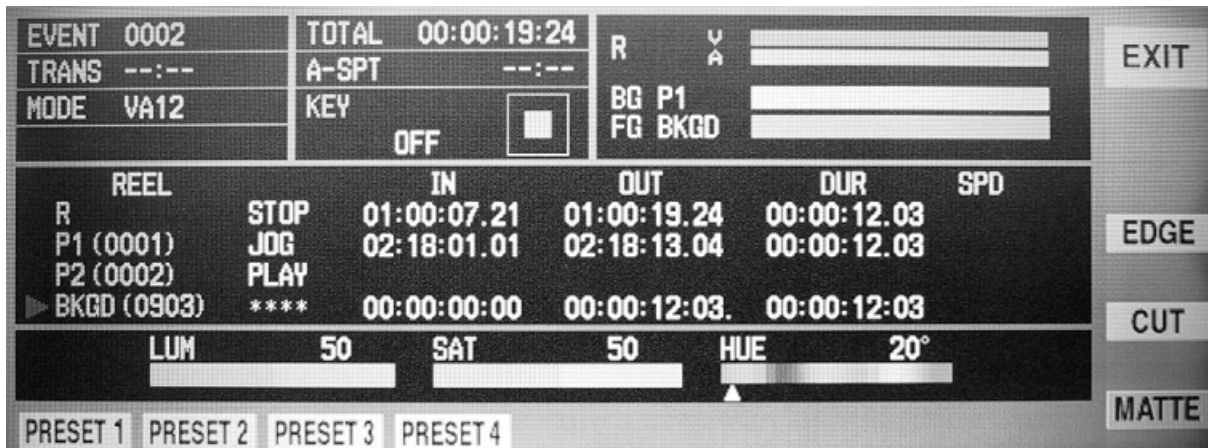
キー編集の操作方法

5. 縁取り色の調整

1. [F9 (MATTE)] ボタンを押します。
2. [LUM] ボリュームで明るさを調整します。
3. [SAT] ボリュームで色の濃さを調整します。
4. [HUE] ボリュームで色合いを調整します。

< ノート >

ワイプ編集と同様の方法で、プリセット値の記憶、呼び出しができます。また SW'ER メニューでも同様です。



6. 編集点の設定

カット編集と同様に編集点を設定します。

7. 編集の実行

カット編集と同様にして編集を実行します。

編集操作

ディゾルブキー編集の操作方法

1. 編集モードの設定

アッセンブル編集を行うか、インサート編集を行うかを設定します。

2. キー効果の選択

HOME メニューで [F5 (KEY)] ボタンを押し、キー編集と同様に

1. 縁取りパターン
2. クリップレベルの調整、キー信号方式の選択
3. 縁取り色の調整

を行います。

設定が終わったら、[F13 (EXIT)] ボタンを押し、HOME メニューに戻します。

3. 特殊効果の選択

HOME メニューで [SHIFT + F2 (DISS KEY)] ボタンを押します。

4. トランジションタイム (効果時間) の設定

ディゾルブキーが選択された場合、自動的にトランジションタイムを設定する画面に切り替わります。[F1] ~ [F8] ボタンには初期値が登録されています。[F1] ~ [F8] ボタンで値を選択します。数値入力ボタンで値を直接入力するか、調整ボリュームを用いて設定を行うことも可能です。

5. 編集点の設定

ディゾルブ編集と同様に編集点を設定します。

6. 編集の実行



編集点と同様に特殊効果の設定が終了したらプレビュー、自動編集を実行します。

編集中に[MAN]ボタンを押すと、設定したトランジションタイムでキー効果が ON/OFF します。

ワイプキー編集の操作方法

1. 編集モードの設定

アッセンブル編集を行うか、インサート編集を行うかを設定します。

2. キー効果の選択

HOME メニューで [F5 (KEY)] ボタンを押し、キー編集と同様に

1. 縁取りパターン
2. クリップレベルの調整、キー信号方式の選択
3. 縁取り色の調整

を行います。

設定が終わったら、[F13 (EXIT)] ボタンを押し、HOME メニューに戻します。

3. 特殊効果の選択

HOME メニューで [SHIFT + F3 (WIPE KEY)] ボタンを押します。

4. トランジションタイム (効果時間) の設定

1. [F12 (TRANS)] ボタンを押します。
2. [F1] ~ [F8] ボタンには初期値が登録されています。[F1] ~ [F8] ボタンで値を選択します。
数値入力ボタンで値を直接入力し [ENTER] ボタンを押すか、調整ボリュームを用いて設定することも可能です。

5. ワイプパターンの選択

1. [F11 (PATTERN)] ボタンを押します。(トランジションタイムを設定した場合は自動的に移動しますので必要ありません)
2. 画面下にワイプパターンが最大 8 個表示されます。[] [] ボタンで表示されているパターンの一覧を切り替えることができます。[F1] ~ [F8] ボタンでワイプパターンを選択します。
数値入力ボタンでパターン番号を直接入力し [ENTER] ボタンを押しても設定可能です。

6. 編集点の設定

ディゾルブ編集と同様に編集点を設定します。

7. 編集の実行

ディゾルブキー編集と同様にして編集を実行します。

さまざまな編集

AJ-A900 は、カット編集や A / B ロール編集の他に、次のような編集を行うことができます。

- ① 同時に複数のマスターテープを作成したい.....マルチレコーダ編集
- ② EDL メモリーの編集データを連続して編集したい.....マルチイベント編集
- ③ 編集 OUT 点の設定を省略したい.....オープンエンド編集
- ④ 編集 IN 点の設定を省略したい.....パークアンドエディット
- ⑤ 編集用テープを作りたい.....ファーストエディット
- ⑥ タイムコードだけを記録したい.....TC インサート編集
- ⑦ スロー再生した映像を編集したい.....スロー編集
- ⑧ 編集中に再生速度を変えたい.....ワンタッチスロー編集
- ⑨ 補助ソース (AUX) からの信号を使って編集したい.....補助ソース (AUX) の編集
- ⑩ 記録の開始、終了を手動で操作しながら編集したい.....手動編集
- ⑪ 映像と音声のずらした編集をしたい.....オーディオスプリット編集
- ⑫ A ロール/B ロールの切り替えをしながら編集したい.....手動エフェクト編集
- ⑬ スイッチャーを手動で切り換えたい.....シンクロール編集

マルチレコーダ編集

AJ-A900 は一回の編集で同時に 3 巻までのマスターテープを作成するマルチレコーダ編集を行うことができます。ここでは、P3、P4 をスレーブ VTR としたマルチレコーダ編集について説明します。

システムの接続

システム接続の「プレーヤー 2 台と、レコーダ 3 台を使ったマルチレコーダ A / B ロール編集システム」をご覧ください。

システムの設定

「SETUP (PORT ASSIGN)」で PORT STATUS を下記のように設定します。操作の方法は「AJ-A900 の設定」(82 ページ)をご覧ください。

	PORT STATUS	SW'ER XPOINT	MIXER XPOINT	PROCESS DELAY	
PORT A	*R	* EXT/AUTO	* EXT	* 0	OK
PORT B	* P1	* 01	* 01	* 0	
PORT C	* P2	* 02	* 02	* 0	
PORT D	P3 (SLAVE)	* 03	* 03	* 0	CANCEL
PORT E	P4 (SLAVE)	* 04	* 04	* 0	
PORT F	* SWITCHER	* NONE	* NONE	* 0	SW'ER XPOINT
PORT G	* MIXER	* NONE	* NONE	* 0	
AUX 1		* 04	* 04		
AUX 2		* 05	* 05		
BKGD		* 05	* 00		
CB		* 06	* 00		

P1

P2

P3

P4

P5

P6

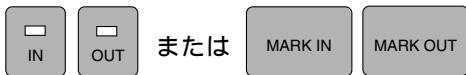
R

NONE

1 / 3

さまざまな編集

設定の方法



1. 通常のカット編集や A / B ロール編集と同じ手順で編集データを設定します。スレーブ VTR (P3、P4) の編集点は設定する必要はありません。

編集の実行



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。マルチレコーダ編集を開始します。[レコーダ VTR およびスレーブ VTR (P3、P4) で記録が行われます]
2. 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END] ボタンを押して編集を終了させます。

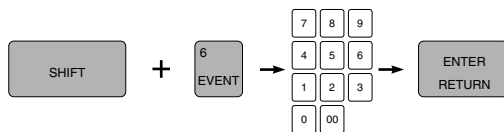
< ノート >

- レコーダ VTR やスレーブ VTR は、タイムコード (TC) を使用されることをおすすめします。CTL を使用すると、レコーダ VTR とスレーブ VTR とで編集点がずれたマスターテープが作成されるなど、正常な編集ができないことがあります。
- レコーダ VTR とスレーブ VTR のタイムコードの値やフレームモードは一致している必要があります。
- マルチレコーダ編集でのキューオーディオトラックの選択 (「 VTR の拡張セットアップ」 (107 ページ) の CUE CONTROL 参照) は、スレーブ VTR もレコーダ VTR と同じになります。
- レコーダ VTR とスレーブ VTR の機種が異なるときは、正常な編集ができないことがあります。詳しくは、「お問い合わせになる前に」 (133 ページ) をご覧ください。

マルチイベント編集

1 つのイベントの編集データを設定したあとすぐに編集を行わずに、いくつかのイベントのデータを登録し、まとめて編集することができます。

編集データの呼び出し



編集を開始するイベントを呼び出します。呼び出し方には、おもに次の 2 つの方法を使います。

- [EVENT (SHIFT + 6)] ボタンを押したのち、イベント番号を入力し、[ENTER] ボタンを押します。
- [EVENT] + [+] または [EVENT] + [-] ボタンを繰り返し押し、目的のイベントを探します。

編集の実行



[PROGRAM EDIT (SHIFT + AUTO EDIT/END)] ボタンを押します。表示しているイベントから登録順に EDL リストの最後のイベントまで、編集を自動的に行います。

< ノート >

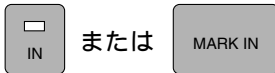
- 「操作方法のセットアップ」 (88 ページ) の EVENT CONTROL を MULTI EVENT に設定し、ディスプレイ部へ EVENT ナンバーを表示させてください。
- マルチイベント編集は、ニューイベントの編集は行いません。
- マルチイベント編集を行うときは、すべての VTR にタイムコード (TC) を使用してください。CTL を使用すると、完成したテープの編集点が設定した値と大きくずれることがあります。

さまざまな編集

オープンエンド編集

編集 OUT 点の設定を省略して編集することをオープンエンド編集といいます。

設定方法



1. 通常のカット編集や A / B ロール編集と同じ手順で編集データを設定します。編集 OUT 点のみ設定しません。
2. A / B ロール編集の時だけ、FROM ソースの編集 OUT 点を設定します。

編集の実行



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。オープンエンド編集を開始します。
2. 必要なシーンの記録ができましたら、もう一度 [AUTO EDIT/END] ボタンを押して終了させます。

< ノート >

[ALL STOP] で停止するとニューイベントへ繰り上がりません。

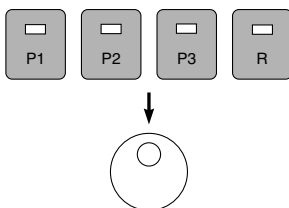
パークアンドエディット

編集 IN 点の設定を省略して、編集することをパークアンドエディットといいます。

編集 IN 点を設定していない VTR は、現在のテープの位置を編集 IN 点に設定します。

A / B ロール編集はできません。

設定方法



1. [P1, P2, P3, R] ボタンで使用する VTR を選択します。
2. サーチダイヤルを使って編集 IN 点を探します。

編集の実行



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。現在のテープの位置を編集 IN 点に設定して、編集を開始します。
2. 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END] ボタンを押して編集を終了させます。

< ノート >

パークアンドエディットを実行するには、「システムの拡張セットアップ」(99 ページ) で PARK AND EDIT を ON に設定してください。

さまざまな編集

ファーストエディット

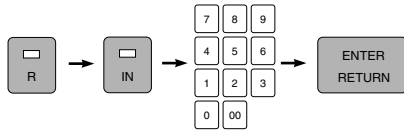
アッセンブル編集を行うとき、レコーダのIN点前に、正常な映像信号を記録する必要があります。ファーストエディットは、これを自動的に行う機能です。

1. ファーストエディットモード



1. レコーダ VTR を操作して、記録を開始する位置を頭出しします。
2. [SHIFT] ボタンを押しながら、[ASMBL] ボタンを押してランプを点滅させます。

2. タイムコードの設定



1. 編集開始点の登録はレコーダのIN点に数値入力ボタンでタイムコードを入力します。修正は、[CLEAR] ボタンを押します。
2. [ENTER] ボタンを押します。

3. 記録の開始



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。レコーダ VTR は、現在の位置から記録を開始し、約 27 秒間で終了します。
編集終了後 VTR は IN 点に頭出しし、アッセンブルモードになります。
2. プレーヤー VTR の編集点設定が完了しているとき、ファーストエディットに続いてこのイベントの編集を開始します。

[ご参考]

- ファーストエディットモードを取り消すには、再度 [SHIFT] ボタンを押しながら [ASMBL] ボタンを押します。
- 実際の記録は、設定されたタイムコードの 25 秒前から記録し、IN 点から 2 秒余分に記録します。
- 設定を変更することで、スタート点のタイムコードを固定にすることができます。また、記録する時間を変更することもできます。「システムの拡張セットアップ」(98 ページ)の FIRST EDIT START TIME および FIRST EDIT LENGTH で設定してください。

フォーマット

- インサート編集を行うときは、テープのフォーマット (全面記録) が必要です。
- ファーストエディットでタイムコードの設定を行った後、テープ終端までアッセンブル編集を行います。

< ノート >

- ファーストエディット、フォーマットを行うときは、ブラックバースト等の信号を VTR へ入力してください。
- ご使用になる VTR により、ビデオ信号とタイムコードとのカラーフレーム位相が合わせられないことがあります。詳しくは「お問い合わせになる前に」(133 ページ)をご覧ください。

さまざまな編集

TC インサート編集

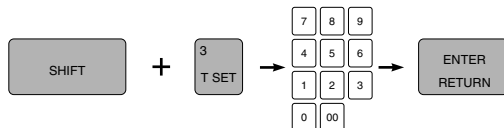
タイムコード (LTC) のみを、レコーダ VTR 側のテープへ記録します。
プレーヤーで使用するテープにタイムコードが記録されていないときや、途中で不連続 (TC JUMP) になっていて編集ができない場合などに使用します。

1. 設定



1. レコーダ VTR を操作して、記録を開始する位置を頭出しします。
2. [TC (SHIFT + V)] ボタンを押し、LED を点滅させます。

2. タイムコードの設定



1. 編集開始点のタイムコードを数値入力ボタンで入力します。
修正は、[CLEAR] ボタンを押します。
2. [ENTER] ボタンを押します。

3. 編集の実行



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。
編集を開始するとき一度、時間表示が CTL になりますが、異常な動作ではありません。
2. 終了は、[AUTO EDIT/END] ボタン、または [ALL STOP] を押しします。

[ご参考]

VHS (S-VHS) フォーマットの VTR は、オーディオチャンネル 2 を音声用のトラックか、タイムコード (LTC) 用のトラックか切り換えて使用します。TC インサート編集を行うときはタイムコード用のトラックになるよう、VTR 側で設定を行ってください。

< ノート >

- レコーダ VTR のみを使用します。スレーブ VTR は、記録動作を行いませんのでご注意ください。
- ご使用になる VTR により、記録するタイムコードの初期値を設定できないことがあります。このようなときは、VTR 自身の操作でタイムコードを記録してください。

さまざまな編集

スロー編集

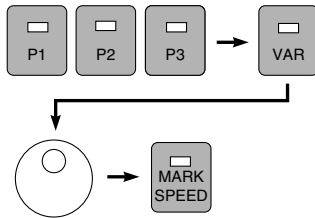
編集モードの設定/編集点の登録

カット、A / B ロール編集等の編集モードの設定および、編集点の登録を行います。

初期スピードの設定/スロー編集モード

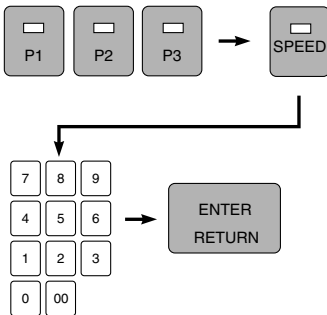
初期スピードを設定することで、スロー編集モードになります。

1) 実際に VTR をスロー再生して設定する方法 (MARK SPEED)



1. [P1, P2, P3] ボタンで、スロー再生する VTR を選択します。
2. [VAR] ボタンを押して、サーチダイヤルを VAR モードにします。
3. サーチダイヤルで、VTR を希望のスピードで再生させます。
4. [MARK SPEED] ボタンを押します。

2) 初期スピードを数値入力する方法



1. [P1, P2, P3] ボタンを押して、スロー再生する VTR を選択します。
2. [SPEED] ボタンを押します。
設定されているスピードが表示されます。
3. [0] ~ [9] の数値入力ボタンで、通常の再生スピードを 100 として、初期スピードを入力します。
4. [ENTER] ボタンを押します。

VAR MEM/バリエブルスピードメモリー

スロースピードの変化をメモリーします。

一定スピードでスローを行う場合や、本番編集で可変する場合この操作は不要です。



1. [VAR] ボタンを押しながら、[PREVIEW] ボタンを押します。
2. IN 点通過を示すピー音が聞こえたら、ダイヤルを回し、再生速度を可変しスピード変化を記憶させます。

< ノート >

細かなスピード変化を長時間続けると、メモリーがオーバーフローして記憶できなくなる場合があります。
速度変化は EDL に登録されません。

さまざまな編集

編集の実行



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押し、スロー編集を開始します。
2. VAR MEM の設定がされていない場合は、サーチダイヤルで再生速度を変化させることができます。
3. OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END] ボタンを押し、編集を終了させます。

[ご参考]

スロー編集モードは、初期スピードデータを消去することで取り消すことができます。
取り消す VTR を選択後、[SPEED] [CLEAR] を押します。

<ノート>

スピードは、- 100 ~ 300%の範囲で設定できますが、VTR の機能範囲内でご使用ください。
スロー再生機能が無い VTR でスロー編集を行うと、正常な映像を記録できません。

ワンタッチスロー再生

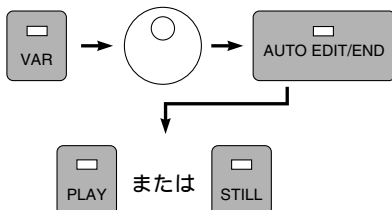
編集時、プレーヤー VTR をワンタッチで「標準スピード再生」から「スロースピード再生」にすることができます。

設定方法



1. 通常のカット編集や A / B ロール編集と同じ手順で編集データを設定します。[SPEED] ボタンを使って初期スピードを設定する必要はありません。

編集の実行



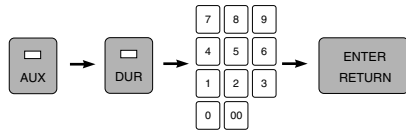
1. 編集を始める前、プレーヤー VTR のサーチダイヤルを VAR モードにします。
2. サーチダイヤルで VTR を希望のスピードで再生させます。
3. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。
標準スピード再生で編集が開始されます。
4. 編集時、プレーヤー側の [PLAY] ボタンを押すと、サーチダイヤルで設定したスピードに切り替わります。再度 [PLAY] ボタンを押すと、標準スピード再生 (VAR) に戻ります。また、[STILL] ボタンを押すと静止します。

さまざまな編集

補助ソース (AUX) の編集

補助ソース (AUX) を使用することにより、VTR 以外のソースを編集することができます。通常、VTR を使った編集では、タイムコード (TC) や CTL 信号により編集点を設定しますが、カメラや信号発生器などの映像信号や CD プレーヤーや DAT などの音声信号を編集するときは、TC や CTL が無いため VTR と同じように編集点を定めることができません。次のように、補助ソース (AUX) として設定し編集点を決めます。

設定方法



1. [AUX]、[AUX B (SHIFT + AUX)] ボタンで補助ソースを選択します。
2. 通常のカット編集や A / B ロール編集と同じ手順で編集データを設定します。ただし、編集点の入力は数値入力ボタンを使って行います。サーチダイヤルと [MARK IN/OUT] を使った設定はできません。
[例] 5 秒間の編集を設定するには、
[DUR] [5] [0] [0] [ENTER] …… 編集区間の登録と入力します。

編集の実行



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。
補助ソースを使った編集を開始します。
2. 編集に合わせて、補助ソースを手動で操作します。
GPI を使って自動的に制御する場合、この操作は必要ありません。
3. 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END] ボタンを押して編集を終了させます。

[ご参考]

- ビデオスイッチャーやオーディオミキサーを使用するときは、それぞれの入力チャンネルに合わせて、クロスポイントの設定が必要になります。
- 補助ソースのスタートタイミング制御はできません。手動で行うか GPI を使用してください。

< ノート >

補助ソースに GPI 端子があっても、その仕様が AJ-A900 に合わないときは使用しないでください。動作しないばかりでなく、故障の原因となります。接続の是非は機器メーカーにお問い合わせください。なお、AJ-A900 の仕様は「定格」(138 ページ)をご覧ください。

さまざまな編集

手動編集

自動編集でなく、手動で編集開始・終了・信号源の選択等を行うことができます。
インサートモードでは、V・A1・A2等のモードを編集中心に変更できます。
ただし編集中心、インサート、アッセンブルの切り替えはできません。

1. 編集モードの設定、頭出し

編集設定部で、アッセンブルまたはインサートモードに設定します。
使用するVTRの頭出しをします。

2. 手動編集



1. [SHIFT] と [REC] ボタンを同時に押します。
レコーダが再生を開始します。

3. ソースの選択



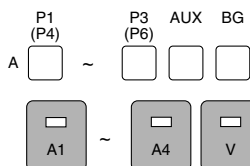
1. ソース選択部で、[P1] [AUX] 等の信号を選択し、ソースにVTRを選んだときは、VTRを走行させます。

4. 記録の開始



1. 記録を開始したい点で [REC] ボタンを押します。

5. 信号切り替え



1. A列のSOURCEボタンで信号の切り替えができます。
2. インサートモードでは、V・A1等の切り替えができます。

6. 記録の終了



1. 再度 [REC] ボタンを押すと、記録を終了し再生モードになります。
[REC] ボタンを押す毎に記録、再生モードが交互に切り替わります。

7. 手動編集モードの解除



1. [ALL STOP] ボタンを押します。
全てのVTRが停止します。

[ご参考]

一般の記録は、[REC] と [PLAY] ボタンを同時に押して実行します。

さまざまな編集

3. スプリット値を設定します。

- タイムコードを入力する場合（初期状態はこちらの入力方式になっています）
 - ① スプリット量入力状態になっている場合は [F1 (TIME CODE)] ボタンを押します。
 - ② 数値入力ボタンで希望するタイムコードを入力して [ENTER] ボタンを押します。
- スプリット量を入力する場合
 - ① 映像の編集点より音声を先行させる場合は [F2 (ADVANCE)] ボタンを押します。
映像の編集点より音声を遅らせる場合には [F3 (DELAY)] ボタンを押します。
 - ② 数値入力ボタンで希望するスプリット量を入力して [ENTER] ボタンを押します。

[ご参考]

- 設定されているスプリット値のトリミングを行いたい場合は、スプリット値を入力できる状態で [+] ボタン、または [-] ボタンを押し、数値を入力します。
- スプリットの設定を取り消す場合は [F4 (SPLIT OFF)] ボタンを押します。

編集の実行



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。
スプリット編集を開始します。
2. 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END] ボタンを押して編集を終了させます。

[ご参考]

- 設定できるスプリット量は、± 1 分未満です。
- MARK SPLIT は、プレビュー中でも行うことができます。

< ノート >

- アッセンブル編集では、A / B 点のみスプリット編集が可能です。
- 編集動作を行わない VTR に対してオーディオスプリットを設定した場合、オーディオスプリット編集は行いません。
- オーディオを基準にしてビデオをスプリットする場合は、HOME メニューの基本画面で [F7 (BASE)] ボタンを押して AUDIO BASE に設定します。

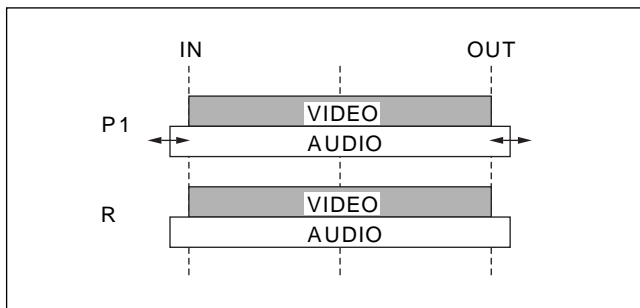
さまざまな編集

スプリット点の登録

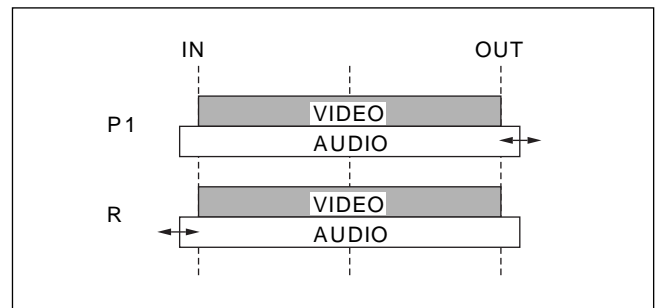
スプリット点は任意の合計 2 か所登録できます。
下図を参考に入力してください。

カット編集

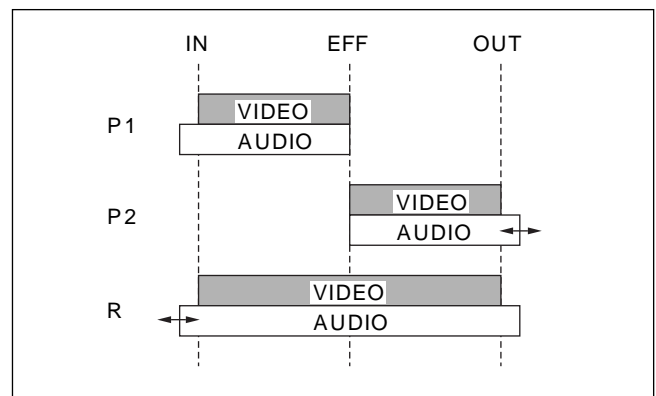
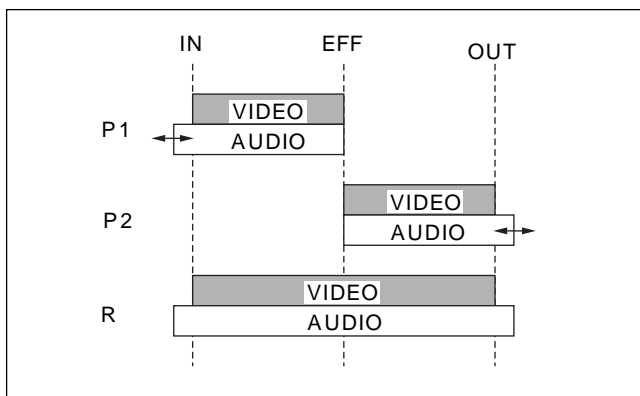
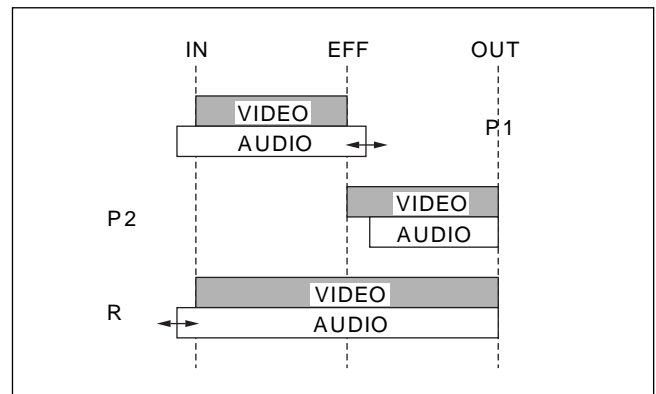
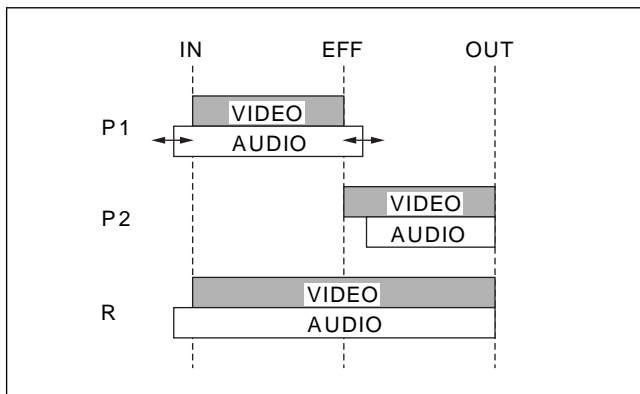
プレーヤーで登録



プレーヤー、レコーダで登録



A / B ロール編集



さまざまな編集

手動エフェクト編集

VTR、補助ソースをスイッチャーで切り替えながら編集します。

1. 編集モードの設定

1. 編集設定部で、アッセンブルまたはインサートモードに設定します。

2. 特殊効果の設定

WIPE または DISS

1. [WIPE] または [DISS] を選択します。
2. ワイプ編集の場合は、パターンなどを選択します。設定が終われば [F13 (EXIT)] ボタンを押し、HOME メニューに戻ります。

3. 手動編集モード

MAN

1. HOME メニューで[MAN] ボタンを押します。ランプが点滅します。

4. 編集点の設定

1. 使用する VTR の IN 点を設定します。
また、A ロール VTR の編集区間は 0 に設定します。

5. ソースの選択

1. ソース選択部で記録する信号源を選択します。

6. 編集開始

AUTO EDIT/END

1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。A / B ロールと同様に編集を開始します。

7. エフェクト

1. IN 点を通過後 FADER ボリュームで効果をかけながらソースを切り替えます。
パターンによっては POSITIONER 機能も使用可能です。
インサート編集では V、A1 等の切り替えも可能です。

8. 記録の終了

AUTO EDIT/END

1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。

< ノート >

一般の記録は、[REC] と [PLAY] ボタンを同時に押して実行します。

さまざまな編集

シンクロール編集

1. 複数の VTR を同時に再生、スイッチャーで信号を選択しながら編集します。

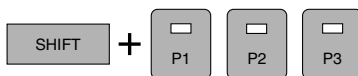
1. 編集モードの設定

1. 編集設定部で、アッセンブルまたはインサートモードに設定します。

2. 編集点の設定

1. 使用する VTR の IN 点を設定します。
OUT 点を設定する場合は 1 台のみ設定します。(全て同じデュレーションになります)

3. VTR の重複指定



1. [SHIFT] ボタンと [P1] [P2] [P3] を同時に押します。
([P4] ~ [P6] の重複指定はできません)

4. 編集開始



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。

5. ソース選択

1. IN 点を通過後 A 列のボタンを押して記録ソースを選択します。

6. 記録の終了



1. [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。

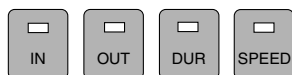
< ノート >

「操作方法のセットアップ」(88 ページ) の PLAYER 4-6 KEY が「SHIFT + P1, P2, P3」に設定されているときは、[ENTER] ボタンと [P1] [P2] [P3] を同時に押して VTR を重複指定します。

補助機能

編集点の設定値を確認する (IN, OUT, DUR, SPEED)

液晶表示で確認



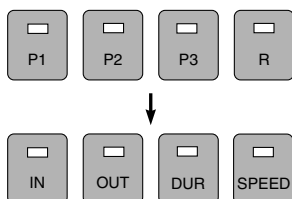
[IN, OUT, DUR, SPEED] ボタンを押します。編集点入力画面になり、編集点を確認できます。(簡易画面の場合のみです。詳細画面の場合、編集点は常に表示されています)



[SHIFT] ボタンを押しながら [IN] [OUT] ボタンを押すとスプリット点入力画面になり、スプリット点を確認できます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [ENTER] を押すと、元の画面に戻ります。

タイム表示で確認



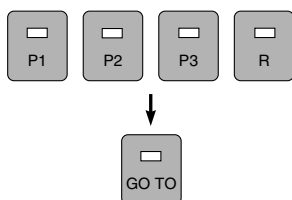
1. [P1, P2, P3, R] ボタンで使用する VTR を選択します。
2. [IN, OUT, DUR, SPEED] ボタンを押します。
3. 各ボタンを押している間、プレーヤータイム表示部にソース側の編集点が、レコーダタイム表示部にレコーダ側の編集点が表示されます。
4. 同様に [SHIFT] ボタンと同時に押すと、オーディオスプリット点、編集作業開始点などが確認できます。

< ノート >

「画面表示の SETUP」(97 ページ) の EDIT POINT INDICATE が ON に設定されている時のみ、有効です。

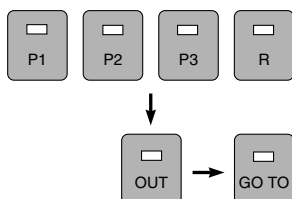
編集点の映像を確認する (GO TO)

編集 IN 点へ GO TO



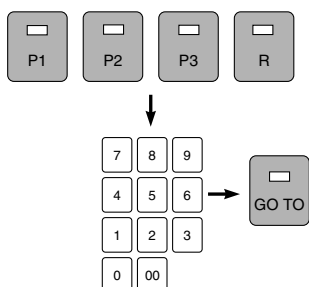
1. [P1, P2, P3, R] ボタンで、VTR を選択します。
2. [GO TO] ボタンを押します。[GO TO] ボタンのランプが点灯し、自動的に編集 IN 点をサーチして停止します。
[IN] を押した後 [GO TO] を押しても結果は同じです。

編集 OUT 点へ GO TO



1. [P1, P2, P3, R] ボタンで、VTR を選択します。
2. [OUT] ボタンを押します。
3. [GO TO] ボタンを押します。
[GO TO] ボタンのランプが点滅し、自動的に編集 OUT 点をサーチして停止します。

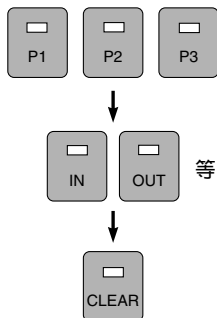
任意のタイムコードへ GO TO



1. [P1, P2, P3, R] ボタンで、VTR を選択します。
2. [0] ~ [9] の数値入力ボタンで、希望するタイムコードを入力します。
3. [GO TO] ボタンを押します。[GO TO] ボタンのランプが点灯し、自動的に入力したタイムコードをサーチして停止します。

データの修正

1. データの消去



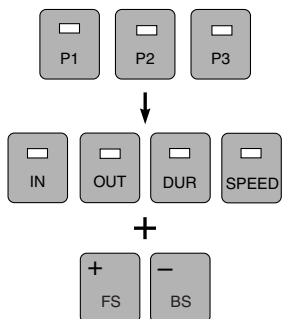
1. [P1] [P2] [P3] ボタンで、ソースを選択します。
2. [IN] [OUT] [SPEED] [DUR] [SPLIT IN] [SPLIT OUT] 等を押します。
3. [CLEAR] ボタンを押します。
[ENTER] ボタンを押してもデータを消去できます。

2. データの訂正

データを再入力します。

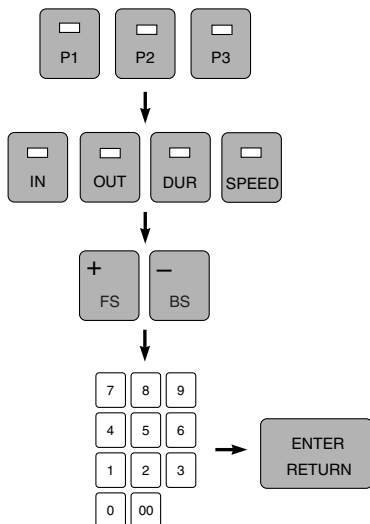
1. データを再入力します。上書きして新しいデータと入れ替えます。

3. トリミング (1 フレーム単位)



1. [P1] [P2] [P3] ボタンで、ソースを選択します。
2. 修正を行うデータに合わせ、ボタンを選択します。
IN 点修正 : [IN]
OUT 点修正 : [OUT]
スロー初期速度修正 : [SPEED]
編集区間修正 : [DUR]
3. 選択したボタンを押しながら [+ (-)] ボタンを押す毎に 1 フレームずつ加算 (減算) します。

4. トリミング (数値入力ボタン)



1. [P1] [P2] [P3] ボタンで、ソースを選択します。
2. 修正を行うデータのボタンを押します。
IN 点修正 : [IN]
OUT 点修正 : [OUT]
編集区間修正 : [DUR]
オーディオスプリット IN 点修正 : [SPLIT IN (SHIFT + IN)]
オーディオスプリット OUT 点修正 : [SPLIT OUT (SHIFT + OUT)]
エフェクト点修正 : [EFF (SHIFT + DUR)]
編集開始点修正 : [START (SHIFT + SPEED)]
3. 編集点を後ろにずらすときは、[+] ボタンを、前へずらすときは [-] ボタンを押します。
4. [0] から [9] の数値入力ボタンで加減する値を入力します。
5. [ENTER] ボタンを押します。

補助機能

編集データの登録と呼び出し (FS、BS、EVENT)

AJ-A900 は、512 イベント分の EDL (Edit Decision List) メモリーを内蔵しています。

AJ-A900 をマルチイベントモードで使用すれば、この EDL メモリーに編集データを登録し、必要なときに一度登録したイベントのデータを呼び出して修正したり、1 イベントずつ、あるいは複数のイベントをまとめて編集を行うことができます。なお、EDL メモリーに登録したデータは、約 3 日間バックアップされますが、その後は消えてしまいますので、必要なデータは外部機器へ転送 (DUMP) しフロッピーディスクなどに保存してください。

編集を実行して、編集データを登録する。



ニューイベントで編集データを作成し編集を実行すると、編集終了時に編集データを自動的に EDL メモリーに登録し、同時にイベント番号を 1 つ繰り上げ、編集データを更新します。また、液晶画面では、編集を行ったイベントのイベント番号の右端に “ R ” のマークが表示されます。

編集を実行せずに、編集データを登録する。

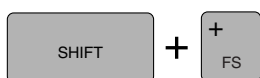


1. ニューイベントで編集データを作成し [FS (SHIFT + '+')] ボタンを押すと、編集データを EDL メモリーに登録し、同時にイベント番号を 1 つ繰り上げ、編集データを更新します。
2. ニューイベント以外で編集データを変更した後、[FS] ボタンを押したときは変更確認画面になります。編集データの変更を確定する場合は [F1 (YES)] ボタンを、変更しない場合は [F2 (NO)] ボタンを押します。

[ご参考]

“EDL OVERFLOW”エラーが発生したときは、それ以上登録できません。「システムの拡張セットアップ」(99 ページ)で OVERFLOWED EDIT を ON に設定するか、データを消去 (ERASE) して EDL メモリーの容量を確保したのち、再度登録してください。

表示しているイベントの前後の編集データを呼び出す。



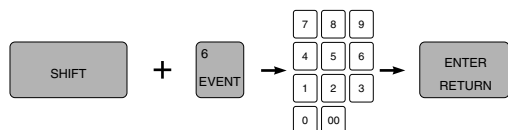
または



[FS (SHIFT + '+')] ボタンを押すと、1 つ後ろのイベントの編集データを呼び出します。

[BS (SHIFT + '-')] ボタンを押すと、1 つ前のイベントの編集データを呼び出します。

イベント番号を指定して、編集データを呼び出す。



1. [EVENT] ボタンを押します。
2. [0] ~ [9] の数値入力ボタンで、希望するイベント番号を入力します。
3. [ENTER] ボタンを押します。

[ご参考]

削除 (DELETE) したイベントも、この操作で復活させることができます。

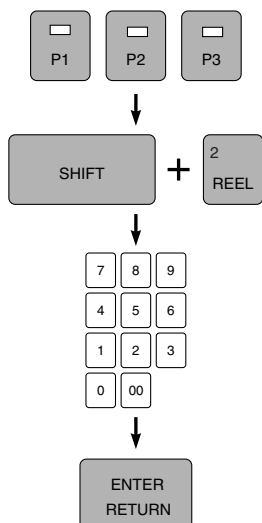
< ノート > ニューイベントと EDL メモリー

AJ-A900 では、編集点などのデータを新たに入力しているイベントをニューイベントと呼び、それ以外の設定を完了したイベントのデータとは別に管理しています。ニューイベントでは、編集データは作業中であるため、設定されたデータすべてを管理しています。しかし、それ以外のイベントデータは EDL メモリーに登録され、そのときのデータの整合性をチェックした後、不要なデータの破棄を行います。

例えば、P1 をソースとしたカット編集のとき、P1、P2、R の編集点を設定し EDL メモリーに登録すると、P2 の編集点は消えてしまいます。

リールナンバーの設定 (REEL)

4桁のリールナンバーを各ソースVTRで使用テープに設定します。何本もテープをかけかえて編集するときは、各編集ごとに使用したテープのリールナンバーをデータとして残しておくので、編集のやり直しなどに便利です。補助ソースにも任意のナンバーを割り当てることができます。



1. [P1] [P2] [P3] ボタンで、リールナンバーを変更するソースを選択します。
2. [REEL (SHIFT + 2)] ボタンを押します。
3. [0] ~ [9] の数値入力ボタンで希望するリールナンバーを入力します。
また、すでに編集データのリールナンバーが決まっている場合は、[F1]、[F2] ボタンにそのリールナンバーが表示されますので、該当するボタンを押します。
4. [ENTER] ボタンを押します。

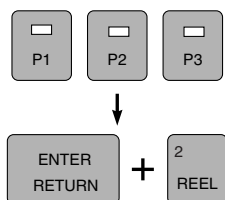
< ノート >

- 初期設定値は P1 は 0001、P2 は 0002、P3 は 0003、P4 は 0004、P5 は 0005、P6 は 0006、AUX1 は 0901、AUX2 は 0902、BKGD は 0903、CB は 0904 です。また R は 0990 に固定されています。
- EDL データを外部へ入出力するとき、CMX フォーマットや、AG-A850 フォーマットを使用される場合は、初期設定値を変更しないでください。

サーバーのクリップ設定 (CLIP)

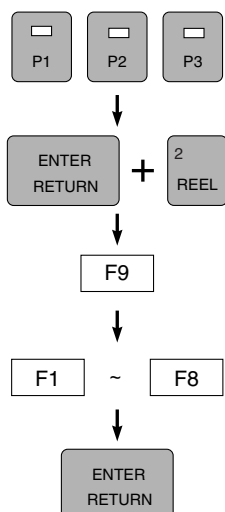
DVCPRO サーバー AJ-HDR150 を使用している場合、記録されている CLIP 名を表示させたり、選択することができます。

CLIP 名を直接、設定する



1. [P1] [P2] [P3] ボタンで、CLIP 名を変更するソースを選択します。
2. [CLIP (ENTER + 2)] ボタンを押します。
3. 画面下に、サーバーに記録されている CLIP 名が表示されます。[] [] ボタンで表示されている CLIP 名の一覧を切り替えることができます。[F1] ~ [F8] ボタンで CLIP 名を選択します。

CLIP 名を入力して設定する



1. [P1] [P2] [P3] ボタンで、CLIP 名を変更するソースを選択します。
2. [CLIP (ENTER + 2)] ボタンを押します。
3. [F9 (FILE INPUT)] ボタンを押します。
4. [0] ~ [9]、[F1] ~ [F8] ボタンを使って CLIP 名を入力します。
(例えば 'M' を入力する場合は [F3] ボタンを 3 回入力します。)
5. [ENTER] ボタンを押します。
EDL データに登録できる CLIP 名は最大 100 件です。

< ノート >

サーバー接続しているポートは、PORT ASSIGN (103 ページ) の PORT STATUS を P1 (SVR) ~ P6 (SVR) に設定してください。

補助機能

修正した編集点を元に戻す (LAST X)

修正したり、取り消した編集点のデータを元に戻すことができます。



1. [LAST X (SHIFT + 7)] ボタンを押します。元のデータに戻ります。
2. [LAST X] ボタンを繰り返して押すと、4 回前までの変更元データへさかのぼることができます。さらに[LAST X] ボタンを押すと最初のデータに戻ります。

一度編集したデータを呼び出す (LAST ED)

前に編集 (プレビュー) したデータに戻すとき押します。



1. [LAST ED (SHIFT + 8)] ボタンを押します。前に編集 (プレビュー) したデータに戻ります。
2. さらに、[LAST ED] ボタンを繰り返して押すと、直前に編集 (プレビュー) したデータと、交互に表示されます。

[ご参考] LAST ED (EVENT DATA) バッファ

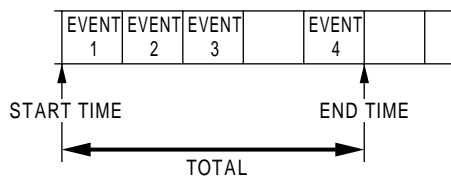
LAST ED バッファに自動的に登録されるデータは、EDL メモリーに登録された最新の編集済みデータや、変更する前のプレビューデータです。[LAST ED] ボタンを押すと、このバッファ内に登録されたデータの表示に戻ります。データ変更後にプレビューを実行したけれど、変更前のほうが良かったといった場合に便利です。

編集の合計時間の表示 (TOTAL)

液晶部に編集スタートからの時間を表示します。長さの決まっている編集を行うとき、編集時間を確認をできます。

[ご参考] スタート/エンド時間

編集点の設定の状態などにより、計算の基準となる時間が異なります。編集の合計時間は、次のエンド時間からスタート時間を引いた時間になります。



スタート時間

最初の編集スタート時に MRK STRT (SHIFT + MARK SPEED) ボタンを押します。

入力しない場合は、EDL メモリーの最初のイベントに設定した編集データのレコーダ IN 点をスタート時間とします。SETUP の SHOW START でスタート時間を設定することもできます。

エンド時間

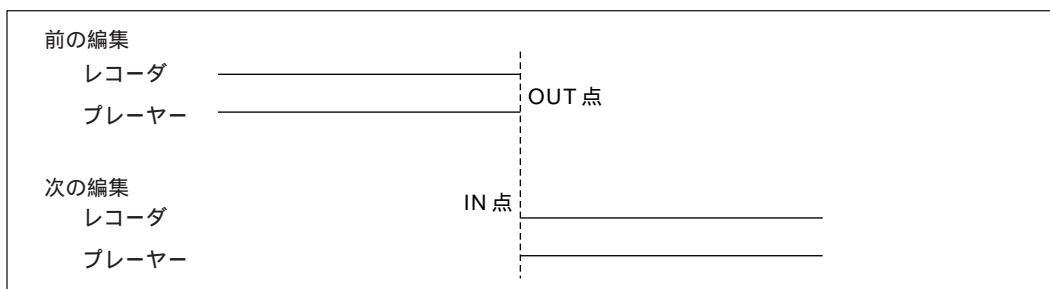
表示しているイベントのレコーダ OUT 点をエンド時間とします。レコーダ OUT 点が未設定のときはレコーダ IN 点を、レコーダ IN 点も未設定のときは、前のイベントのレコーダ OUT 点をエンド時間とします。

補助機能

オートタグ

デフォルトの設定ではオートタグ機能が動作します。

編集を [AUTO EDIT/END] で終了するとニューイベント (新しい編集) のIN点は、レコーダ・プレーヤーとも、前の編集に連続するように自動登録されます。



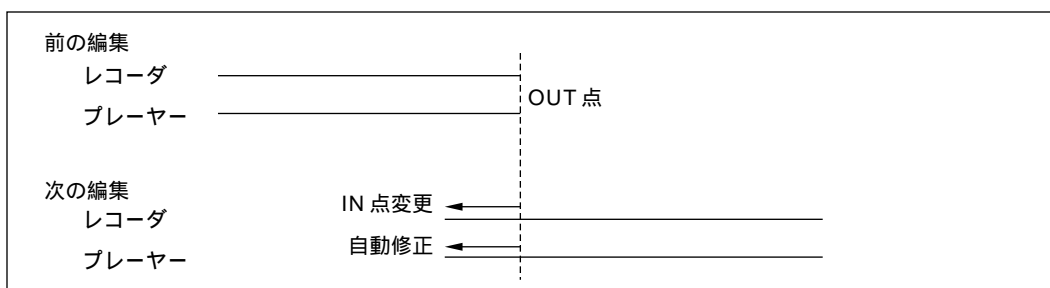
< ノート >

「操作方法のセットアップ」(88 ページ) の AUTO TAG の設定により、自動登録を行わないようにすることもできます。

自動タイムトラック (自動マッチフレーム)

レコーダのIN点を変更したとき、プレーヤーのIN点は時間関係を保つよう自動修正されます。

自動タイムトラックはレコーダのIN点変更時のみ機能します。



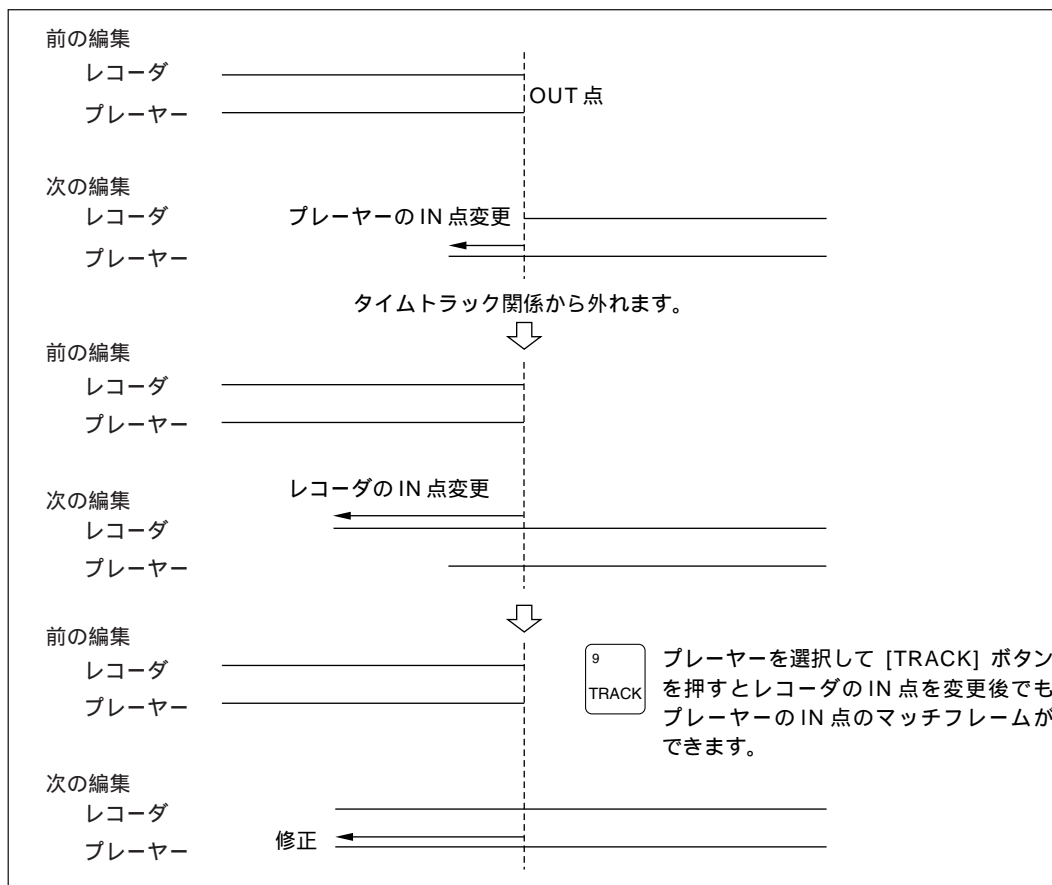
[ご参考]

オートタグで登録されたプレーヤーのIN点は、自動タイムトラックの対象となり次のように表示します。

(例) 01:23:45:24' ' マークを表示

TRACK (手動タイムトラック)

プレーヤーのIN点を入力し直すとタイムトラックの関係が外れます。
[TRACK] ボタンを押すとマッチフレーム関係に戻ることができます。



コレクト機能 (CORCT)

ニューイベント以外の (編集データがすでに登録されている) イベントで、編集データの修正を行う機能です。



1. [CORCT (SHIFT+5)] ボタンを押します。変更した編集データを EDL メモリーに登録します。
2. レコーダ VTR の編集 OUT 点に変更されているときは、変更確認画面になります。初期設定では、編集データを変更したイベント以降の全イベントに対してリップル処理を行います。リップル処理を行うイベントの範囲を変更する場合は、[F6 (START)] ボタン、または [F7 (END)] ボタンを押し、数値入力ボタンで範囲を指定します。リップル処理を行わない場合は [F8 (NO RIPPLE)] ボタンを押します。
3. 編集データの変更を確定する場合は [F1 (YES)] ボタンを、変更を中止する場合は [F2 (NO)] ボタンを押します。

[ご参考]

編集データが登録済みのイベントで、編集点などを変更することは可能です。ただし [CORCT] ボタンを押さないと変更した内容は EDL メモリーには登録されませんので、再度イベントを呼び出したとき変更前の編集データにもどります。

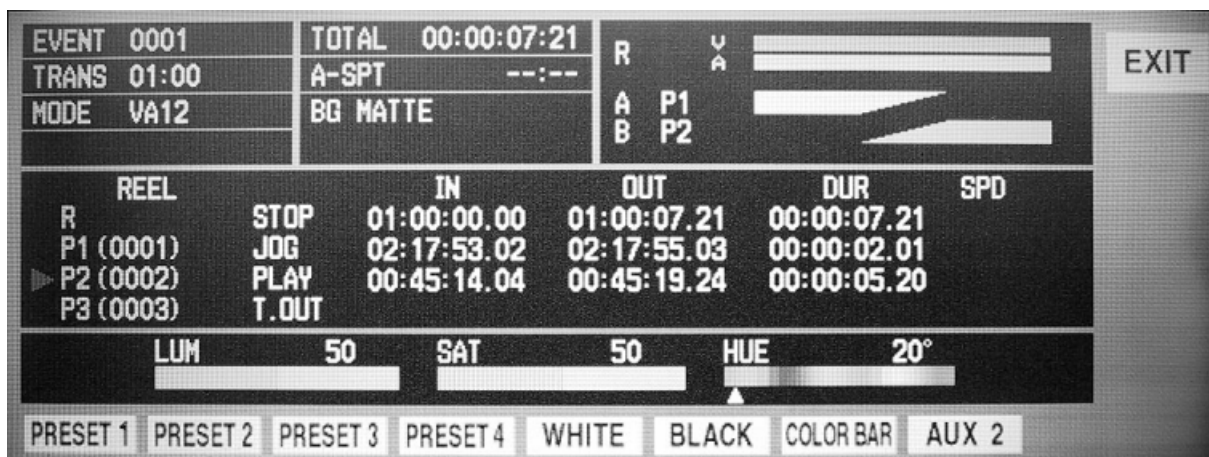
補助機能

BG MATTE 設定

マットカラーの設定およびAUX-Bで使用するソースの選択を行います。

1. バックグラウンドモード

HOMEメニューで[F8 (BG MATTE)] ボタンを押します。



2. 調整

ボリュームで色を調整するか、[F1] から [F8] ボタンで設定済みの色を選択してBG色を設定します。

- ボリュームで調整する場合
 - ① [LUM] ボリュームで明るさを調整します。
 - ② [SAT] ボリュームで色の濃さを調整します。
 - ③ [HUE] ボリュームで色合いを調整します。
- 設定済みの色を選択する場合
 - [F1 (PRESET 1)]
~ [F4 (PRESET 4)] : プリセット値を呼び出すことができます。プリセット値の設定方法はSW'ERメニューのページを参照してください。
 - [F5 (WHITE)] : BG色を白に設定します。
 - [F6 (BLACK)] : BG色を黒に設定します。
 - [F7 (COLOR BAR)] : BGにカラーバーを出力します。
 - [F8 (AUX 2)] : BGにAUX 2を選択します。

[ご参考]

ソース選択部の[AUX-B]を押したときは、上記の設定で選んでいるソースになります。(「ポート、ディレイの拡張セットアップ」(103ページ)を参照)

- [F1 (PRESET 1)] ~ [F4 (PRESET 4)]、[F5 (WHITE)]、[F6 (BLACK)]
バックグラウンド (BKGD) に割り付けられたクロスポイントを選択します。
- [F7 (COLOR BAR)]
カラーバー (CB) に割り付けられたクロスポイントを選択します。
- [F8 (AUX 2)]
AUX 2 に割り付けられたクロスポイントを選択します。

補助機能

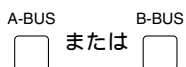
画像のモニター

ビデオスイッチャーのモニター出力を使用して信号を確認します。

スイッチャーのクロスポイント（スイッチャー入力と編集コントローラーのボタン [P1/P2/AUX] の関係）は「ポート、ディレイの拡張セットアップ」(103 ページ) で正しく設定してください。

ソース選択部の A 列または B 列で選択した信号のモニター

MONITOR OUT 部



1. MONITOR OUT 部の [A-BUS] または [B-BUS] ボタンを押します。

エフェクト（ワイプ、バックグラウンド）の確認

A 列、B 列で選択した信号へエフェクト（特殊効果）をかけた状態をモニターできます。

ワイプのボーダー幅、カラー、バックグラウンドのカラー等の調整等が行えます。

MONITOR OUT 部



1. MONITOR OUT 部の [EFF] を押します。

VTR ソース選択部で選択した VTR、AUX の信号の確認

通常はこのモードになっていますので、特に [VTR] ボタンを押す必要はありません。

MONITOR OUT 部



1. MONITOR OUT 部の [VTR] を押します。
2. VTR ソース選択部の [P1] [AUX] 等のボタンを押します。

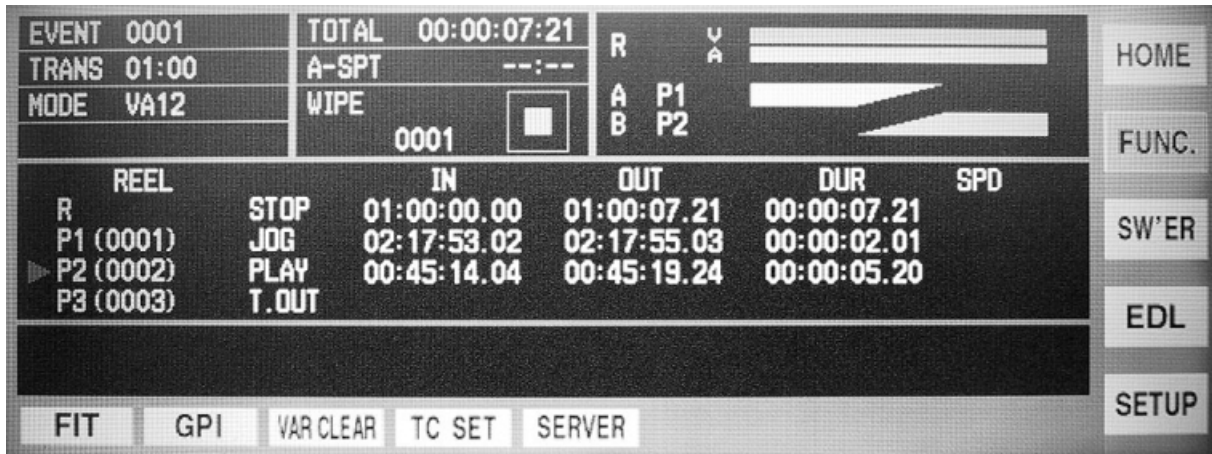
プレビュー時の画像のモニター

レコーダの出力をスイッチャーの MONITOR IN へ接続しておく、編集集中にレコーダのポストロールを含めた編集結果と同じ映像、音声を確認できます。

FUNCメニュー

特殊操作を行うためのメニューです。以下の操作を行うことができます。

- フィット処理の実行
- GPIの出力設定
- VARメモリのクリア
- TCインサート編集の開始点設定



フィット処理の実行

レコーダVTRの編集区間にプレーヤーVTRの編集区間がちょうど収まるように、プレーヤーVTRのスピードを調整することができます。

1. レコーダVTRとプレーヤーVTRの編集点（編集区間）を入力します。
2. スピードを調整したいVTRを選択します。
3. [F12] ボタンを押してFUNCメニューを開き [F1 (FIT)] ボタンを押すとフィット処理が実行されます。

<ノート>

再生VTRがスロー編集に対応していない場合にフィット処理を行うと、編集が正しく行われません。

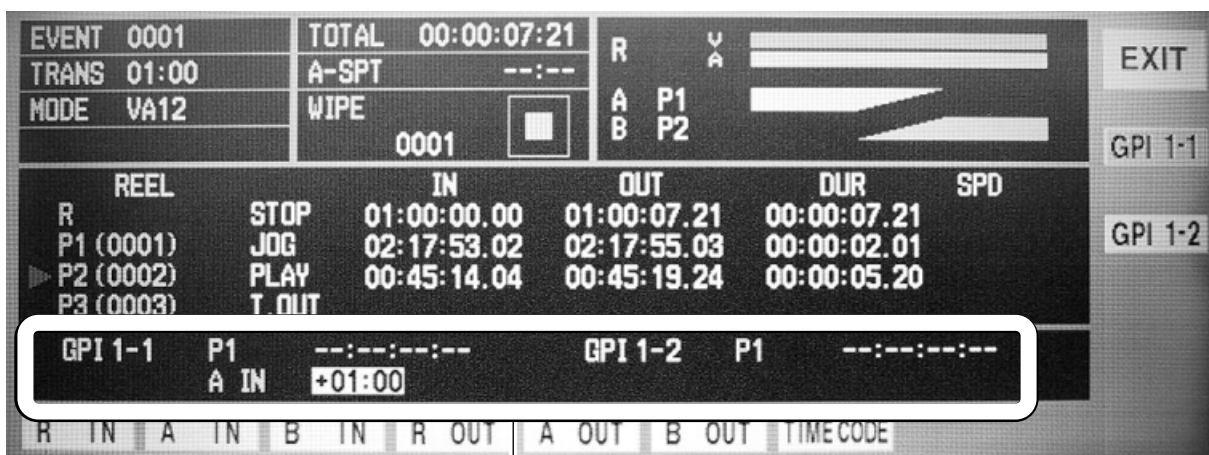
FUNCメニュー

GPIの出力設定

GPI端子を使って、トリガー入力端子を持った外部機器などを制御することができます。本メニューではGPI 1出力端子の出力タイミングをイベントごとに設定することができます。出力は1イベントにつき2回（GPI 1-1、GPI 1-2）まで行うことができます。

全イベント共通のGPI設定（GPI 1およびGPI 2出力端子）については、「GPIのセットアップ」（95ページ）をご覧ください。

1. FUNCメニューで [F2 (GPI)] ボタンを押すと、GPIの設定画面が表示されます。



1行目：現在の設定値
2行目：入力中の値

2. GPI 1-1 の設定を行う場合は [F12 (GPI 1-1)] ボタンを押します。GPI 1-2 の設定を行う場合は [F11 (GPI 1-2)] ボタンを押します。
3. [F1] ~ [F7] ボタンでGPI出力点の入力方式を設定します。
 - [F1 (R IN)] : レコーダの編集 IN 点を基準点とした相対値で入力します。
 - [F2 (A IN)] : A ソースの編集 IN 点を基準点とした相対値で入力します。
 - [F3 (B IN)] : B ソースの編集 IN 点を基準点とした相対値で入力します。
 - [F4 (R OUT)] : レコーダの編集 OUT 点を基準点とした相対値で入力します。
 - [F5 (A OUT)] : A ソースの編集 OUT 点を基準点とした相対値で入力します。
 - [F6 (B OUT)] : B ソースの編集 OUT 点を基準点とした相対値で入力します。
 - [F7 (TIME CODE)] : VTR を選択してタイムコードを直接入力します。
4. 数値入力ボタンで値を入力した後、[ENTER] ボタンを押します。
 - 相対値で入力する場合 ([F1] ~ [F6])
基準点より早く設定する場合には [-] ボタン、基準点より遅く入力する場合は [+] ボタンを押した後、相対量を入力します。
 - タイムコードを入力する場合 ([F7])
[P1] ~ [P3]、[R] ボタンで VTR を選択した後、タイムコードを入力します。

[ご参考]

- [GPI (SHIFT + 1)] ボタンを押しても、同様の設定ができます。
- 設定できる相対時間は ± 59 秒 29 フレーム (NTSC) [± 59 秒 24 フレーム (PAL)] までです。
- GPI 設定を取り消すには GPI の設定画面を開いて [CLEAR] ボタンを押してください。

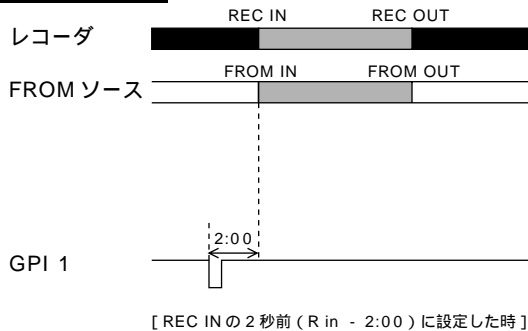
<ノート>

- 編集動作を行わない VTR で設定しても GPI は出力されません。
- 編集区間外（プリロールからポストロール区間外）での GPI の設定はしないでください。正常に GPI 出力がされないことがあります。

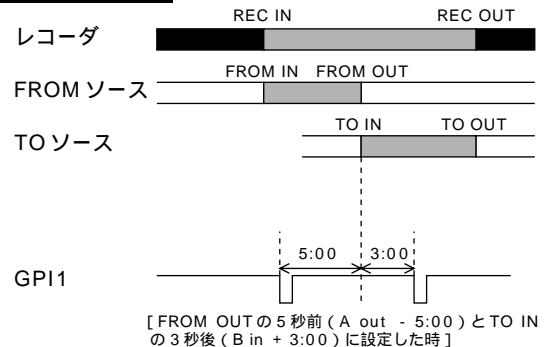
FUNC メニュー

GPI 端子からの出力信号

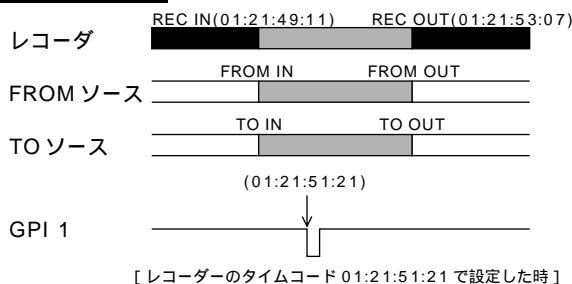
CUT 編集



A/B ロール編集



シンクロロール編集



[ご参考]

実際の GPI の出力信号は、「GPI の拡張セットアップ」(102 ページ) により調整できます。AJ-A900 の初期設定ではこの図の出力タイミングより 1 フレーム早く GPI 信号が出力されます。

VAR メモリのクリア

FUNC メニューで [F3 (VAR CLEAR)] ボタンを押すと VAR メモリがクリアされます。

TC インサート編集の開始点設定

TC インサート編集や手動記録時のタイムコードの初期値を設定します。

FUNC メニューで [F4 (TC SET)] ボタンを押すと、タイムコード入力状態になります。数値入力ボタンで開始点に設定したいタイムコードを入力して [ENTER] を押します。

[ご参考]

[T SET (SHIFT + 3)] ボタンを押しても、同様の設定ができます。

サーバー情報の表示

DVCPRO サーバー AJ-HDR150 を接続時、サーバーの空き容量を表示します。

SW'ERメニュー

外部スイッチャーの設定を行うためのメニューです。以下の設定を行うことができます。

- BG色、ワイブパターンの境界色、キー縁取り色のプリセット値設定
- モザイクとワイブ、キーの境界効果のプリセット値設定
- スイッチャーとミキサーの動作設定

BG色、ワイブパターン境界色、キー縁取り色のプリセット値設定

SW'ERメニューで[F12 (MATTE)] ボタンを押すと、MATTE設定画面になります。



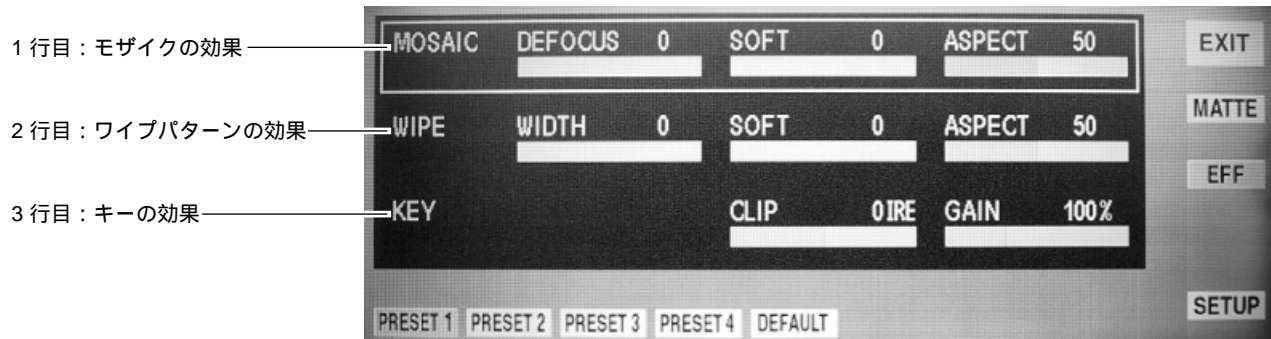
1. [] [] ボタンでカーソルを移動させ、設定を行う項目を選択します。
2. [F1 (PRESET 1)] ~ [F4 (PRESET 4)] ボタンを押して、設定するプリセット番号を選択します。選択された番号が黄色で表示されます。
3. ポリリュムで[LUM]、[SAT]、[HUE]項目を希望の値に設定します。
4. 複数のプリセット値を設定する場合は1. ~ 3. の操作を繰り返します。

[ご参考]

- 設定中、プリセット値は常に上書きされています。変更をキャンセルすることはできませんのでご注意ください。

モザイク、ワイブ、キーの効果のプリセット値設定

SW'ERメニューで[F11 (EFF)] ボタンを押すと、EFF設定画面になります。



1. [] [] ボタンでカーソルを移動させ、設定を行う項目を選択します。
2. [F1 (PRESET 1)] ~ [F4 (PRESET 4)] ボタンを押して、設定するプリセット番号を選択します。選択された番号が黄色で表示されます。
3. ポリリュムで各項目を希望の値に設定します。
4. 複数のプリセット値を設定する場合は1. ~ 3. の操作を繰り返します。

[ご参考]

- 設定中、プリセット値は常に上書きされています。変更をキャンセルすることはできませんのでご注意ください。
- 各項目の設定については、それぞれの特殊効果を用いた編集のページを参照してください。

スイッチャーとミキサーの動作設定

SW'ERメニューで[F9 (SETUP)] ボタンを押すと、動作設定画面になります。

(AVスイッチャーAJ-HSW900を接続しているときのみに有効です。詳しい内容は「外部機器のセットアップ」(109ページ)をご覧ください。

EDL 表示画面

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
0001R	0000	V12	C			00:00:00:00	00:02:50:00	00:00:00:00	00:02:50:00
0002R	0000	V1234+	C	S		00:02:50:00	00:04:20:02	00:02:50:00	00:04:50:02
0002R	0002	V1234+	W0004		00:10	00:00:10:00	00:00:40:00	00:02:50:00	00:04:50:02
0003R	0000	V12	C	S		00:04:50:02	00:05:35:04	00:04:50:02	00:05:35:04
0004	0000	V12	C			00:05:35:04	00:07:05:06	00:05:35:04	00:07:50:06
0004	0001	V12	D		00:15	00:00:10:00	00:00:55:00	00:05:35:04	00:07:50:06
0005	0001+075	V1234+	C			00:00:55:00	00:01:10:02	00:07:50:06	00:08:10:08
0006	0001	V1234+	KB			00:01:15:02	00:02:00:04	00:08:10:08	00:08:55:08
0006	0008	V1234+	KI			00:00:00:00	00:00:45:00	00:08:10:08	00:08:55:08
0007	0001+150	V12	C	G		00:02:00:04	00:03:52:18	00:08:55:08	00:10:10:08
0008	0004	V12	M			00:02:15:04	00:02:30:04	00:10:10:08	00:10:25:08
⑪	AUDIO SPLIT IN ADVANCE 01:00 OUT DELAY 00:15								F13 EXIT F11 PAGE UP F10 PAGE DOWN
	JUMP ERASE DELETE INSERT MOVE COPY COPY/REW 1/2								

- ① イベント番号
編集データのイベント番号を4桁で表示します。イベントが編集済みの場合は後ろにRマークが表示されます。
- ② VTR 番号
表示された編集データのソースを番号で表示します。
0000 : レコーダ
0001 ~ 0006 : プレーヤー1 ~ プレーヤー6
0007 : AUX
0008 : AUX2
0009 : BKGD
000A : CB
- ③ VTR スピード
VTRのスピード設定が変更されている場合に表示されます。
- ④ エディットモード
編集モードを表示します。
V : ビデオのインサート
12345678 : オーディオチャンネル1、2、3、4、5、6、7、8のインサート(設定されたオーディオチャンネルが4つを越える場合は、後ろに+が表示されます)
ASMBL : アッセンブルモード
TC : TCインサートモード
- ⑤ 特殊効果
特殊効果を表示します。
C : 同一イベント番号の行が1行の場合は、カット編集を示します。
同一イベント番号の行が2行の場合は、ディゾルブ、ワイプ編集のAロールを示します。
D : ディゾルブ編集のBロールを示します。
W : ワイプ編集のBロールを示します。後ろにワイプパターンの番号が表示されます。
M : モザイク編集を示します。
KB : キー編集のバックグラウンドを示します。
KI : キー編集のフォアグラウンドを示します。
- ⑥ トランジション設定値、スプリット設定マーク、GPI設定マーク
ディゾルブ、ワイプ編集の場合はBロールの表示行にトランジションの値が表示されます。
また、スプリットが設定されている場合はSマーク、GPIが設定されている場合はGマークが表示されます。(ディゾルブ、ワイプ編集の場合はAロールの表示行に表示されます)
- ⑦ ソースIN点タイムコード
ソースのIN点のタイムコードを表示します。
- ⑧ ソースOUT点タイムコード
ソースのOUT点のタイムコードを表示します。
- ⑨ レコーダIN点タイムコード
レコーダのIN点のタイムコードを表示します。(ディゾルブ、ワイプ編集のBロール表示行ではAロールのデュレーションとレコーダIN点のタイムコードを足した値が表示されます)
- ⑩ レコーダOUT点タイムコード
レコーダのOUT点のタイムコードを表示します。(ディゾルブ、ワイプ編集のAロール表示行ではAロールのデュレーションとレコーダIN点のタイムコードを足した値が表示されます)
- ⑪ スクラッチパッドエリア
スプリットが設定されているイベントにカーソルを合わせると、スプリットの設定値が表示されます。また、イベント操作を行う場合は問い合わせメッセージが表示されます。

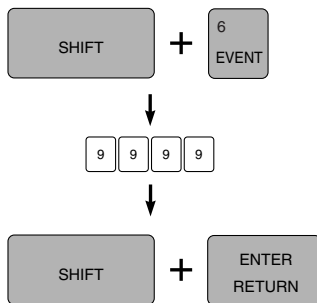
EDL メニュー

EDL 操作

シングルイベントとマルチイベント

ニュース編集等ではレコーダ、プレーヤーのIN点のみを指定しOUT点を指定しないオープンエンド編集を行い、終了は[ALL STOP]で止める操作が多々行われます。[AUTO EDIT/END]ボタンで止めた場合は問題ありませんが、[ALL STOP]で止めるとEDLに登録されず常に同じイベントを上書きします。このような操作ではマルチイベント管理を行う必要はありませんので、「操作方法のセットアップ」(88ページ)のEVENT CONTROLでシングルイベント処理に変更することをおすすめします。

EDLの全消去



1. [EVENT (SHIFT + 6)] の後に数値入力ボタンで「9999」と入力します。
2. [SHIFT] ボタンと [ENTER] ボタンを同時に押します。

[ご参考]

[ALL CLEAR (SHIFT + CLEAR)] ボタンを押しながら電源を投入しても全 EDL を消去することができます。

マルチ EDL 登録モード (256 イベント × 2 リストモード) においてこの操作をすると、表示されているリストだけでなく、他方のリストも消去されます。

EDL データの呼び出し

0001R	0000	V12	C			00:00:00:00	00:02:50:00	00:00:00:00	00:02:50:00
0002R	0000	V1234+	C	S		00:02:50:00	00:04:20:02	00:02:50:00	00:04:50:02
0002R	0002	V1234+	W0004		00:10	00:00:10:00	00:00:40:00	00:02:50:00	00:04:50:02
0003R	0000	V12	C	S		00:04:50:02	00:05:35:04	00:04:50:02	00:05:35:04
0004	0000	V12	C			00:05:35:04	00:07:05:06	00:05:35:04	00:07:50:06
0004	0001	V12	D		00:15	00:00:10:00	00:00:55:00	00:05:35:04	00:07:50:06
0005	0001+075	V1234+	C			00:00:55:00	00:01:10:02	00:07:50:06	00:08:10:08
0006	0001	V1234+	KB			00:01:15:02	00:02:00:04	00:08:10:08	00:08:55:08
0006	0008	V1234+	KI			00:00:00:00	00:00:45:00	00:08:10:08	00:08:55:08
0007	0001+150	V12	C	G		00:02:00:04	00:03:52:18	00:08:55:08	00:10:10:08
0008	0001	V12	M			00:03:15:04	00:03:30:04	00:10:10:08	00:10:25:08

AUDIO SPLIT	IN	ADVANCE	01:00	OUT	DELAY	00:15	F13 EXIT	
JUMP	ERASE	DELETE	INSERT	MOVE	COPY	COPY to NEW	1/2	F11 PAGE UP
								F10 PAGE DOWN

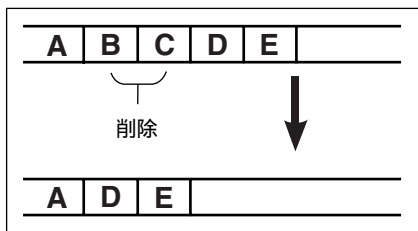
1. [F10 (EDL)] ボタンを押します。現在表示中のイベント以後の EDL データの表示を行います。
2. カーソルを移動するには [] [] ボタンを押します。また [F10 (PAGE DOWN)]、[F11 (PAGE UP)] ボタンでページ送りができます。
また、[F1 (JUMP)] ボタンを押して、イベント番号を入力し、[ENTER] ボタンを押すと、入力したイベント番号以降の EDL データが表示されます。
3. イベントを呼び出すには、そのイベントへカーソルを合わせて [ENTER] ボタンを押してください。
4. イベントを呼び出さず、元の表示に戻るには [F13 (EXIT)] ボタンを押してください。

EDL メニュー

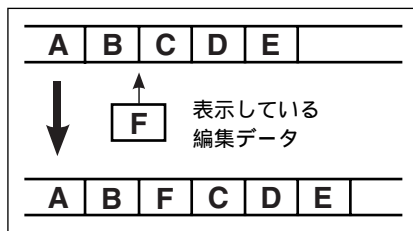
EDLの加工 (LIST MANAGEMENT)

AJ-A900には、次のようなリストマネジメント機能があります。

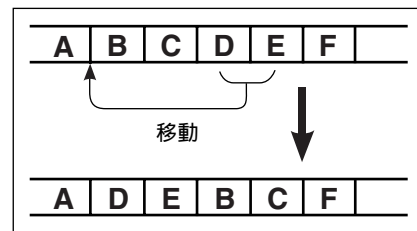
- イベントの範囲を決めて、編集データを消したい.....削除 (DELETE)
- EDLメモリーの任意の場所にイベントを作りたい.....挿入 (INSERT)
- 編集データをEDLメモリーの任意の場所に移したい.....移動 (MOVE)
- 編集データをEDLメモリーの任意の場所に複製したい.....コピー (COPY)
- 編集データをニューイベントに複製したい.....コピー to ニュー (COPY to NEW)
- 特定の記録済イベントをもう一度マルチイベント編集したい.....Rマーク (REC MARK)
- レコーダの編集点を登録順に連続して書き換えたい.....ラインアップ (LINE UP)
- イベント番号を登録順に振り直したい.....リナンバー (RENUMBER)



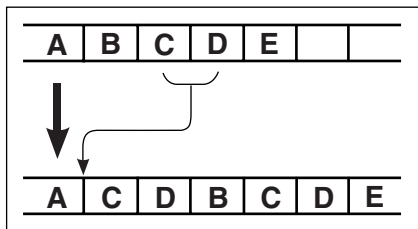
削除



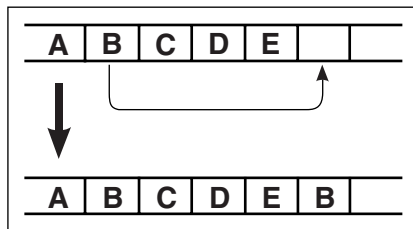
挿入



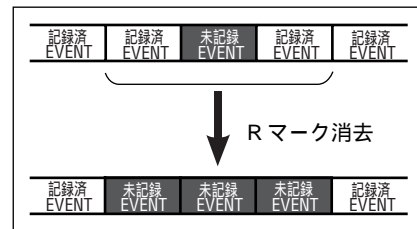
移動



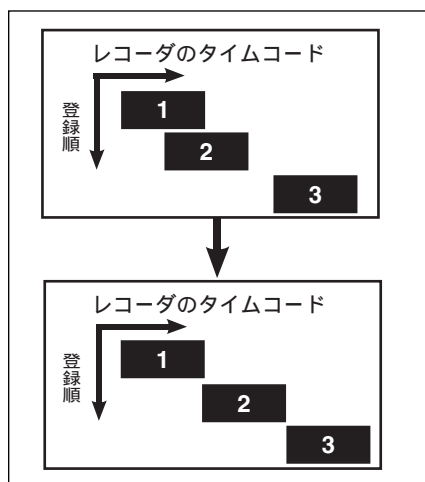
コピー



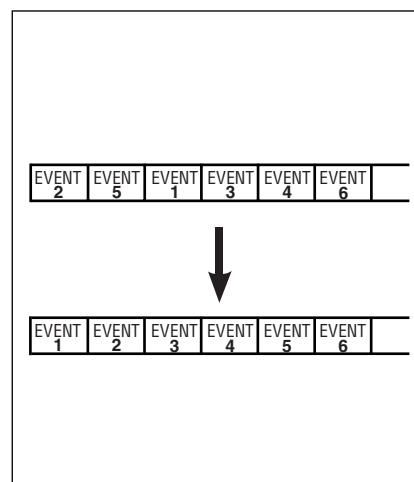
コピー to ニュー



R マーク



ラインアップ



リナンバー

EDL メニュー

編集データ操作

HOME メニューで [F10 (EDL)] ボタンを押します。画面に EDL が表示されます。

[F1] ~ [F7] ボタンでリストマネージメントの機能を選択して、操作を行います。途中で中断するには、[F13 (EXIT)] などのボタンを押します。

ファンクションのメニュー (機能 1, 2) を切り替えるには [F8] ボタンを押します。

ボタン	機能 1 (1/2)	機能 2 (2/2)
[F1]	表示イベント指定 (JUMP)	ラインアップ (LINE UP)
[F2]	消去 (ERASE)	リナンバー (RENUMBER)
[F3]	削除 (DELETE)	R マーク設定 (R SET)
[F4]	挿入 (INSERT)	R マーク解除 (R RESET)
[F5]	移動 (MOVE)	
[F6]	コピー (COPY)	EDL データの送信 (DUMP)
[F7]	コピー to ニュー (COPY to NEW)	EDL データの受信 (LOAD)

表示イベント指定 (1/2 - [F1 (JUMP)])



1. [0] ~ [9] の数値入力ボタンで、表示したいイベント番号を入力して、[ENTER] ボタンを押します。

[ご参考]

- [F1 (TOP)] ボタンを押すと、全 EDL の最初のイベントを表示します。
- [F2 (BOTTOM)] ボタンを押すと、全 EDL の最後のイベントを表示します。
- [F3 (CURRENT)] ボタンを押すと、HOME メニューで表示されていたイベントを表示します。

消去 (1/2 - [F2 (ERASE)])

削除 (1/2 - [F3 (DELETE)])



1. [F3 (START)] ボタンを押し、[0] ~ [9] の数値入力ボタンで、消去 (削除) する先頭のイベント番号を入力します。
2. [F4 (END)] ボタンを押し、[0] ~ [9] の数値入力ボタンで消去 (削除) する最後のイベント番号を入力します。
3. [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。操作 1.、2. で指定したイベントの編集データが削除されます。上記 1.、2. でイベントを指定しないときは、カーソルを表示しているイベントのみが消去 (削除) されます。
4. リップル処理を行うときは、上記 1.、2. と同様に範囲を指定して [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[F13 (EXIT)] ボタンを押します。

[ご参考] 消去と削除の違い

消去：編集データは EDL メモリーに残りませんので、再び呼び出すことはできません。

削除：編集データは EDL メモリーに残っていますので、[EVENT] ボタンを押してイベント番号を入力することで、再び呼び出すことができます。

ただし、ニューイベントでイベント番号を指定せずに削除した場合の編集データは再び呼び出すことはできません。

<ノート>

範囲指定は、カーソルを先頭のイベントに合わせた後、[SHIFT] ボタンを押しながらカーソルを最後のイベントまで移動させることで可能です。またこの操作は以下全てのリストマネージメントの操作で可能です。

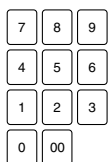
EDLメニュー

挿入 (1/2 - [F4 (INSERT)])



1. [F3 (TO)] ボタンを押し、[0]~[9]の数値入力ボタンで、イベントを挿入したい位置の直前にあるイベント番号を入力します。
2. [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。表示されている編集イベントが、操作 1.で指定したイベントの後に挿入されます。上記 1.でイベントを指定しないときは、カーソルを表示しているイベントの後に挿入されます。
3. リップル処理を行うときは、「2.消去」の 1.、2.と同様に範囲を指定して [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[F13 (EXIT)] ボタンを押します。

移動 (1/2 - [F5 (MOVE)])

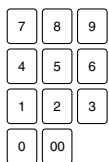


1. [F3 (START)] ボタンを押し、[0]~[9]の数値入力ボタンで、移動する先頭のイベント番号を入力します。
2. [F4 (END)] ボタンを押し、[0]~[9] の数値入力ボタンで移動する最後のイベント番号を入力します。
3. [F5 (TO)] ボタンを押し、[0]~[9] の数値入力ボタンで移動先のイベント番号を入力します。
4. [F1 (OK)] ボタンを押します。上記 1.、2.で指定したイベントの編集データを上記 3.で指定したイベントの後ろに移動します。上記 1.、2.でイベントを指定しないときは、カーソルを表示しているイベントをコピー移動します。
5. リップル処理を行うときは、上記 1.、2.と同様に範囲を指定して [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[F13 (EXIT)] ボタンを押します。

< ノート >

移動するイベントの中に、移動先のイベントを含んでいるとき、エラーとなることがあります。

コピー (1/2 - [F6 (COPY)])



1. [F3 (START)] ボタンを押し、[0]~[9]の数値入力ボタンで、コピーする先頭のイベント番号を入力します。
2. [F4 (END)] ボタンを押し、[0]~[9] の数値入力ボタンでコピーする最後のイベント番号を入力します。
3. [F5 (TO)] ボタンを押し、[0]~[9] の数値入力ボタンでコピー先のイベント番号を入力します。
4. [ENTER] ボタンを押します。上記 1.、2.で指定したイベントの編集データを上記 3.で指定したイベントの後ろにコピーします。上記 1.、2.でイベントを指定しないときは、カーソルを表示しているイベントをすべてコピーします。
5. リップル処理を行うときは、上記 1.、2.と同様に範囲を指定して [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[F13 (EXIT)] ボタンを押します。

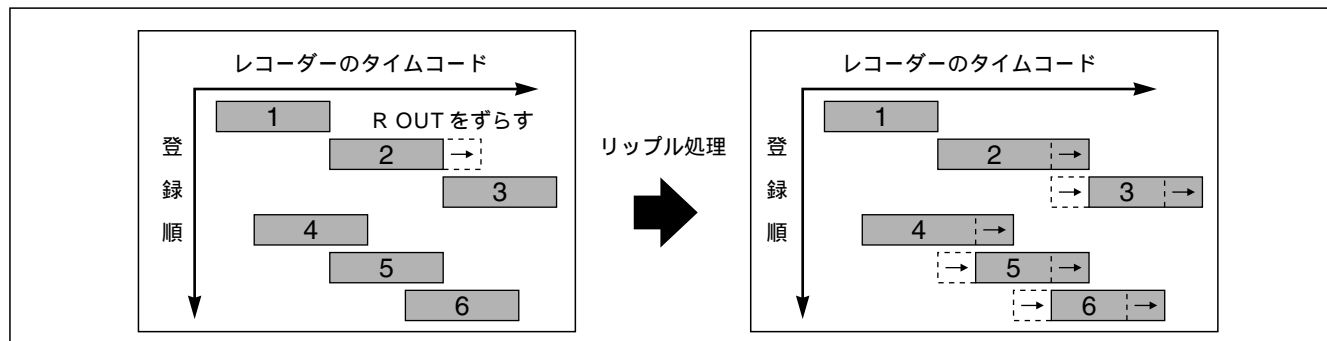
< ノート >

コピーするイベントの中に、コピー先のイベントを含んでいるとき、エラーとなることがあります。

EDL メニュー

[ご参考] リップル処理について

レコーダー OUT 点の変更や編集データの削除や移動などによって生じるレコーダーの編集点のずれを修正し、連続した編集になるよう関係するタイムコードを変更します。



コピー to ニュー (1/2 - [F7 (COPY to NEW)])

ENTER
RETURN

1. [F3 (SOURCE)] ボタンを押し、[0]~[9]の数値入力ボタンで、コピーするイベント番号を入力します。
2. [ENTER] または[F1 (OK)] ボタンを押します。上記 1.で指定したイベントの編集データを、ニューイベントにコピーします。

ラインアップ (2/2 - [F1 (LINE UP)])



ENTER
RETURN

1. [F3 (START)] ボタンを押し、[0]~[9]の数値入力ボタンで、ラインアップする先頭のイベント番号を入力した後、[ENTER] ボタンを押します。
2. [F4 (END)] ボタンを押し、[0]~[9] の数値入力ボタンでラインアップする最後のイベント番号を入力します。
3. [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。上記 1.、2.で指定したイベントの編集データがラインアップされます。上記 1.、2.でイベントを指定しない時は、カーソルを表示しているイベントがすべてラインアップされます。

リナンバー (2/2 - [F2 (RENUMBER)])

ENTER
RETURN

1. [ENTER] または [F1 (OK)] ボタンを押します。編集データの削除や移動などを行った結果、不連続になったイベント番号を 1 から連続するように振り直します。

<ノート>

リナンバーを行うと、削除した編集データは EDL メモリーから完全に消されます。

EDL メニュー

R マーク設定/解除 (2/2 - [F3/4 (R SET/RESET)])



1. [F3 (START)] ボタンを押し、[0]~[9]の数値入力ボタンで、R マーク処理をする最初のイベント番号を入力します。
2. [F4 (END)] ボタンを押し、[0]~[9] の数値入力ボタンで R マーク処理をする最後のイベント番号を入力します。
3. [ENTER]ボタンを押しします。上記 1.、2.で指定したイベントについて R マーク処理を行います。

[参考] R マーク (記録済マーク) について

自動編集が正常に終了すると、そのイベントは編集済イベントとして EDL メモリーに登録されます。([AUTO EDIT] ボタンが消灯しないうちに [ALL STOP] ボタンを押すと、登録されることがあります。) また、そのイベントはモニター表示でイベント番号の後ろに「R」のマークが表示され、他のイベントと区別できるようになっています。マルチイベント編集を行うとき、すでに編集が完了したイベントをとばしたいときは、「システムの拡張セットアップ」(99 ページ) の SKIP REC-MARK EVENT を ON にします。

ダンプ (2/2 - [F6 (DUMP)])

1. コンピューターなどの外部機器を、データ受信ができる状態にします。コンピューターを使用されるときは、RS-232C 用通信ソフトウェアなどを起動し、受信状態にしてください。
2. [F1]~[F4] ボタンで、出力する EDL フォーマットを選択します。[ENTER] ボタンを押します。何も選択せずに、[ENTER] ボタンを押すと、「システムの拡張セットアップ」(100 ページ) の EDL FORMAT で設定しているフォーマットが選択されます。

[F1]ボタン	AJ-A900 フォーマット
[F2]ボタン	AG-A850 フォーマット
[F3]ボタン	CMX340 フォーマット
[F4]ボタン	BVE9000 フォーマット

3. 編集データ (EDL) が RS-232C 端子より出力されます。カウンター部に出力しているイベント番号を表示します。出力されるデータは「付録 3. EDL フォーマットについて」をご覧ください。
4. EDL メモリー内の編集データをすべて転送すると終了します。途中で中断するには、[ALL STOP] ボタンを押してください。

ロード (2/2 - [F7 (LOAD)])

1. [F1]~[F5] ボタンで、入力する EDL フォーマットを選択します。[F7 (AUTO)] または [ENTER] ボタンを押すと、受信データから自動的にフォーマットを選択します。
2. コンピューターなどの外部機器からデータ送信します。カウンター部に受信しているイベント番号を表示します。
3. コンピューターの送信が終了するか、EDL メモリーがいっぱいになると、終了します。途中で中断するには、[ALL STOP] ボタンを押してください。

< ノート >

- データのダンプやロードを行うときは、AJ-A900 の設定と外部機器の設定を合わせる必要があります。AJ-A900 の標準の設定は 38400bit/s, 8bit, STOP 1bit, ODD PARITY になっています。この設定は「RS-232C の拡張セットアップ」(101 ページ) で変更することができます。
- AJ-A900 や AG-A850 同士を接続してデータ転送を行うには、EDL 端子をシリアル用インターリンクケーブルで接続し、受信側は上記のロード操作を、送信側は上記のダンプ操作を行ってください。

AJ-A900 の設定

SETUP メニュー

SETUP メニューでは、システム設定、素材の状態設定、設定データの呼び出し・保存、本機の動作状態の確認を行うことができます。SETUP メニューには通常メニューと詳細メニューの2種類のモードがあり、詳細メニューでは通常メニューにはない高度な設定項目も表示されます。通常メニューに入るには、HOME 画面で [F9 (SETUP)] を押します。詳細メニューに入るには HOME 画面で [ENTER] を押しながら [F9 (SETUP)] を押します。

各メニューの内容は以下のようになっています。■は、詳細メニュー時のみ表示される内容です。(これらのメニューはシステム構成を変えない限り変更は不要です。間違った設定を行うと、重大な支障を招く内容が含まれています)

●システム設定

- SETUP (BASIC)……………基本的な設定を行います。
- ■ SETUP (ENHANCED)……………高度な設定を行います。
- ■ SETUP (PORT ASSIGN)……………機器間の接続状態の設定を行います。
- ■ SETUP (VTR CONSTANT)……………VTR の制御パラメータの設定を行います。

●素材の状態決定

- CONFIG……………使用する素材の状態設定を行います。

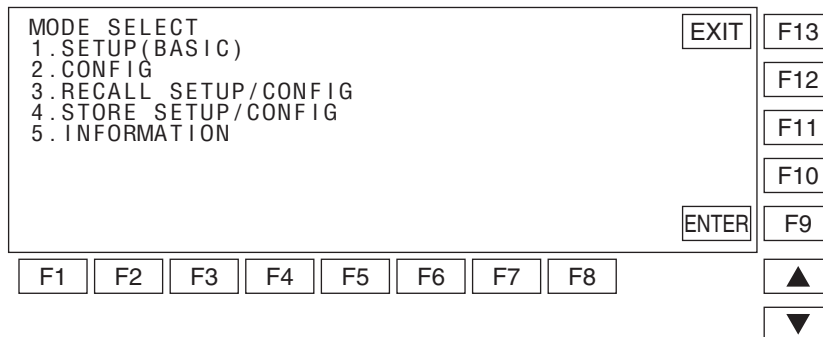
●設定内容の呼び出し・保存

- RECALL SETUP/CONFIG……………システム設定内容の呼び出しを行います。通常メニューと詳細メニューで表示項目が異なります。
- STORE SETUP/CONFIG……………システム設定内容の保存を行います。通常メニューと詳細メニューで表示項目が異なります。

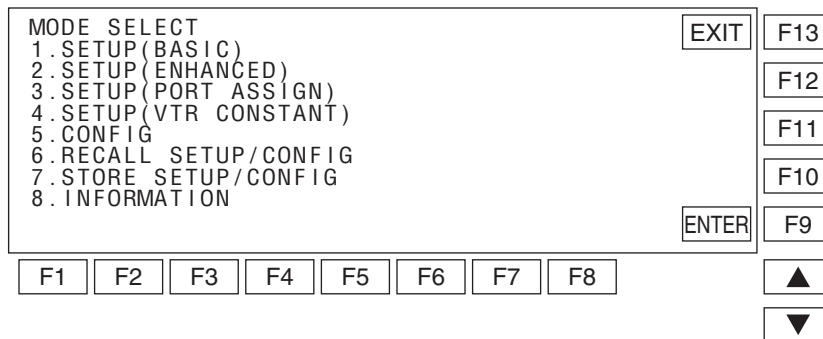
●動作状態の確認

- INFORMATION……………本機の動作状態の確認を行います。

・通常メニューの画面 (HOME 画面で [F9 (SETUP)])



・詳細メニューの画面 (HOME 画面で [ENTER] を押しながら [F9 (SETUP)])



[] [] ボタンで設定したい項目を選択し、[F9 (ENTER)] ボタンで決定すると、それぞれに応じた画面が開きます。

[F13 (EXIT)] ボタンで HOME 画面に戻ります。

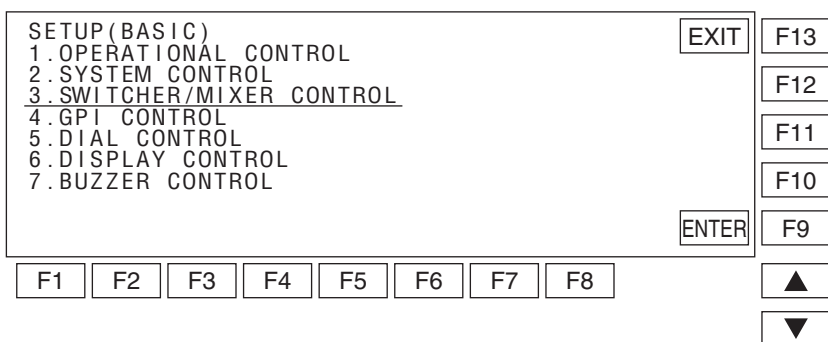
AJ-A900 の設定

システム設定

精度のよい(±0フレーム)編集をする場合や、スイッチャー・ミキサーを接続しA/Bロール編集を行うときは必ずシステム設定を行って下さい。

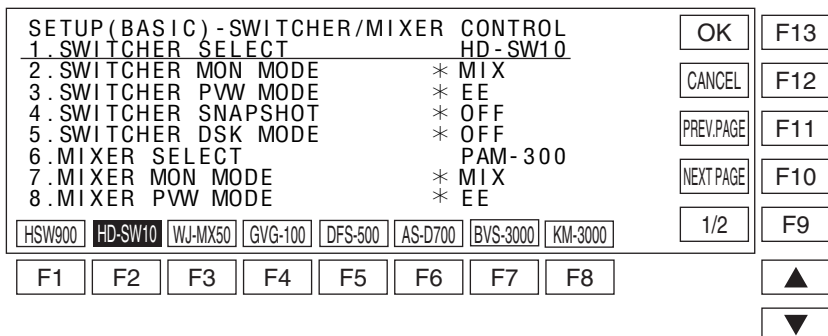
SETUP (BASIC)

本メニューでは基本的な設定を行うことができます。各設定項目の詳細は「SETUP (BASIC) の一覧」をご覧ください。(88 ~ 97 ページ)



[] [] ボタンで項目を選択し、[F9 (ENTER)] ボタンで決定すると、下図のような設定画面が表示されます。(下図は SWITCHER/MIXER CONTROL の例)

それぞれの項目名の右側には現在の設定値が表示されます。初期設定値の場合は設定値の前に * マークが表示されます。画面の下には選択されている設定項目の設定値一覧が表示されます。初期設定値は青色で表示されます。



- [] [] ボタンで設定項目を選択します。項目が2ページ以上におよぶ場合は、[F10 (NEXT PAGE)] ボタン、または一番下の項目が選択されている状態で [] ボタンを押すと次のページに移動します。[F11 (PREV. PAGE)] ボタン、または一番上の項目が選択されている状態で [] ボタンを押すと、前のページに戻ります。
- [F1] ~ [F8] で設定値を選択します。設定値が8種類を越える場合は、一覧の右側に「現在の行 / 総行数」が表示されます。[F9] ボタンで一覧を切り替えることができます。
- [F13 (OK)] ボタンを押すと、設定開始からの設定を全て確定して元の画面に戻ります。[F12 (CANCEL)] ボタンを押すと、設定を全て破棄して元の画面に戻ります。

SETUP (ENHANCED)

本メニューでは高度な設定を行うことができます。各設定項目の詳細は「SETUP (ENHANCED) の一覧」をご覧ください。(98 ~ 102 ページ)

設定方法は SETUP (BASIC) と同様です。

AJ-A900 の設定

SETUP (PORT ASSIGN)

本メニューではコントローラー、スイッチャー、ミキサー間の接続状態の設定を行うことができます。各設定項目の詳細は「SETUP (PORT ASSIGN) の一覧」をご覧ください。(103 ページ)

画面は 11 行 × 4 列で構成され、各行が設定対象 (PORT A ~ CB)、各列が設定項目 (PORT STATUS ~ PROCESS DELAY) を表しており、各設定対象、各設定項目の交点に現在の設定値が表示されています。また、初期設定値の場合は設定値の前に * マークが表示されます。

画面の下端には選択されている交点の設定値一覧が表示されます。青色で表示されるのは初期設定値です。

	PORT STATUS	SW'ER XPOINT	MIXER XPOINT	PROCESS DELAY		
PORT A	*P1	*EXT/AUTO	*EXT	*0	OK	F13
PORT B	*P1	*01	*01	*0		
PORT C	*P2	*02	*02	*0	CANCEL	F12
PORT D	P3 (SLAVE)	*03	*03	*0		
PORT E	P4 (SLAVE)	*04	*04	*0		
PORT F	*SWITCHER	*NONE	*NONE	*0	SW'ER XPOINT	F11
PORT G	*MIXER	*NONE	*NONE	*0		
AUX 1		*04	*04			F10
AUX 2		*05	*05			
BKGD		*05	*00			
CB		*06	*00			

P1 P2 P3 P4 P5 P6 R NONE 1/3

F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8

▲ ▼

- [] [] ボタンで設定対象を選択します。
- [F11] ボタンで設定項目を選択します。[F11] ボタンを押すごとに設定項目が切り替わります。
- [F1] ~ [F8] で設定値を選択します。設定値が 8 種類を越える場合は、一覧の右側に「現在の行 / 総行数」が表示されます。[F9] ボタンで一覧を切り替えることができます。
- [F13 (OK)] ボタンを押すと、設定開始からの設定を全て確定して元の画面に戻ります。[F12 (CANCEL)] ボタンを押すと、設定を全て破棄して元の画面に戻ります。

SETUP (VTR CONSTANT)

本メニューでは VTR の制御パラメータの設定を行うことができます。各設定項目の詳細は「SETUP (VTR CONSTANT) の一覧」をご覧ください。(104 ~ 107 ページ)

設定方法は SETUP (BASIC) と同様です。

素材の状態設定

CONFIG

本メニューでは編集動作を使用する素材に適したものにするための設定 (調相精度、タイムコード関連、カラーフレームの設定) を行うことができます。各設定項目の詳細は「CONFIG の一覧」をご覧ください。(108 ページ)

設定方法は SETUP (PORT ASSIGN) と同様です。

AJ-A900 の設定

設定内容の呼び出し・保存

RECALL SETUP/CONFIG

本メニューでは STORE SETUP/CONFIG (84 ページ参照) で保存したシステム設定 (SETUP(BASIC), SETUP (ENHANCED), SETUP(PORT ASSIGN), SETUP(VTR CONSTANT)) および素材の状態設定 (CONFIG) の内容を呼び出すことができます。設定内容を呼び出した場合、それまでの動作設定が全て書き換えられますのでご注意ください。

[] [] ボタンを用いて呼び出す内容を選択してください。■ は詳細メニュー時のみ表示される項目です。

● SETUP USER AREA

SETUP USER AREA に保存したシステム設定を呼び出します。呼び出せる領域は 8 つです。

1. [F1 (AREA 1)] ~ [F8 (AREA 8)] ボタンを用いて呼び出す領域を選択します。

AREA 1	AREA 2	AREA 3	AREA 4	AREA 5	AREA 6	AREA 7	AREA 8
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

2. メッセージが表示されますので、呼び出しを実行する場合は [F7 (YES)] ボタンを、キャンセルする場合は [F8 (NO)] ボタンを押します。

RECALL USER AREA1,OK?	YES	NO
-----------------------	-----	----

● SETUP USER DEFAULT

SETUP USER DEFAULT に保存したシステム設定を呼び出します。

1. 本項目にカーソルを移動させて [F9 (ENTER)] ボタンを押します。
2. メッセージが表示されますので、呼び出しを実行する場合は [F7 (YES)] ボタンを、キャンセルする場合は [F8 (NO)] ボタンを押します。

● SETUP FACTORY DEFAULT

システム設定を工場出荷時の状態に戻します。

1. 本項目にカーソルを移動させて [F9 (ENTER)] ボタンを押します。
2. メッセージが表示されますので、呼び出しを実行する場合は [F7 (YES)] ボタンを、キャンセルする場合は [F8 (NO)] ボタンを押します。

● CONFIG USER AREA

CONFIG USER AREA に保存した素材状態設定を呼び出します。呼び出せる領域は 8 つです。操作方法は SETUP USER AREA と同じです。

● CONFIG USER DEFAULT

CONFIG USER DEFAULT に保存した設定を呼び出します。操作方法は SETUP USER DEFAULT と同じです。

● CONFIG FACTORY DEFAULT

素材状態設定を工場出荷時の状態に戻します。操作方法は SETUP FACTORY DEFAULT と同じです。

● RS-232C

パソコンに保存した設定を RS-232C 経由で呼び出します。ただし、呼び出せるのはシステム設定の内容のみです。

1. 本機とパソコンを RS-232C ケーブルで接続します。
2. 本項目にカーソルを移動させて [F9 (ENTER)] ボタンを押します。
3. メッセージが表示されますので、呼び出しを実行する場合は [F7 (YES)] ボタンを、キャンセルする場合は [F8 (NO)] ボタンを押します。
4. パソコン側でデータの送信を開始させます。

AJ-A900 の設定

STORE SETUP/CONFIG

本メニューではシステム設定 (SETUP(BASIC), SETUP(ENHANCED), SETUP(PORT ASSIGN), SETUP(VTR CONSTANT)) および素材の状態設定 (CONFIG) で設定した内容を保存することができます。システム設定と素材の状態設定を別々に保存することができます。

[] [] ボタンを用いて保存先を選択してください。 [] は詳細メニュー時のみ表示される項目です。

● SETUP USER AREA

システム設定の全内容を保存します。保存領域は 8 つです。電源 OFF 状態で約 3 日間の保存が可能です。

1. [F1 (AREA 1)] ~ [F8 (AREA 8)] ボタンを用いて保存領域を選択します。

AREA 1	AREA 2	AREA 3	AREA 4	AREA 5	AREA 6	AREA 7	AREA 8
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

2. メッセージが表示されますので、保存を実行する場合は [F7 (YES)] ボタンを、キャンセルする場合は [F8 (NO)] ボタンを押します。

STORE USER AREA1,OK?	YES	NO
----------------------	-----	----

● SETUP USER DEFAULT

システム設定の全内容を保存します。保存領域は一つしかありませんが、SETUP USER AREA と異なり、電源 OFF 状態が続いても設定が消えることはありません。

1. 本項目にカーソルを移動させて [F9 (ENTER)] ボタンを押します。
2. メッセージが表示されますので、保存を実行する場合は [F7 (YES)] ボタンを、キャンセルする場合は [F8 (NO)] ボタンを押します。

● CONFIG USER AREA

素材状態設定の全内容を保存します。保存領域は 8 つです。電源 OFF 状態で約 3 日間の保存が可能です。操作方法は SETUP USER AREA と同じです。

● CONFIG USER DEFAULT

素材状態設定の全内容を保存します。保存領域は一つしかありませんが、CONFIG USER AREA と異なり、電源 OFF 状態が続いても設定が消えることはありません。操作方法は SETUP USER DEFAULT と同じです。

● RS-232C

RS-232C を用いてパソコンに設定を保存します。ただし、システム設定の内容のみ保存可能です。

1. 本機とパソコンを RS-232C ケーブルで接続します。
2. 本項目にカーソルを移動させて [F9 (ENTER)] ボタンを押します。
3. パソコン側でデータの受信を開始させます。
4. メッセージが表示されますので、保存を実行する場合は [F7 (YES)] ボタンを、キャンセルする場合は [F8 (NO)] ボタンを押します。

AJ-A900 の設定

動作状態の確認

INFORMATION

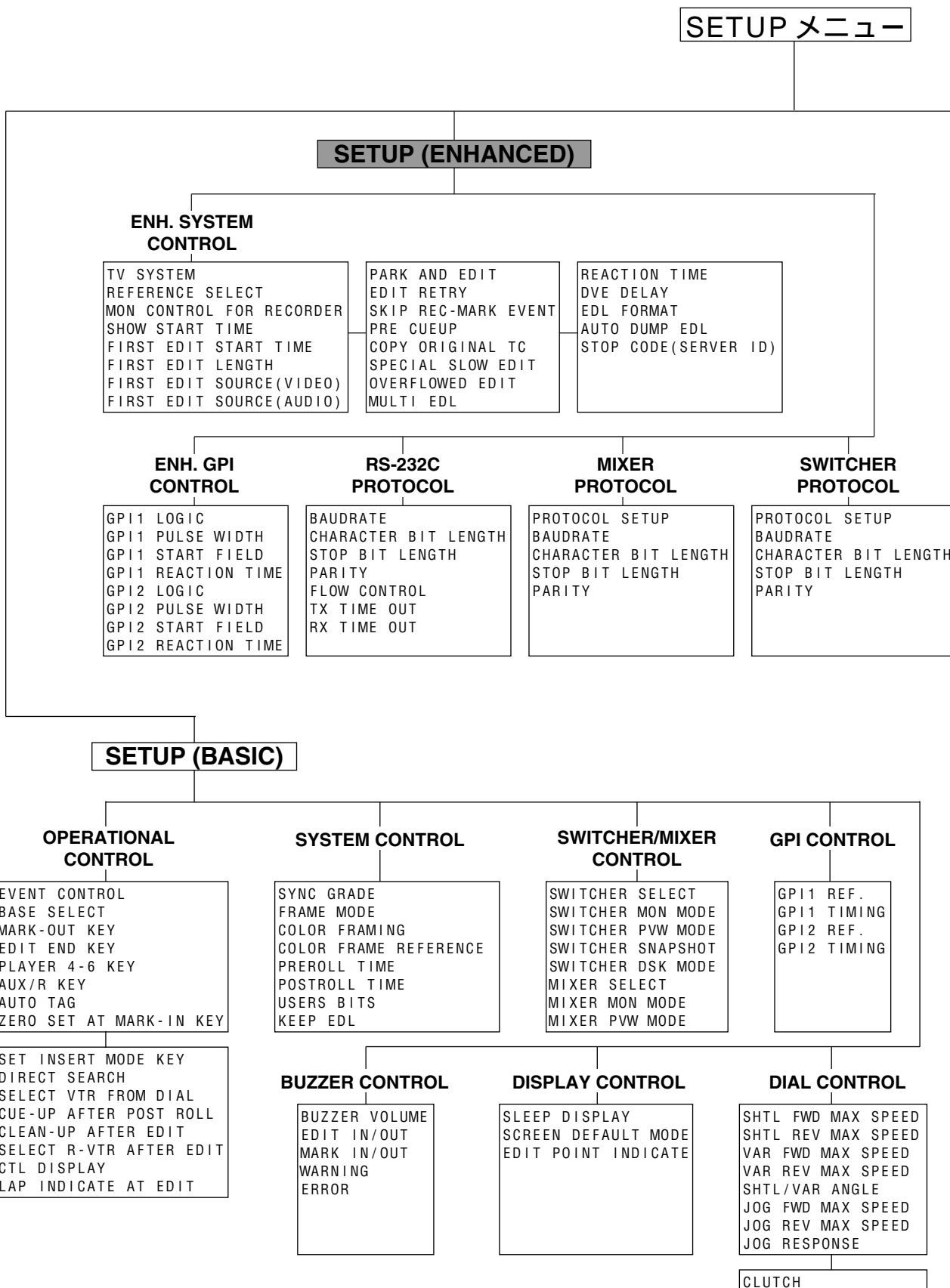
本メニューではVTR、スイッチャーおよびミキサーの接続状況、本機の動作状態などを確認することができます。

INFORMATION	
R	: ----
P1	: ----
P2	: ----
P3	: ----
P4	: ----
P5	: ----
P6	: ----
SWER	: OK
MIXER	: OK
TV SYSTEM	: NTSC
REFERENCE	: AUTO-OK(HD)
MAIN VER.	: 2.00(28)
LCD VER.	: 2.00(01)
OPERATION	: 000028H
BACK LIGHT	: 000020H
CLUTCH(L)	: 000002T
CLUTCH(R)	: 000002T
ERROR	: CANNOT CHANGE MODE

各項目の内容は以下の通りです。

- R、P1 ~ P6 : 各VTRの接続状態を表示します。VTRが接続されている場合は、VTRのIDと機種名を表示します。未接続の場合は----を表示します。
- SWER、MIXER : スwitchャーとミキサーの接続状態を表示します。接続されている場合にはOKを、未接続の場合には----を表示します。
- TV SYSTEM : 信号方式の設定状態を示します。
- REFERENCE : リファレンス信号の設定状態と、入力状態を表示します。設定通りのリファレンス信号が入力されている場合はOKを、信号が入力されていない場合はNO SIGNALを表示します。設定がAUTOになっている場合はOK(HD)のように、入力されている信号の種類も表示します。
- MAIN VER. : 本機の管理コードです。
- LCD VER. : 本機の管理コードです。
- OPERATION : 本機の電源投入時間です。単位は1時間です。
- BACK LIGHT : 液晶のバックライトの点灯時間です。単位は1時間です。
- CLUTCH(L) : 左ダイヤルのクラッチ動作回数です。単位は1000回です。
- CLUTCH(R) : 右ダイヤルのクラッチ動作回数です。単位は1000回です。
- ERROR : 最後に発生したエラーの内容を表示します。

セットアップ一覧



セットアップ一覧

■は、**ENTER** と **SETUP/F9** を同時に押して詳細メニューに入ったときのみ表示されます。

SETUP (PORT ASSIGN)

	PORT STATUS	SWER XPOINT	MIXER XPOINT	PROCESS DELAY
PORT A	*R	*AUTO/EXT	*EXT	*0
PORT B	*P1	*01	*01	*0
PORT C	*P2	*02	*02	*0
PORT D	*P3	*03	*03	*0
PORT E	*P4	*04	*04	*0
PORT F	*SWITCHER	*NONE	*NONE	*0
PORT G	*MIXER	*NONE	*NONE	*0
AUX1		*04	*04	
AUX2		*05	*05	
BKGD		*05	*00	
CB		*06	*00	

CONFIG

	SYNC GRADE	TC SOURCE	TC JUMP	CF PHASE
R	*ACCURATE	*LTC/VITC	*INHIBIT	*A
P1	*ACCURATE	*LTC/VITC	*INHIBIT	*A
P2	*ACCURATE	*LTC/VITC	*INHIBIT	*A
P3	*ACCURATE	*LTC/VITC	*INHIBIT	*A
P4	*ACCURATE	*LTC/VITC	*INHIBIT	*A
P5	*ACCURATE	*LTC/VITC	*INHIBIT	*A
P6	*ACCURATE	*LTC/VITC	*INHIBIT	*A

SETUP (VTR CONSTANT)

PORT A

MODE
 DEVICE TYPE
 PRESET PREROLL TIME
 EDIT DELAY
 EE DELAY
 TC READ DELAY
 RECORDER START DELAY
 PLAYER START DELAY

PORT B ~ G

PORT A と同様

AFTER SYNC DELAY-
 AFTER SYNC DELAY+
 SYNC CONTROL
 CF LOCK MODE
 CF LOCK STATUS
 SERVO DELAY

MAX CUE-UP SPEED
 FORCED CUE-UP
 CUE-UP CHECK 1
 CUE-UP CHECK 2
 STILL CHECK
 LOW SHTL MODE

CUE CONTROL (ASMBL)
 CUE CONTROL (V)
 CUE CONTROL (A1)
 CUE CONTROL (A2)
 CUE CONTROL (A3)
 CUE CONTROL (A4)
 CUE CONTROL (A5, A6)
 CUE CONTROL (A7, A8)

HEAD SELECT R-VTR
 HEAD SELECT P-VTR
 EDIT PRESET COMMAND
 MODEL
 FACTORY SET

STORE SETUP/CONFIG

SETUP USER AREA 1-8
 SETUP USER DEFAULT
 CONFIG USER AREA 1-8
 CONFIG USER DEFAULT
 RS-232C (SETUP ONLY)

RECALL SETUP/CONFIG

SETUP USER AREA 1-8
 SETUP USER DEFAULT
 SETUP FACTORY DEFAULT
 CONFIG USER AREA 1-8
 CONFIG USER DEFAULT
 CONFIG FACTORY DEFAULT
 RS-232C (SETUP ONLY)

INFORMATION

R	TV SYSTEM
P1	REFERENCE
P2	MAIN VER.
P3	LCD VER.
P4	OPERATION
P5	BACK LIGHT
P6	CLUTCH(L)
SWER	CLUTCH(R)
MIXER	ERROR

SETUP (BASIC) の一覽

操作方法のセットアップ (OPERATIONAL CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	EVENT CONTROL	SINGLE EVENT MULTI EVENT	編集データのイベント管理方法を設定します。 [SINGLE EVENT] イベント管理を行いません。 [MULTI EVENT] 複数のイベント管理を可能とします。
2	BASE SELECT	VIDEO AUDIO	すべてのイベントを消去した時に選択されるベースを設定します。 [VIDEO] ビデオベースを選択します。 [AUDIO] オーディオソースを選択します。
3	MARK-OUT KEY	INHIBIT ALLOW	編集時以外の MARK OUT ボタン操作を選択します。 [INHIBIT] 操作を受け付けません。 [ALLOW] 操作を受け付けます。
4	EDIT END KEY	AUTO EDIT/END AUTO EDIT/END & ALL STOP	オープンエンド編集終了時の操作方法を選択します。 [AUTO EDIT/END] AUTO EDIT/END ボタンを押して編集を終了させると編集 OUT 点が登録されます。ALL STOP ボタンを押したときは編集は中断されますが、編集 OUT 点が登録されません。 [AUTO EDIT/END & ALL STOP] AUTO EDIT/END ボタン、または ALL STOP ボタンのいずれかを押して編集を終了させます。いずれの操作でも編集 OUT 点が登録されます。
5	PLAYER 4-6 KEY	SHIFT+P1,P2,P3 ENTER+P1,P2,P3	プレーヤー VTR 4 ~ 6 選択の操作方法を切り換えます。 [SHIFT+P1,P2,P3] [SHIFT] ボタンを押しながら [P1] [P2] [P3] ボタンを押して、プレーヤー P4、P5、P6 を選択します。プレーヤー P1、P2、P3 およびレコーダ R を重複指定するには、[ENTER] ボタンを押しながら右側の [P1] [P2] [P3] ボタンを押します。 [ENTER+P1,P2,P3] [SHIFT+P1,P2,P3] とは [SHIFT] ボタンと [ENTER] ボタンの役割が逆になります。
6	AUX/R KEY	NORMAL SWAP	AUX ボタン、R ボタンを押したときの動作を設定します。 [NORMAL] VTR SELECT 部の AUX、R ボタンは表示通りの機能を示します。 [SWAP] VTR SELECT 部の AUX ボタンは R ボタンとして、R ボタンは AUX ボタンとして機能します。
7	AUTO TAG	INHIBIT RECORDER ONLY RECORDER & PLAYER ALL VTR	[FS] ボタンを押して、編集データを EDL メモリーに登録し、次のイベントに移るとき、前のイベントの編集 OUT 点をニューイベントの編集 IN 点に自動設定するか選択します。 [INHIBIT] 自動設定を行いません。 [RECORDER ONLY] レコーダの IN 点のみを前のイベントにつながるように、計算して自動設定します。 [RECORDER & PLAYER] プレーヤーとレコーダの IN 点を前のイベントにつながるように、計算して自動設定します。 [ALL VTR] プレーヤーとレコーダの IN 点を前のイベントにつながるように計算して自動設定します。前のイベントで編集対象になっていない VTR はそれぞれの編集 IN 点をそのまま設定します。
8	ZERO SET AT MARK-IN KEY	INHIBIT ALLOW	CTL を選択している VTR で MARK IN ボタンを押したとき、タイムコードをリセットするか選択します。 [INHIBIT] MARK IN ボタンが押された場合でも、タイムコードの値は変化しません。 [ALLOW] MARK IN ボタンが押された場合、タイムコードの値を 0 に (リセット) します。

SETUP (BASIC) の一覧

操作方法のセットアップ (OPERATIONAL CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
9	SET INSERT MODE KEY	FORCED RELEASE & SET	EDIT MODE ボタンの切換方法を設定します。 [FORCED] ASMBL ランプが点灯していても、直接[V] [A1]~[A8] ボタンを押してインサート編集に変更可能です。 [RELEASE & SET] ASMBL ランプが点灯しているときは、[V] [A1]~[A8] を押してもインサート編集に変更できません。[ASMBL] ボタンを押して、ランプを消してから操作してください。
10	DIRECT SEARCH	INHIBIT ALLOW	サーチモードへの切換方法を設定します。 [INHIBIT] SHTL、JOG、VAR のいずれかのボタンを押してから、ダイヤルの操作をします。 [ALLOW] ダイアルを回転させると、選択されている VTR が自動的にサーチモードになります。
11	SELECT VTR FROM DIAL	INHIBIT ALLOW	ダイヤルを操作したとき、MARK IN/OUT、IN/OUT 等の操作で対象になる VTR を切り替えるか選択します。 [INHIBIT] 対象になる VTR を切り替えません。 [ALLOW] 対象になる VTR を切り替えます。
12	CUE-UP AFTER POST ROLL	OFF NEXT IN POINT LAST OUT POINT	編集動作完了後、テープを頭出しする位置を設定します。 [OFF] 編集動作完了後、テープの頭出しを行いません。 [NEXT IN POINT] 次イベントの IN 点を頭出しします。 [LAST OUT POINT] 完了した編集の OUT 点を頭出しします。
13	CLEAN-UP AFTER EDIT	INHIBIT ALLOW	編集動作完了後、レコーダの編集 IN 点が前イベントの編集区間内にあるとき、自動的に前イベントの編集 OUT 点を IN 点と同じ値に修正する (簡易クリーンアップ動作) が設定します。 [INHIBIT] 簡易クリーンアップ動作を行いません。 [ALLOW] 簡易クリーンアップ動作を行います。 < ノート > 前イベントが A/B ロール編集やスロー編集など、単純なカット編集でないときはクリーンアップを行いません。また、OUT 側のスプリット点など、一部データを取り消すことがあります。
14	SELECT R-VTR AFTER EDIT	INHIBIT ALLOW	編集動作完了時、自動的にレコーダを選択するか設定します。 [INHIBIT] 編集を開始する前の状態に戻します。 [ALLOW] レコーダを選択します。
15	CTL DISPLAY	24H + / - 10H	表示時間の選択が CTL のとき、その表示範囲を設定します。 [24H] 00:00:00:00 ~ 23:59:59:29 (24) [+ / - 10H] - 9:59:59:29 (24) ~ 14:00:00:00 (カッコ内の数字は PAL の場合) < ノート > [+ / - 10H] にし、オーディオスプリットや GPI を設定するとき、マイナスのタイムコードは入力できません。また、すでに設定されている編集点を変更するときも、マイナスのタイムコードを入力すると設定されているタイムコードに対して修正処理を行います。
16	LAP INDICATE AT EDIT	OFF ON	編集時、レコーダ VTR のタイムコード表示部分に LAP 時間を表示するか設定します。 [OFF] VTR のタイムコードを表示します。 [ON] LAP 時間を表示します。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (BASIC) の一覧

システムのセットアップ (SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	SYNC GRADE	ACCURATE ± 1 ROUGH OFF	[ACCURATE] ± 0 フレームの精度で編集します。 通常、プリロール時間は 5 秒以上に設定してください。 [± 1] ± 1 フレームの精度で編集します。 [ROUGH] 調相動作中、一度でも誤差が無くなれば以降の調相をしません。 [OFF] 調相しません。
2	FRAME MODE (NTSC モードのみ有効)	NON DROP DROP	ファーストエディットや TC インサート編集などで記録するタイムコードを、ドロップフレームモードまたはノンドロップフレームモードのいずれかに選択します。 必ずレコーダのテープのモードと、一致するように設定してください。
3	COLOR FRAMING	OFF ON (NTSC モード) OFF 4 FIELD 8 FIELD (PAL モード)	カラーフレーミング編集をするために VTR を CF ロックさせるか設定します。 (NTSC モード) [OFF] カラーフレーミング編集は行いません。 [ON] カラーフレーミング編集を行います。 最大 1 フレームの編集点の移動が行われます。 (PAL モード) [OFF] カラーフレーミング編集は行いません。 [4 FIELD] カラーフレーミング編集を行います。 最大 1 フレームの編集点の移動が行われます。 [8 FIELD] カラーフレーミング編集を行います。 最大 3 フレームの編集点の移動が行われます。 < ノート > ご使用になる VTR により制限があります。詳しくは、「お問い合わせになる前に」(133 ページ) をご覧ください。
4	COLOR FRAME REFERENCE	ALL VTR TIME CODE RECORDER ONLY	カラーフレーミング編集を行うとき、カラーフレームロックの基準を設定します。COLOR FRAMING が OFF でないときに有効です。 [ALL VTR] VTR 自身で CF ロック状態にします。編集を行うすべての VTR に CF ロック機能が必要です。 [TIME CODE] テープ上のタイムコードを基準に編集をします。各 VTR のカラーフレーム位相は CONFIG メニューで設定します。レコーダ VTR に CF ロック機能が必要です。 カラーフレーム位相が特定できないときは、選択しないでください。 [RECORDER ONLY] レコーダ VTR のみ CF ロック状態にします。 レコーダ VTR に CF ロック機能が必要です。
5	PREROLL TIME	AUTO 0 sec 3 sec 5 sec 7 sec 10 sec 15 sec	調相などを行うために、テープを IN 点から余分に巻戻す時間 (プリロールタイム) [秒単位] を設定します。通常は AUTO に設定します。 [ご参考] 編集時のプリロールタイムは SETUP (VTR CONSTANT) での設定値により制限されることがあります。AUTO は編集する VTR の組み合わせや、CF の ON/OFF 等の条件で自動的にプリロールタイムを決めます。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (BASIC) の一覧

システムのセットアップ (SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
6	POSTROLL TIME	0.5 sec 1 sec 2 sec 3 sec 5 sec 7 sec 10 sec	自動編集やプレビュー、レビューを行ったときに、テープを編集動作完了後から止めるまでの時間（ポストロールタイム）を設定します。 [ご参考] ポストロール時間は、設定値より多少長くなる場合があります。
7	USERS BITS	00000000 ~ FFFFFFFF	レコーダに記録するタイムコード内のユーザズビットを設定します。0 ~ F の 16 進数で 8 つの桁を設定することができます。 A ~ F の入力には [SHIFT] を押しながら [1] ~ [6] の数値入力ボタンを押してください。
8	KEEP EDL	OFF ON	電源を切った後も、EDL メモリーの編集データを残したいとき、ON にします。データは 3 日間バックアップ可能です。（2 時間以上連続通電した場合）

は初期設定（工場出荷時）の値です。

SETUP (BASIC) の一覽

SWITCHER/MIXERのセットアップ (SWITCHER/MIXER CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	SWITCHER SELECT	AJ-HSW900 HD-SW10 WJ-MX50 GVG-100 DFS-500 AS-D700 BVS-3000 KM-3000 VPS-300	使用するビデオスイッチャーの機種を設定します。 < ノート > KM-3000, VPS-300 を接続したときは、先にビデオスイッチャーの電源を入れ、次にAJ-A900の電源を入れてください。
2	SWITCHER MON MODE	LINE PVW MIX PARA	AJ-HSW900を使用時、VTRソース選択部を操作したときの動作を設定します。 [LINE] ビデオスイッチャーのライン出力でモニターするとき設定します。 [PVW] ビデオスイッチャーのプレビューバスで信号を切り換えるとき設定します。 [MIX] ビデオスイッチャーのライン出力バスとプレビューバスとで信号を切り換えるとき設定します。 • [R]ボタンを押したときは、プレビューバスへ信号が切り換わります。 • [P1/P4]~[AUX/AUX-B]ボタンを押したときは、ライン出力へ信号が切り換わります。 [PARA] ビデオスイッチャーのライン出力バスとプレビューバスの両方で信号を切り換えるとき設定します。 [ご参考] • レコーダVTRのビデオ/オーディオ出力でモニターするときは [LINE]に設定し、システムの拡張セットアップのMON CONTROL FOR RECORDERをONにしてください。 • ビデオスイッチャーでモニターする時は、レコーダVTRのビデオ出力をビデオスイッチャーに入力してください。
3	SWITCHER PVW MODE	EE FULL	自動編集やプレビュー、レビューのとき、ビデオスイッチャーの動作を設定します。 [EE] レコーダVTRのビデオ出力でモニターするときに指定します。 [FULL] レコーダVTRのビデオ出力をビデオスイッチャーに入力して、ビデオスイッチャーのPGM OUTでモニターするとき設定します。 レコーダVTRにもTBCが必要です。 [ご参考] レコーダVTRのビデオ/オーディオ出力のみでモニターするときは [EE]に設定し、「システムの拡張セットアップ」(98ページ)のMON CONTROL FOR RECORDERをONにしてください。 < ノート > • フレームシンクロナイザーが各入力ごとにないビデオスイッチャー (WJ-MX50, DFS-500 など) は [EE] で使用してください。 • [FULL] に設定すると、プレビュー中 編集モード設定部 ([V], [A1], [A2]) のボタンは機能しません。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (BASIC) の一覽

SWITCHER/MIXER のセットアップ (SWITCHER/MIXER CONTROL)

No.	項 目 画面表示	設 定 値	機 能 説 明
4	SWITCHER SNAPSHOT	OFF ON	ビデオスイッチャーに DFS-300/500 を使用しているとき、スナップショットをコントロールするかどうかを設定します。 [OFF] コントロールしません。 [ON] コントロールします。 < ノート > コントロールできるイベント番号は、1 から 99 までです。
5	SWITCHER DSK MODE	OFF GPI1	ビデオスイッチャーに WJ-MX50/GVG-100 を使用しているとき、DSK のフェードイン/アウトのタイミングをコントロールするかどうかを設定します。 [OFF] コントロールしません。 [GPI 1] GPI1 の設定に従ってコントロールします。DSK のトランジション時間は、ビデオスイッチャー側で設定します。 [ご参考] AJ-A900 とビデオスイッチャーは 9P リモートコントロールケーブルのみで接続してください。GPI のケーブル接続は必要ありません。 < ノート > ビデオスイッチャーがワイプやディゾルブの効果を行っているとき DSK のフェードイン/アウトを設定すると、正常に動作しないときがあります。
6	MIXER SELECT	AJ-HSW900 DESAM200 (EVEN) DESAM200 (ODD) 03D PAM-300 MXP-S390 WR-DA7V	使用するオーディオミキサーの機種を設定します。オーディオミキサー本体に ESAM または ESAM -EXTENDED に対応したシリアルコントロール機能がないときは、オーディオミキサーのオプション「シリアルインターフェイスボード」などが必要になります。 詳しくは、「VTR・スイッチャーの設定」(115 ~ 118 ページ) をご覧ください。
7	MIXER MON MODE	LINE PVW MIX PARA	VTR ソース選択部を操作したときの動作を設定します。 [LINE] オーディオミキサーのライン出力でモニターするとき設定します。 [PVW] オーディオミキサーのプレビューバスで信号を切り換えるとき設定します。 [MIX] オーディオミキサーのライン出力バスとプレビューバスとで信号を切り換えるとき設定します。 • [R] ボタンを押したときは、プレビューバスへ信号が切り換わります。 • [P1/P4] ~ [AUX/AUX-B] ボタンを押したときは、ライン出力へ信号が切り換わります。 [PARA] オーディオミキサーのライン出力バスとプレビューバスの両方で信号を切り換えるとき設定します。 [ご参考] • レコーダ VTR のビデオ/オーディオ出力でモニターするときは [LINE] に設定し、システムの拡張セットアップの MON CONTROL FOR RECORDER を ON にしてください。 • オーディオミキサーでモニターする時は、レコーダ VTR のオーディオ出力をオーディオミキサーに入力してください。 < ノート > オーディオミキサーの機種により、プレビューバスが制御できないことがあります。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (BASIC) の一覧

SWITCHER/MIXERのセットアップ (SWITCHER/MIXER CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
8	MIXER PVW MODE	EE LINE PVW	<p>自動編集やプレビュー、レビュー時のオーディオミキサーの動作を設定します。</p> <p>[EE] レコーダVTRのオーディオ出力でモニターするときに指定します。</p> <p>[LINE] レコーダVTRのオーディオ出力をオーディオミキサーに入力して、オーディオミキサーのライン出力でモニターするとき設定します。</p> <p>[PVW] レコーダVTRのオーディオ出力をオーディオミキサーに入力して、オーディオミキサーのプレビューバスで信号を切り換えるとき設定します。</p> <p>< ノート > [LINE] [PVW] に設定すると、プレビュー中 編集モード設定部 ([V], [A1], [A2], [A3], [A4]) のボタンは動作しません。</p>

PVW MODE の設定と動作

自動編集やプレビュー、レビュー時のビデオスイッチャーやオーディオミキサーの動作は次のようになります。

ビデオスイッチャー (PGM バス) の動作

オーディオミキサー (ライン出力バス) の動作

オーディオミキサー (プレビューバス) の動作

	EE	FULL
プレビュー	☒ 1	☒ 2
自動編集	☒ 1	☒ 2
レビュー	☒ 3	☒ 3

	EE/PVW	LINE
プレビュー	☒ 1	☒ 2
自動編集	☒ 1	☒ 2
レビュー	☒ 3	☒ 3

	EE	LINE	PVW
プレビュー	☒ 3	制御しない	☒ 2
自動編集	☒ 3	制御しない	☒ 2
レビュー	☒ 3	制御しない	☒ 3

	PREROLL点	IN点	OUT点	POSTROLL点
☒ 1		EFF	EFF	EFF
☒ 2		R	EFF	R

	PREROLL点	IN点	OUT点	POSTROLL点
☒ 3		R	R	R

EFF : FROM または TO SOURCE
R : レコーダ
SOURCE : VTR ソース選択部で指定したソース

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (BASIC) の一覽

GPIのセットアップ (GPI CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	GPI1 REF	UNDEFINED REC IN REC OUT EFFECT REC TALLY SOURCE SELECT	GPI 1 端子へ信号を出力するタイミングの基準点を設定します。各イベントでのGPI1の設定が優先されます。 [UNDEFINED] トリガー信号を出力しません。 [REC IN] レコーダのIN点 [REC OUT] レコーダのOUT点 [EFFECT] スイッチャーの効果の開始点 [REC TALLY] 編集、レコーダIN点～OUT点の間(記録中)出力します。 [SOURCE SELECT] ソースVTRにP1を選択している間、出力します。
2	GPI1 TIMING	00:00 ~ ± 59:29 (NTSC) 00:00 ~ ± 59:24 (PAL)	GPI 1 端子へ信号を出力するタイミングを、基準点からの相対時間で設定します。+10と設定すれば、基準点から10フレーム後にトリガー信号を出力し、-200と設定すれば、基準点から2秒前にトリガー信号を出力します。
3	GPI2 REF	UNDEFINED REC IN REC OUT EFFECT REC TALLY SOURCE SELECT	GPI 2 端子へ信号を出力するタイミングの基準点を設定します。 [UNDEFINED] トリガー信号を出力しません。 [REC IN] レコーダのIN点 [REC OUT] レコーダのOUT点 [EFFECT] スイッチャーの効果の開始点 [REC TALLY] 編集、レコーダIN点～OUT点の間(記録中)出力します。 [SOURCE SELECT] ソースVTRにP1を選択している間出力します。
4	GPI2 TIMING	00:00 ~ ± 59:29 (NTSC) 00:00 ~ ± 59:24 (PAL)	GPI 2 端子へ信号を出力するタイミングを、基準点からの相対時間で設定します。(GPI1 TIMING 参照)

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (BASIC) の一覽

サーチダイヤルのセットアップ (DIAL CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	SHTL FWD MAX SPEED	x16 x32 x64 x100 xFF	SHTL モードでの正方向の最大スピードを設定します。 [x16] 最大スピードを 16 倍速にします。 [x32] 最大スピードを 32 倍速にします。 [x64] 最大スピードを 64 倍速にします。 [x100] 最大スピードを 100 倍速にします。 [xFF] 最大スピードを FF (早送り) にします。 < ノート > VTR の機能で制限される場合があります。
2	SHTL REV MAX SPEED	x16 x32 x64 x100 xREW	SHTL モードでの逆方向の最大スピードを設定します。 [x16] 最大スピードを 16 倍速にします。 [x32] 最大スピードを 32 倍速にします。 [x64] 最大スピードを 64 倍速にします。 [x100] 最大スピードを 100 倍速にします。 [xREW] 最大スピードを REW (巻き戻し) にします。 < ノート > VTR の機能で制限される場合があります。
3	VAR FWD MAX SPEED	x1 x2 x3	VAR モードでの正方向の最大スピードを設定します。 [x1] 最大スピードを 1 倍速にします。 [x2] 最大スピードを 2 倍速にします。 [x3] 最大スピードを 3 倍速にします。 < ノート > VTR の機能で制限される場合があります。
4	VAR REV MAX SPEED	x1 x2 x3	VAR モードでの逆方向の最大スピードを設定します。 [x1] 最大スピードを 1 倍速にします。 [x2] 最大スピードを 2 倍速にします。 [x3] 最大スピードを 3 倍速にします。 < ノート > VTR の機能で制限される場合があります。
5	SHTL/VAR ANGLE	NARROW NORMAL WIDE	ダイヤルの回転範囲を設定します。 [NARROW] 約 0.75 回転に設定します。 [NORMAL] 約 1 回転に設定します。 [WIDE] 約 1.5 回転に設定します。
6	JOG FWD MAX SPEED	x1 x2 x3	JOG モードでの正方向の最大スピードを設定します。 [x1] 最大スピードを 1 倍速にします。 [x2] 最大スピードを 2 倍速にします。 [x3] 最大スピードを 3 倍速にします。 < ノート > VTR の機能で制限される場合があります。
7	JOG REV MAX SPEED	x1 x2 x3	JOG モードでの逆方向の最大スピードを設定します。 [x1] 最大スピードを 1 倍速にします。 [x2] 最大スピードを 2 倍速にします。 [x3] 最大スピードを 3 倍速にします。 < ノート > VTR の機能で制限される場合があります。
8	JOG RESPONSE	QUICK NORMAL SMOOTH	ジョグダイヤルの反応性を設定します。 [QUICK] 入力に対する反応性が高くなります。 [NORMAL] 通常の反応性になります。 [SMOOTH] 入力に対する反応性が低くなります。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (BASIC) の一覧

サーチダイヤルのセットアップ (DIAL CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
9	CLUTCH	OFF	SHTLモード・VARモードでのダイヤルの操作感を切り換えます。
		NORMAL	[OFF] 最大速やSTILL時の、クリック感をなくします。
		BUZZER	[NORMAL] 最大速やSTILLの時、クリック感があります。
		HOLD	[BUZZER] 最大速の時、更に速度を速めようとすると、ブザーをならしめます。
		REPEAT	[HOLD] 最大速の時、更に速度を速めようとすると、クリック感が重くなります。 [REPEAT] 最大速の時、更に速度を速めようとすると、繰り返しクリック感が発生します。

画面表示のセットアップ (DISPLAY CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	SLEEP DISPLAY	OFF	ボタン入力や編集が行われない場合に、液晶画面の表示を消すまでの時間を設定します。 [OFF] 液晶画面の表示を消しません。 [2 hour ~ 1 min] 設定した時間、ボタン入力が行われない場合に液晶表示を消します。
		2 hour	
		1 hour	
		30 min	
		10 min	
		5 min	
		2 min	
1 min			
2	SCREEN DEFAULT MODE	MODE1	電源投入後に表示される基本画面の種類を設定します。 [MODE1] 簡易画面を表示します。 [MODE2] 詳細画面を表示します。
		MODE2	
3	EDIT POINT INDICATE	OFF	[IN] [OUT] [DUR] ボタンなどを押した時、編集点データをタイムコード表示部分に表示するか決定します。 [OFF] 編集点データを表示しません。 [ON] 編集点データを表示します。
		ON	

ブザーのセットアップ (BUZZER)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	BUZZER VOLUME	LOUD	エラーのときや、[MARK IN/OUT] ボタンを押したとき、鳴らすブザーの音量を調整します。 [LOUD] 最大の音量 [MIDDLE] 中間の音量 [LOW] 最小の音量 [SILENT] 鳴らしません。
		MIDDLE	
		LOW	
		SILENT	
2	EDIT IN/OUT	OFF ON	自動編集やプレビューを行ったときに、IN/OUT点でブザーを鳴らすか選択します。
3	MARK IN/OUT	OFF ON	[MARK IN/OUT] などのMARK ボタンを押したとき、ブザーを鳴らすか選択します。
4	WARNING	OFF ON	ワーニング (警告) が発生したとき、ブザーを鳴らすか選択します。
5	ERROR	OFF	エラーが発生したとき、ブザーを鳴らすか選択します。
		ON	

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (ENHANCED) の一覽

システムの拡張セットアップ (ENH. SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	TV SYSTEM	30F (NTSC) 25F (PAL) 24F (24SF)	VTRなどを接続するシステムの信号方式を選択します。 [30F (NTSC)] NTSC方式など1秒間が30フレームのとき選択します。 [25F (PAL)] PAL方式など1秒間が25フレームのとき選択します。 [24F (24SF)] 1秒間が24フレームのとき選択します。 < ノート > この項目の設定を変更したときは、カラーフレーム関連、タイムコード関連の各設定を変更し、電源を入れ直して下さい。
2	REFERENCE SELECT	AUTO SD (BB) HD (TRI-LEVEL)	リファレンス入力の信号方式を設定します。 [AUTO] 入力されているリファレンス入力を自動判別します。 [SD] SD信号 (ブラックバースト) を選択します。 [HD] HD信号 (3値リファレンス) を選択します。
3	MON CONTROL FOR RECORDER	OFF ON	編集状態でないとき、レコーダVTRの出力制御を設定します。 [OFF] VTRソース選択部の状態にかかわらず、レコーダ側モニターは、レコーダVTRのみのモニターをします。 [ON] VTRソース選択部で [P1/P4] ~ [AUX/AUX-B] を選択すると、レコーダVTRをEEモードにします。レコーダ側モニターでソース選択したVTRの画像・音声をモニターすることができます。
4	SHOW START TIME	--:--:-- または 00:00:00:00 ~ 23:59:59:29 (NTSC) 00:00:00:00 ~ 23:59:59:24 (PAL)	編集するプログラムのトータルタイムを計算するために計算を開始する、スタート時刻を設定します。この設定を行わないときは、EDLの最初のイベントに登録されたレコーダIN点を基準としてトータルタイムを計算します。 [F1 (DEFAULT)] ボタンを押すと未設定 (--:--:--) になります。
5	FIRST EDIT START TIME	--:--:-- または 00:00:00:00 ~ 23:59:59:29 (NTSC) 00:00:00:00 ~ 23:59:59:24 (PAL)	ファーストエディット時に記録を行うタイムコードを設定します。ここで設定したタイムコードから「FIRST EDIT LENGTH」で設定した時間を引いたタイムコードから記録を始めます。 [F1 (DEFAULT)] ボタンを押すと未設定 (--:--:--) になります。
6	FIRST EDIT LENGTH	00:00:05:00 ~ 00:00:25:00 ~ 09:59:59:29 (NTSC) 00:00:05:00 ~ 00:00:25:00 ~ 09:59:59:24 (PAL)	ファーストエディット時に記録を行う長さを設定します。
7	FIRST EDIT SOURCE (VIDEO)	NONE 00 ~ 32	ファーストエディット時に選択するソースのビデオスイッチャーの入力チャンネル (クロスポイント) を選択します。
8	FIRST EDIT SOURCE (AUDIO)	NONE 00 ~ 08 ~ 32	ファーストエディット時に選択するソースのオーディオスイッチャーの入力チャンネル (クロスポイント) を選択します。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (ENHANCED) の一覧

システムの拡張セットアップ (ENH. SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
9	PARK AND EDIT	OFF ON	パークアンドエディット機能の設定を行います。 [OFF] パークアンドエディットが使用できません。 [ON] パークアンドエディットが使用できます。
10	EDIT RETRY	0 ~ 3	SYNC GRADE で設定した編集精度で調相ができないときの動作を設定します。 [0] 編集を中止します。 [1]~[3] 指定した回数だけ編集をやり直します。すべて失敗した場合には編集を中止します。
11	SKIP REC-MARK EVENT	OFF ON	マルチイベント編集をするとき、編集済みイベントも再度編集するか設定します。 [OFF] 編集が完了したイベントも編集します。 [ON] 編集が完了したイベントをスキップして編集します。 [ご参考] 編集済みイベントは、モニター表示でイベント番号の後ろに「R」のマークが表示されます。
12	PRE CUEUP	ON OFF	マルチイベント編集時、実行しているイベントで使用していないVTRが、続くイベントのソースVTRとなっているとき、あらかじめIN点へ頭出しをします。 [ON] 頭出し操作をします。 [OFF] 頭出し操作をしません。
13	COPY ORIGINAL TC	OFF ON	オリジナルテープのタイムコードをそのまま記録させたいときに、ONにします。この機能を使用するときは、ソースVTRのTC OUT端子とレコーダVTRのTC IN端子を接続し、レコーダVTRのTC INT/EXT SELECTはEXT (外部入力) にします。またレコーダVTRはCTLで使用します。
14	SPECIAL SLOW EDIT	OFF ON	スロー編集時の動作を設定します。 [OFF] スロー編集を行います。 スロー調整を行うため、精度の高いスロー編集が可能です。 [ON] プレーヤーVTRを編集IN点までは標準スピードで再生し、編集IN点の数フレーム後にスロー再生させます。 スロー調整のできないVTRを使用するときなどに選択します。
15	OVERFLOWED EDIT	OFF ON	512 イベント以上の編集データを登録するときの処理モードを選択します。 [OFF] “EDL OVERFLOW” のエラーとなり、新しいイベントはこれ以上登録されません。EDLメニューで不要なイベントを消去してから追加登録してください。 [ON] はじめに登録したイベントから順に消去し、それに変わって新しいイベントを登録します。
16	MULTI EDL	512 256x2	EDLメモリーを連続した512イベントで使用するか、256イベントの2リスト分とするか設定します。 [512] 最大512イベントのデータを登録し、一度に連続編集やリストマネージメント操作ができます。 [256x2] 最大256イベントのデータを2リスト登録できます。各々のリストは [ENTER] ボタンを押しながら、[6] の数値入力ボタンで切り換えることができ、別々に連続編集やリストマネージメント操作ができます。 < ノート > この設定を変更すると、EDLメモリーは初期化されます。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (ENHANCED) の一覽

システムの拡張セットアップ (ENH. SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
17	REACTION TIME	00 ~ 03 ~ 63	テープの再生映像 (PLAY) を見ながら、[MARK IN/OUT] ボタンを押したときに、発生する操作の遅れをフレーム単位で補正します。
18	DVE DELAY	0 ~ 3	DVE やビデオスイッチャーにより映像信号が遅延するとき、その遅延量をフレーム単位で設定します。
19	EDL FORMAT	AJ-A900 AG-A850 CMX340 BVE-9000	RS-232C 端子を使用してコンピューターなどの外部機器に、EDL データを出力するときの、データフォーマットを選択します。各フォーマットについては、データ管理 (DUMP、LOAD) をご覧ください。
20	AUTO DUMP EDL	OFF EDIT EDIT/FS	編集を実行したときやデータを変更したときに、編集データを RS-232C 端子から外部機器に出力するか設定します。 [OFF] 自動で編集データを出力しません。 [EDIT] 自動編集をするたびに、実行した編集データを出力します。 [EDIT/FS] 自動編集をするか、データ変更をして [CORCT], [FS] ボタンを押したとき、編集データを出力します。 < ノート > 自動で編集データを出力したとき、[END OF FILE] のコード出力は行いません。
21	STOP CODE (SERVER ID)	NULL SPACE	サーバーのクリップ名のストップコードを選択します。 [NULL] NULL をストップコードにします。 [SPACE] SPACE をストップコードにします。

SWITCHER の拡張セットアップ (SWITCHER PROTOCOL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	PROTOCOL SETUP	AUTO MANUAL	[AUTO] ビデオスイッチャーを制御する通信プロトコルを、標準の設定にします。 [MANUAL] BAUDRATE 以降の SW'ER PROTOCOL 設定が有効になります。
2	BAUDRATE	38400 19200 9600 4800 2400 1200	ビデオスイッチャー制御の通信速度 (bit/s) を設定します。
3	CHARACTER BIT LENGTH	8bit 7bit	ビデオスイッチャー制御のデータ長を設定します。
4	STOP BIT LENGTH	2bit 1bit	ビデオスイッチャー制御のストップビット長を設定します。
5	PARITY	NONE EVEN ODD	ビデオスイッチャー制御のパリティチェックを設定します。

■ は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (ENHANCED) の一覧

ミキサーの拡張セットアップ (MIXER PROTOCOL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	PROTOCOL SETUP	AUTO MANUAL	[AUTO] オーディオミキサーを制御する通信プロトコルを、標準の設定にします。 [MANUAL] BAUDRATE 以降の MIXER PROTOCOL 設定が有効になります。
2	BAUDRATE	38400 19200 9600 4800 2400 1200	オーディオミキサー制御の通信速度 (bit/s) を設定します。
3	CHARACTER BIT LENGTH	8bit 7bit	オーディオミキサー制御のデータ長を設定します。
4	STOP BIT LENGTH	2bit 1bit	オーディオミキサー制御のストップビット長を設定します。
5	PARITY	NONE EVEN ODD	オーディオミキサー制御のパリティチェックを設定します。

RS-232C の拡張セットアップ (RS-232C PROTOCOL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	BAUDRATE	115200 57600 38400 19200 9600 4800 2400 1200	EDL データ通信の通信速度 (bit/s) を設定します。
2	CHARACTER BIT LENGTH	8bit 7bit	EDL データ通信のデータ長を設定します。 < ノート > 7 bit での受信はできません。
3	STOP BIT LENGTH	2bit 1bit	EDL データ通信のストップビット長を設定します。
4	PARITY	NONE EVEN ODD	EDL データ通信のパリティチェックを設定します。
5	FLOW CONTROL	NONE RTS/CTS	EDL データ通信のフロー制御の有無を設定します。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (ENHANCED) の一覧

ミキサーの拡張セットアップ (MIXER PROTOCOL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
6	TX TIME OUT	OFF ON	ON にすると、EDL データを送信するとき外部機器が 5 秒以内に受信状態にならないと、通信を強制的に終了します。 OFF にするとタイムアウト処理を行いません。FLOW CONTROL が RTS/CTS のときのみ有効です。
7	RX TIME OUT	OFF RX START ONLY RX END ONLY RX START and END	EDL データ通信を受信する時のタイムアウト処理を選択します。 (5 秒間データを受信しないとき、通信を強制終了します) [OFF] タイムアウト処理をしません。 [RX START ONLY] 通信開始時のみ、タイムアウト処理をします。 [RX END ONLY] 通信開始後、タイムアウト処理をします。 [RX START and END] タイムアウト処理をします。

GPI の拡張セットアップ (ENH. GPI CONTROL)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	GPI1 LOGIC	NEGATIVE POSITIVE	GPI 1 端子の出力信号極性を設定します。 [NEGATIVE] 待機時：HIGH レベル 動作時：LOW レベル [POSITIVE] 待機時：LOW レベル 動作時：HIGH レベル
2	GPI1 PULSE WIDTH	01 ~ 03 ~ 63	GPI 1 端子の出力パルス幅 (フレーム) を設定します。
3	GPI1 START FIELD	FIRST SECOND	GPI 1 端子の出力開始フィールドを設定します。 [FIRST] 第 1 フィールドから出力開始をします。 [SECOND] 第 2 フィールドから出力開始をします。
4	GPI1 REACTION TIME	01 ~ 63	GPI 1 端子に接続された機器が、トリガー信号を受けてから動作を開始するまでの時間 (フレーム) を設定します。
5	GPI2 LOGIC	NEGATIVE POSITIVE	GPI 2 端子の出力信号極性を設定します。 [NEGATIVE] 待機時：HIGH レベル 動作時：LOW レベル [POSITIVE] 待機時：LOW レベル 動作時：HIGH レベル
6	GPI2 PULSE WIDTH	01 ~ 03 ~ 63	GPI 2 端子の出力パルス幅 (フレーム) を設定します。
7	GPI2 START FIELD	FIRST SECOND	GPI 2 端子の出力開始フィールドを設定します。 [FIRST] 第 1 フィールドから出力開始をします。 [SECOND] 第 2 フィールドから出力開始をします。
8	GPI2 REACTION TIME	01 ~ 63	GPI 2 端子に接続された機器が、トリガー信号を受けてから動作を開始するまでの時間 (フレーム) を設定します。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (PORT ASSIGN) の一覽

ポート、ディレイの拡張セットアップ (PORT ASSIGN)

コネクターパネルのRS-422 端子 (PORT A ~ PORT G) に接続する機器を設定します。
ソース毎のプロセスディレイを補正設定できます。

項 目	機 能 説 明
PORT STATUS	各ポート (RS-422 端子) と表示する名前の関係を設定します。 P1 ~ P6、ビデオスイッチャー、オーディオミキサーが選択できます。 P1 (SLAVE) ~ P6 (SLAVE) と設定すると、プレーヤーがレコーダと全く同一な動作を行います。これにより同時に複数のテープに記録することが可能となります。 スレーブ設定できるプレーヤーは2台までです。 P1 (SERVER) ~ P2 (SERVER) と設定すると、DVCPRO サーバー AJ-HDR150 が制御できるようになります。
SWITCHER XPOINT (CROSSPOINT)	PORT A ~ G および補助ソース (AUX、AUX B) とビデオスイッチャーの入力チャンネルの関係を設定します。スイッチャーの外部入力端子にビデオ出力を接続するときは [EXT/AUTO] に設定してください。
MIXER XPOINT (CROSSPOINT)	PORT A ~ G および補助ソース (AUX、AUX B) とオーディオミキサーの入力チャンネルの関係を設定します。 ミキサーの外部入力端子にオーディオ出力を接続したときは [EXT] に設定してください。
PROCESS DELAY	VTR 出力にフレームシンクロナイザー、TV 方式変換器等を接続した場合、個々の遅延を補正します。単位はフレームです。ビデオ、オーディオ共同じ値で補正します。 (ビデオ、オーディオ信号の遅延量を合わせてください)

初期設定 (工場出荷時)

	PORT STATUS	SW'ER XPOINT	MIXER XPOINT	PROCESS DELAY
PORT A	R	EXT/AUTO	EXT	0
PORT B	P1	01	01	0
PORT C	P2	02	02	0
PORT D	P3	03	03	0
PORT E	P4	04	04	0
PORT F	SWITCHER	NONE	NONE	0
PORT G	MIXER	NONE	NONE	0
AUX 1		04	04	
AUX 2		05	05	
BKGD		05	00	
CB		06	00	

< ノート >

AUX 1 は AUX で選択します。

AUX 2, BKGD, CB は AUX-B を押したとき、事前に設定されたものが選択されます。

SETUP (VTR CONSTANT) の一覧

VTR の拡張セットアップ (VTR CONSTANT)

*個別設定が生じた場合は、当社営業またはサービス窓口へお問い合わせください。

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	MODE	AUTO MODEL FIX PARA ACCORD DEV TYPE PARAMETER ENABLE	VTRの機種を自動認識するか、個別に設定するかなどの選択を行います。 [AUTO] VTRを自動的に認識して制御を行います。「DEVICE TYPE」から「FACTORY SET」までの設定は必要ありません。 [MODEL FIX] 「DEVICE TYPE」で設定したIDと同じIDを持つVTRと同じ制御を行います。「PRESET PREROLL TIME」から「FACTORY SET」を設定する必要はありません。 [PARA ACCORD DEV TYPE] 接続されているVTRのIDが「DEVICE TIME」で設定したIDと同じとき「PRESET PREROLL TIME」から「FACTORY SET」の各設定値が有効になります。 [PARAMETER ENABLE] 「DEVICE TYPE」の設定に関係なく「PRESET PREROLL TIME」から「FACTORY SET」の各設定値が有効になります。
		ALL INIT PRESET	[ALL INIT] 表示されているポートのVTR CONSTANTデータを初期化します。 [PRESET] 表示されているポートのVTR CONSTANTデータを特定のVTRのデフォルト値に設定します。 MODEが[AUTO]になっているときは、接続されているVTR用のデフォルト値に設定なり、MODEが[MODEL FIX]になっているときは、DEVICE TYPEで設定されているVTR用のデフォルト値になります。
2	DEVICE TYPE	00 00 ~ FF FF	特定のVTRと同じ制御をさせるときやVTRのIDが一致したときだけVTR CONSTANT DATAを有効にしたいときは、そのIDを設定します。A ~ Fの入力には [SHIFT] を押しながら [1] ~ [6] の数値入力ボタンを押してください。
3	PRESET PREROLL TIME	00:00 ~ 05:00 ~ 59:29 (NTSC) 00:00 ~ 05:00 ~ 59:24 (PAL)	VTRが必要とする最小限のプリロール時間 (秒 : フレーム) を設定します。「システムのセットアップ」(90ページ)のPREROLL TIMEでこの設定よりも短いプリロール時間を設定しても、こちらが優先されます。
4	EDIT DELAY	00 ~ 06 ~ 99	編集タイミング (EDIT ON/OFF コマンドを送出してから実際にVTRが記録動作を始めるまでの遅れ) をフレーム単位で設定します。
5	EE DELAY	00 ~ 06 ~ 99	EEタイミング (FULL 又は SELECT EE ON/OFF コマンドを送出してから、実際にVTRがEE動作を始めるまでの遅れ) をフレーム単位で設定します。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (VTR CONSTANT) の一覧

VTRの拡張セットアップ (VTR CONSTANT)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
6	TC READ DELAY	00 ~ 03 ~ 99	調相時に、タイムコードの連続性が何フレーム継続したら確定データとして処理するかフレーム単位で設定します。
7	RECORDER START DELAY	00 ~ 99	編集時、レコーダとして本機を使用した場合、VTRがSTOP状態のとき、PLAYコマンドを受け付けてから動作するまでの遅延時間をフレーム単位で設定します。
8	PLAYER START DELAY	00 ~ 05 ~ 99	編集時、プレーヤーとして本機を使用した場合、VTRがSTOP状態のとき、PLAYコマンドを受け付けてから動作するまでの遅延時間をフレーム単位で設定します。
9	AFTER SYNC DELAY -	00 ~ 99	調相時に、VTRのテープスピードを減速してタイムコードが一致した後PLAYモードに戻すタイミングをフレーム単位で設定します。
10	AFTER SYNC DELAY +	00 ~ 03 ~ 99	調相時に、VTRのテープスピードを加速してタイムコードが一致した後PLAYモードに戻すタイミングをフレーム単位で設定します。
11	SYNC CONTROL	DISABLE ENABLE	VTRの調相機能の有無を選択します。 [DISABLE] 調相機能がない。 [ENABLE] 調相機能がある。 < ノート > 調相機能がないVTRを使って編集すると編集精度が悪くなる場合があります。
12	CF LOCK MODE	2 FIELD 4 FIELD (NTSCモード) 2 FIELD 4 FIELD 8 FIELD (PALモード)	VTRの機能としてサポートしている最大フレーミングを設定します。 [2 FIELD] 2フィールドロック ([NTSC]: S-VHS, [PAL]: AG-7700, AG-7600など) [4 FIELD] 4フィールドロック ([NTSC]: DVCPRO, D3, D5, MII, [PAL]: S-VHSなど) [8 FIELD] 8フィールドロック ([NTSC]: なし, [PAL]: DVCPRO, D3, D5, MIIなど) [ご参考] カラーフレーミング編集は、ここでの設定と「システムのセットアップ」(90ページ)のCOLOR FRAMINGの設定とでコントロールされます。
13	CF LOCK STATUS	VOID VALID	VTRからのCFステータスを有効とするか無効とするか設定します。 [VOID] CFステータスが無効 [VALID] CFステータスが有効
14	SERVO DELAY	00 ~ 99	調相開始タイミングをフレーム単位で設定します。'00'に設定するとサーボロック後に調相を開始します。通常は'00'に設定します。
15	MAX CUE-UP SPEED	SHTL FF/REW	GO TOやPREROLLなどの頭出しをするときの、最大速度を設定します。 [SHTL] SHTLの最大速を使用します。 [FF/REW] FF/REWを使用します。
16	FORCED CUE-UP	30 sec 40 sec 50 sec 1 min 2 min 3 min 5 min OFF	VTR自身による頭出し (CUE-UP WITH DATAによる頭出し) を行う範囲を秒 (sec) または分 (min) 単位で設定します。設定の範囲より離れているときは、AJ-A900が頭出しを行います。また、“OFF”に設定すると、VTR自身による頭出しのみを行います。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (VTR CONSTANT) の一覧

VTRの拡張セットアップ (VTR CONSTANT)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
17	CUE-UP CHECK 1	1 ~ 7	目標値がここで設定したフレーム数以上離れているとき、GO TO や PREROLL などの頭出し動作を行います。
18	CUE-UP CHECK 2	STATUS STATUS & TIME	頭出しの完了条件を設定します。 [STATUS] VTRからのステータスのみで判定します。 [STATUS & TIME] VTRからのステータスと時間で判定します。
19	STILL CHECK	1 ~ 7	スロー編集時、VTRがSTILLモードとする最少のスピードをパーセント単位で設定します。
20	LOW SHTL MODE	SHTL VAR	サーチダイヤルをSHTLモードで操作するとき、使用するコマンドを設定します。 [SHTL] SHTLコマンドを使います。通常はこの設定にします。 [VAR] 高速時はSHTLコマンド、低速時はVARコマンドを使います。D3 VTRやD5 VTRはこの設定にします。
21	HEAD SELECT R-VTR	INHIBIT PB HEAD R/P HEAD	編集時レコーダVTRに出力するHEAD SELECTコマンドを設定します。 [INHIBIT] HEAD SELECTコマンドを出力しません。 [PB HEAD] PB HEADを選択します。 [R/P HEAD] R/P HEADを選択します。通常はこの設定にします。
22	HEAD SELECT P-VTR	INHIBIT PB HEAD R/P HEAD	編集時プレーヤーVTRに出力するHEAD SELECTコマンドを設定します。 [INHIBIT] HEAD SELECTをコマンド出力しません。 [PB HEAD] PB HEADを選択します。通常はこの設定にします。 [R/P HEAD] R/P HEADを選択します。
23	EDIT PRESET COMMAND	1 BYTE(2ch) 2 BYTE(4ch) 2 BYTE(8ch)	EDIT PRESET コマンドデータのバイト数を設定します。 [1 BYTE(2ch)] 1バイトのデータを使用します。オーディオトラックを2チャンネルもつVTRはこの設定にします。 [2 BYTE(4ch)] 2バイトのデータを使用します。オーディオトラックを4チャンネルもつVTRはこの設定にします。 [2 BYTE(8ch)] 2バイトのデータを使用します。オーディオトラックを8チャンネルもつVTRはこの設定にします。
24	MODEL	VTR LQ-4100 LQ-D5500	接続している機種特有の制御を設定します。 [VTR] 通常はこの設定にします。 [LQ-4100] LQ-4100特有の制御を行います。 [LQ-D5500] LQ-D5500特有の制御を行います。
25	FACTORY SET	00 ~ FF	“00” に設定してください。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

SETUP (VTR CONSTANT) の一覧

VTRの拡張セットアップ (VTR CONSTANT)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
26	CUE CONTROL (ASMBL)	OFF	<p>編集時、編集モードごとにキューオーディオトラックの記録を有効にするか設定します。複数の編集モードを選択したとき、その中にここでONした編集モードが含まれていれば、キューオーディオの記録を行います。</p> <p>[ON] その編集モードが選択されているとき、キューオーディオを記録します。</p> <p>[OFF] その編集モードが選択されているとき、キューオーディオを記録しません。</p> <p>[設定例]</p> <p>●AJ-D750でオーディオの記録を行ったとき、キューオーディオも記録したいときには、次の様に設定してください。</p> <p style="padding-left: 40px;">ASMBL, A1, A2 : ON</p> <p style="padding-left: 40px;">V, A3, A4, A5-6, A7-8 : OFF</p> <p>●AJ-D750でキューオーディオの記録を個別で選択したいときには、次の様に設定してください。</p> <p style="padding-left: 40px;">ASMBL, A3 : ON</p> <p style="padding-left: 40px;">V, A1, A2, A4, A5-6, A7-8 : OFF</p> <p style="padding-left: 40px;">(キューオーディオの選択は [A3]ボタンを使用します)</p> <p>< ノート ></p> <p>キューオーディオトラックがあり、2バイトのEDIT PRESETコマンドが使用できるVTR (DVCPRO, D3, D5 など) でのみ、ここでの設定が有効になります。DEVICE TYPE が個別設定になっているときはEDIT PRESET COMMANDを2BYTEに設定してください。</p>
27	CUE CONTROL (V)	ON	
28	CUE CONTROL (A1)		
29	CUE CONTROL (A2)		
30	CUE CONTROL (A3)		
31	CUE CONTROL (A4)		
32	CUE CONTROL (A5-6)		
33	CUE CONTROL (A7-8)		

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

CONFIG の一覽

CONFIG モード

項 目	機 能 説 明
SYNC GRADE	各ポート (VTR) 毎に調相精度を設定します。「システムのセットアップ」(90 ページ) では全体の設定をします) [ACCURATE] ± 0 フレームの精度で編集します。プリロール時間は一般に 5 秒以上必要です。 [± 1] ± 1 フレームの精度で編集します。 [ROUGH] 調相動作中、一度でも誤差が無くなれば以降の調相をしません。 [OFF] 調相しません。編集精度は保証されません。
TC SOURCE	VTR の時間表示にタイムコードを使用するとき、タイムコードの種類を選択します。 [LTC] LTC を使用します。 [VITC] VITC を使用します。 [LTC/VITC] テープスピードに応じて LTC と VITC を自動的に切り替えて使用します。 [LTC+] LTC を使用します。LTC が読めないときは CTL で補完します。 [VITC+] VITC を使用します。VITC が読めないときは CTL で補完します。 [LTC/VITC+] テープのスピードに応じて LTC と VITC を自動的に切り換えて使用します。LTC/VITC が読めないときは CTL で補完します。
TC JUMP	タイムコード不連続点があった場合の処理方法を設定します。 [INHIBIT] タイムコードに不連続点がある場合は編集できません。 [ALLOW] タイムコードに不連続点があっても編集が可能です。編集にかかる時間が長くなります。
CF PHASE	ビデオ信号とタイムコードとのカラーフレーム位相差を補正します。「システムのセットアップ」(90 ページ) の COLOR FRAMING が ON で COLOR FRAME REFERENCE が TIME CODE のとき、この設定を基準として編集を行います。 (NTSC モード) [A] 補正は行いません。ビデオ信号のフレーム A とタイムコードの偶数フレームをロックさせます。 [B] 180° の補正を行います。ビデオ信号のフレーム B とタイムコードの偶数フレームをロックします。 (PAL モード) [1] 補正は行いません。EBU の規格にそって、ビデオ信号のフレーム A とタイムコードの偶数フレームをロックします。 [2] 補正を行います。ビデオ信号の第 2 フレームを第 1 フレームとしてタイムコードにロックします。 [3] 補正を行います。ビデオ信号の第 3 フレームを第 1 フレームとしてタイムコードにロックします。 [4] 補正を行います。ビデオ信号の第 4 フレームを第 1 フレームとしてタイムコードにロックします。 < ノート > VHS (PAL) で記録したテープは、カラーフレーム位相差が特定できません。したがって、「システムのセットアップ」の COLOR FRAME REFERENCE は TIME CODE に設定しないでください。

初期設定 (工場出荷時)

	SYNC GRADE	TC SOURCE	TC JUMP	CF PHASE
R	ACCURATE	LTC/VITC	INHIBIT	A (NTSC モード) 1 (PAL モード)
P1	ACCURATE	LTC/VITC	INHIBIT	A (NTSC モード) 1 (PAL モード)
P2	ACCURATE	LTC/VITC	INHIBIT	A (NTSC モード) 1 (PAL モード)
P3	ACCURATE	LTC/VITC	INHIBIT	A (NTSC モード) 1 (PAL モード)
P4	ACCURATE	LTC/VITC	INHIBIT	A (NTSC モード) 1 (PAL モード)
P5	ACCURATE	LTC/VITC	INHIBIT	A (NTSC モード) 1 (PAL モード)
P6	ACCURATE	LTC/VITC	INHIBIT	A (NTSC モード) 1 (PAL モード)

外部機器のSETUP

AJ-HSW900のセットアップ (SWITCHER SETUP)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	VIDEO FORMAT	1035I/59.94Hz 1035I/60Hz 1080I/59.94Hz 1080I/60Hz 1080I/50Hz 1080P/25Hz 1080P/24Hz 720P/60Hz	AJ-HSW900 へ外部リファレンス信号を入力しないときの Ref.-out の出力信号フォーマットを設定します。 [1035I/59.94Hz] SMPTE260M 走査方式インターレース 有効ライン数 1035 本 フィールド周波数 59.94Hz [1035I/60Hz] SMPTE260M 走査方式インターレース 有効ライン数 1035 本 フィールド周波数 60Hz [1080I/59.94Hz] SMPTE274M 走査方式インターレース 有効ライン数 1080 本 フィールド周波数 59.94Hz [1080I/60Hz] SMPTE274M 走査方式インターレース 有効ライン数 1080 本 フィールド周波数 60Hz [1080I/50Hz] SMPTE274M 走査方式インターレース 有効ライン数 1080 本 フィールド周波数 50Hz [1080P/25Hz] SMPTE274M 走査方式プログレッシブ 有効ライン数 1080 本 フィールド周波数 50Hz [1080P/24Hz] SMPTE274M 走査方式プログレッシブ 有効ライン数 1080 本 フィールド周波数 50Hz [720P/60Hz] SMPTE296M 走査方式プログレッシブ 有効ライン数 720 本 フィールド周波数 60Hz < ノート > [1080I/50Hz] [1080P/25Hz] [1080P/24Hz] [720P/60Hz] の選択には、AJ-HSW900 のオプションが必要です。オプションがない場合は、選択しないでください。
2	SYSTEM PHASE	- 440 ~ 0 ~ 440	REF に対する H 方向システムフェーズ (単位: クロック) を設定します。- に設定すると REF に対して位相を進ませ、+ に設定すると REF に対して位相を遅らせる方向に調整します。
3	WHITE CLIPPING	0840 (88.6 IRE) ~ 1019 (109.0 IRE)	映像データの最高値 (ホワイト側) のクリッピング値を設定します。840 は 88.6 IRE に、940 は 100 IRE に、1019 は 109 IRE に相当します。
4	BLACK CLIPPING	004 (-6.8 IRE) ~ 163 (11.3 IRE)	映像データの最低値 (ブラック側) のクリッピング値を設定します。4 は -6.8 IRE に、64 は 0 IRE に、163 は 11.3 IRE に相当します。
5	BLANKING SLOPE	OFF ON	出力信号のブランキングスロープを選択します。 [OFF] スロープなしに設定します。 [ON] スロープありに設定します。
6	BORDER TYPE	1 : 1 16 : 9	四角ワイブのボーダー幅の縦横比を選択します。 [1 : 1] 縦方向と横方向のボーダー幅を同じにします。 [16 : 9] 縦方向と横方向のボーダー幅を画面の比率に合わせます。

< ノート >

- 各設定項目の詳細は、AJ-HSW900 の取扱説明書を参照ください。
- SYSTEM PHASE などの項目は右側の調整ボリューム (12 ページ参照) を使って設定できます。

004 は初期設定 (工場出荷時) の値です。

外部機器のSETUP

AJ-HSW900のセットアップ (MIXER SETUP)

項 目		設 定 値	機 能 説 明
No.	画面表示		
1	TRANSITION CURVE	- 20dB - 6dB - 3dB	<p>編集時オーディオの効果点での切り換え方 (トランジションカーブ) の設定を行います。</p> <p style="text-align: center;">- 20dB - 6dB - 3dB</p>
2	HEAD ROOM (ANALOG INPUT)	18dB 20dB	アナログオーディオ入力のヘッドルームを選択します。
3	REF. LEVEL (ANALOG INPUT)	- 20dB 0dB + 4dB	アナログオーディオ入力の基準レベルを選択します。
4	TRIM (ANALOG INPUT)	- 30dB ~ 0dB ~ 12dB	アナログオーディオ入力をゲイン調整します。
5	HEAD ROOM (ANALOG OUTPUT)	18dB 20dB	アナログオーディオ出力のヘッドルームを選択します。
6	REF. LEVEL (ANALOG OUTPUT)	- 20dB 0dB + 4dB	アナログオーディオ出力の基準レベルを選択します。
7	TEST SIGNAL LEVEL	- 18dB - 20dB	基準信号ジェネレーターの出力レベルを選択します。
8	TEST SIGNAL FREQUENCY	400Hz 1KHz 3KHz	基準信号ジェネレーターの出力周波数を選択します。

< ノート >

各設定項目の詳細は、AJ-HSW900の取扱説明書を参照ください。

は初期設定 (工場出荷時) の値です。

ボタン、ランプ機能一覧

A-BUS



[A-BUS]

SOURCE 選択部で A 列側のボタンで選択された映像をモニター TV に表示します。



[ALL STOP]

全ての VTR を停止します。編集中押すと EDL に登録せず編集を中止します。

DUMP、LOAD 等でパソコンとの通信中に押すと動作を中止します。



[ASMBL]

アッセンブル編集を行うとき押します。再度押すと解除します。

A1、V 等のランプが点灯している場合は消灯してからこのボタンを押します。

[1ST EDIT (SHIFT + ASMBL)]

ファーストエディットを行うとき押します。もう一度押すと解除します。

○ ASPECT

[ASPECT]

点灯中調整ボリュームで丸パターン、角パターン、モザイクの縦横比が調整できます。



[AUTO EDIT/END]

表示中のイベントのみを自動編集するとき押します。

OUT 点を登録せずに編集を実行しこのボタンで停止すると編集点を登録して完了し、次のイベントに繰り上がります。

[PROGRAM EDIT (SHIFT + AUTO EDIT/END)]

未編集の EDL (編集点登録データ) を表示部分から自動編集します。ニューイベントの編集は行いません。



[AUX] [AUX-B (SHIFT + AUX)]

スイッチャーに接続した VTR 以外の信号 (カメラ、テロップ等) を編集ソースとして選択します。

[IN] [OUT] [DUR] [SPLIT IN/OUT] で編集データの設定ができます。

AUX



[AUX]

VTR SELECT 部の AUX で選択した内容をソースとして選択します。



[A1] ~ [A8]

インサート編集で、オーディオのチャンネル 1 ~ 8 を設定します。解除は再度同じボタンを押します。

アッセンブル編集、TC インサート編集の設定を行うときは消灯させます。

BASE



[BASE (F7)]

スプリット編集の基準を設定します。

BG



[BG]

スイッチャーの内部で発生させたバックグラウンドカラーを選択します。KEY を使ってタイトルを挿入する場合や編集用テープにブラックパストを記録するとき使用します。

BG MATTE



[BG MATTE (F8)]

バックグラウンドカラーの色合いを調整します。

B-BUS



[B-BUS]

SOURCE 選択部の B 列側で点灯したボタンの映像をモニター TV に表示します。



[CLEAR]

編集データを取り消すとき使用します。

[IN CLEAR]

現在選択されている VTR の IN 点を消します。

[OUT CLEAR]

OUT 点を消します。

[SPEED CLEAR]

スロー編集モード (初期速度) を取り消します。

[ALL CLEAR (SHIFT + CLEAR)]

編集点などのデータを消します。



[CONFIG PF 0 ~ PF 9 SET]

各 CONFIG データを呼び出します。

○ CLIP

[CLIP]

点灯中、KEY (文字スーパー) の切り取りレベルを調整して文字が明瞭になるよう調整できます。GAIN と共に調整してください。

CONTRAST



[CONTRAST]

液晶画面の明るさを調整します。

CTL ○

[CTL]

時間基準として VTR の CTL (制御用コントロールパルス) を使用しているとき点灯します。TC/CTL ボタンで切り替わります。

ボタン、ランプ機能一覧



[CUT (F1)]
ソース VTR を 1 台用いた一般的な編集モードです。



[DEFOCUS/デフォーカス]
点灯中、モザイクの荒さを調整できます。



[DISS (F2)]
押すと A / B ロール編集となり、スイッチャーのディゾルブを指定します。A から B へ重ね合わさるように切り替えます。



1 回の編集区間 (デュレーション) を表示します。

A / B ロール編集の場合、液晶部は合計時間を表示しますがこの場合 LED 部に A, B それぞれの時間を表示します。

[時間入力 DUR]

編集区間を設定します。

[DUR 時間入力 ENTER]

上記同様、編集区間を設定します。

[DUR CLEAR]

デュレーションを消去します。

[DUR + ' + '] または [DUR + ' - ']

1 フレーム単位で編集区間を変更します。

[EFF (SHIFT + DUR) GO TO]

エフェクト点へ VTR を頭出しします。

[EFF + (-) 時間入力 ENTER]

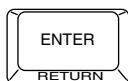
エフェクト点を加算 (減算) します。



[EDL (F10)]
編集のリストを表示します。リストの編集 (マネージメント) や DUMP、LOAD 等も行えます。



[EFF]
スイッチャーのプログラム出力をモニター TV に表示します。



[ENTER]
入力したデータ、設定を確定するとき押します。

[RETURN (SHIFT + ENTER)]

編集点などのデータ入力を途中でやめるとき押します。



[FADER]
MAN ボタンが点灯中、スイッチャーのフェーダーレバーと同様に機能します。(スイッチャーがリモートに対応している必要があります)

モザイクを選択した場合は大きさを変えられません。



[FF]
VTR SELECT 部で点灯している VTR を早送りします。

[EJECT (SHIFT + FF)]

VTR SELECT 部のランプが点灯している VTR のテープを吐き出します。

[ALL EJECT (ENTER + FF)]

全ての VTR のテープを EJECT します。



[FUNC (F12)]
特殊な設定を行うメニューを表示します。



[F1] ~ [F13]
ボタンの上部または左に表示されたディスプレイの表示機能を選択します。



[GAIN]
点灯中、KEY (文字スーパー) で切り取り信号のレベルをボリュームで調整できます。CLIP と同時に調整し文字が明瞭になるようにします。



[GO TO]
VTR SELECT 部で点灯している VTR に IN 点が設定されている場合はテープを頭出しします。

[IN GO TO] も同じ動作です。

[OUT GO TO]

OUT 点へ頭出しします。

[EFF GO TO]

A / B ロール編集が設定されている場合は、エフェクト点 (A / B 点) へ頭出しします。

[START GO TO]

編集開始点へ頭出しします。


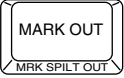







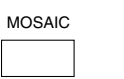













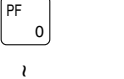

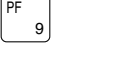










[数字入力 GO TO]

入力したタイムコードの位置へ頭出しします。

[PREROLL (ENTER + GO TO)]

プリロール位置へ頭出しします。レコーダの IN 点が無いときは自動的に設定します。

ボタン、ランプ機能一覧

	<p>[HOME (F13)] ディスプレイの表示を初期画面に戻します。</p>		<p>[MARK OUT] 選択されている VTR のタイムコードを読み取って OUT 点を設定します。</p>
	<p>[HUE] ヒュー。点灯中カラーの色相（色合い）が調整できます。</p>		<p>[MRK SPLIT OUT (SHIFT + MARK OUT)] マークスプリット OUT。</p>
	<p>[時間入力 IN] VTR SELECT 部で VTR を指定し、数字入力後押すと編集の IN 点を設定します。</p>		<p>[MARK SPEED] VTR をスローで走行させこのボタンを押すとスロー編集の初期速度を登録します。</p>
	<p>[IN 時間入力 ENTER] 上記と同様タイムコードで IN 点を設定します。</p>		<p>[MRK STRT (SHIFT + MARK SPEED)] 編集を開始するときこのボタンを押します。トータル時間はここを起点に計算されます。</p>
	<p>[IN CLEAR] 編集の IN 点を取り消します。</p>		<p>[MOSAIC (F4)] スイッチャーのモザイクモードを選択します。</p>
	<p>[IN + ' + '] または [IN + ' - '] 1 フレーム単位で IN 点を変更します。</p>		<p>[JOG] サーチダイヤルを JOG モードにします。</p>
	<p>[KEY (F5)] スイッチャーのキーモード（ダウンストリームキー、タイトルモード）を指定します。タイトラからの入力文字をスーパーインポーズし、カラーを付けることができます。</p>		<p>[時間入力 OUT] OUT 点をタイムコードで設定します。</p>
	<p>[LUM] ルミナンス。点灯中バックグラウンド、ポーターカラーの明るさを調整できます。</p>		<p>[OUT 時間入力 ENTER] 上記と同様 OUT 点を設定します。</p>
	<p>[MAN] マニュアル。点滅中 FADER ポリリュームを調整してディゾルブ、ワイプ等を行います。</p>		<p>[OUT CLEAR] OUT 点を取り消します。</p>
	<p>[MARK IN] 選択されている VTR の現在位置のタイムコードを読み取って編集の IN 点を設定します。</p>		<p>[OUT + ' + '] または [OUT + ' - '] 1 フレーム単位で OUT 点を変更します。</p>
	<p>[MRK SPLIT IN (SHIFT + MARK IN)] マークスプリット IN。</p>		<p>[OUT GO TO] または [OUT + GO TO] OUT 点へ頭出しします。</p>
	<p>押した位置をオーディオスプリット編集のオーディオ IN 点として登録します。（オーディオベースの場合は、ビデオ IN 点になります）</p>		<p>[PF LEARN PF 0 ~ PF 9 一連の動作 SET] 各プログラムファンクションに一連の動作を登録します。</p>
	<p>[PLAY] VTR SELECT 部で点灯している VTR を再生します。</p>		<p>[PF 0] ~ [PF 9] 各プログラムファンクションに登録された動作を実行します。</p>
	<p>[STB OFF (SHIFT + PLAY)] スタンバイオフ。STILL 状態のままテープをルージングして（張力をゆるめて）ヘッド目詰まり、テープ破損を防止します。</p>		<p>[ALL STB OFF (ENTER + PLAY)] すべての VTR をスタンバイオフにします。</p>
	<p>[PLAY] VTR SELECT 部で点灯している VTR を再生します。</p>		<p>[STB OFF (SHIFT + PLAY)] スタンバイオフ。STILL 状態のままテープをルージングして（張力をゆるめて）ヘッド目詰まり、テープ破損を防止します。</p>
	<p>[ALL STB OFF (ENTER + PLAY)] すべての VTR をスタンバイオフにします。</p>		<p>[ALL STB OFF (ENTER + PLAY)] すべての VTR をスタンバイオフにします。</p>
	<p>[ALL STB OFF (ENTER + PLAY)] すべての VTR をスタンバイオフにします。</p>		<p>[ALL STB OFF (ENTER + PLAY)] すべての VTR をスタンバイオフにします。</p>
	<p>[ALL STB OFF (ENTER + PLAY)] すべての VTR をスタンバイオフにします。</p>		<p>[ALL STB OFF (ENTER + PLAY)] すべての VTR をスタンバイオフにします。</p>

ボタン、ランプ機能一覧



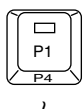
[PREVIEW]

実際の編集を行う前にリハーサルをします。強制終了は [ALL STOP] を押します。

[SYNC PREVIEW (ENTER + PREVIEW)] プレーヤー、レコーダ共再生状態でリハーサルします。

[REVIEW (SHIFT + PREVIEW)] 最後に行った編集の結果を確認します。表示されているイベントがニューイベントの場合は前の編集結果を確認します。

[EVENT 数字入力 ENTER REVIEW] 編集済みイベントを呼び出して確認します。



[P1] ~ [P6]

操作、またはデータを入力する VTR を選択します。[IN] [OUT] [DUR] [SPLIT IN] [SPLIT OUT] [SPEED] [GO TO] ボタンを押したとき点灯している VTR が対象となります。



[P1] ~ [P3] (P4 ~ P6)

編集に使用するソース (VTR) を選択します。ニューイベントでカット編集をするときは、VTR SELECT 部に追従しますので操作の必要はありません。

A / B ロール編集では A 列側から B 列側に切り替わります。編集点を最初に登録した側が A 列に登録されますがこのボタンで入れ替えができます。



[R]

選択するとレコーダ VTR を操作できます。その後 [IN] [OUT] [DUR] [SPLIT IN] [SPLIT OUT] [GO TO] ボタンでレコーダのデータの登録、VTR の制御ができます。



押している間レコーダ VTR を EE (E to E) モードにしてソースの画像を見ることが出来ます。VTR の機種、設定動作の状態によっては機能しない場合があります。

[REC + PLAY]

手動録画を開始しランプが点灯します。

[TEMPORARY RECORD (ENTER + REC + PLAY (左側))]

P1、P2 等 VTR SELECT 部で選択されているプレーヤーが記録を開始します。

[SHIFT + REC REC]

オン・ザ・フライ編集。SHIFT + REC でレコーダが再生を開始し、以降 REC ボタンを押す毎に記録、再生を繰り返します。



[RESET]

LED 部が CTL で表示しているとき [0] にリセットします。TC はリセットできません。



[REW]

VTR SELECT 部で点灯している VTR を巻き戻します。

[ALL REW (ENTER + REW)]

全ての VTR を巻き戻します。



[SAT]

サチュレーション。点灯中、バックグラウンド、ボーダーカラーの色の濃さを調整できます。



[SERVO]

テープがサーボロックして走行しているとき、点灯します。



[SET]

CONFIG、USER、PF LEARN ボタンとあわせて使用します。

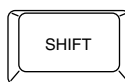


[SETUP (F9)]

システム設定をします。

[ENTER + SETUP]

システム管理者が行う高度な設定が可能です。



[SHIFT]

ボタンの側面に表示している機能を使うとき、このボタンと同時に押します。



[SHTL/シャトル]

サーチダイヤルをシャトルモードにします。



[SOFT]

点灯中、WIPE のボーダー、モザイクの周辺のぼかし具合を調整できます。

ボタン、ランプ機能一覧



[SPEED]
 現在選択されているVTRにスローの初期スピードが設定されているとき%単位でLED部に表示します。
[SPEED 数字入力(%) ENTER]
 スロー編集の初期スピードを設定します。設定範囲は - 100 ~ 300 %間で可能ですが動作はVTRの性能に従います。
[SPEED CLEAR]
 初期速度を通常スピードに戻します。
[SPEED + '+']または[SPEED + '- ']
 1 %単位で変更します。
[START (SHIFT + SPEED)]
 MARK STARTで登録した編集の開始点を表示します。
 入力が無い場合は編集開始時のレコーダのIN点を表示します。
[START タイムコード入力 ENTER]
 編集開始点を登録します。
[LAP (ENTER + SPEED)]
 押している間ラップ時間を表示します。



[STILL]
 テープを停止して静止画状態にします。
[STOP (SHIFT + STILL)]
 VTRを停止します。一般的VTRの場合、ドラムの回転が停止します。



[SW'ER (F11)]
 外部スイッチャーの調整や設定を行います。



[TC]
 点灯中はTC(タイムコード)基準で時間を表示しています。



[TC/CTL]
 押す毎に時間表示をTC(タイムコード)とCTL(コントロールパルス)交互に切り替えます。タイムコードが無い場合はTC側へ切り替わりません。
 他の編集モードになっているときは、セットできません。



[TRANS]
 点灯中、トランジション時間の調整ができます。



[U-BIT]
 押している間、ユーザビットの情報を表示します。



[USER PF 0 ~ PF 9 SET]
 各SETUPデータ呼び出します。



[V]
 インサート編集で映像を記録するとき点灯させます。
 ASMBLが点灯中はセットできません。
[TC (SHIFT + V)]
 タイムコードをインサート記録(TCインサート編集)するとき、このボタンを押します。他の編集モードになっているときは、セットできません。



[VAR]
 サーチダイヤルをバリエブルスピードモードにします。



[VTR]
 VTR選択部で選択された映像をモニターTVに表示します。



[WIDTH]
 点灯中、WIPEのボーダー、幅を調整できます。



[WIPE (F3)]
 押すと自動的にA/Bロールモードになります。画面からWIPEのパターンを選択します。



[0]
 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[EXIT (SHIFT + 0)]
 編集点などのデータ入力を途中でやめるとき押します。



[00]
 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[F/TC (SHIFT + 00)]
 数値を入力するとき、タイムコードで入力するか、フレーム単位で入力するかを切り替えます。



[1]
 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[GPI (SHIFT + 1)]
 GPI設定モードに入ります。

ボタン、ランプ機能一覧



[2]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[REEL (SHIFT + 2) 数字入力 ENTER]
リールナンバーを設定します。
[CLIP (ENTER + 2) F1 ~ F8]
サーバーのクリップを選択します。



[3]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[T SET (SHIFT + 3) 時間 ENTER]
TC インサート編集や手動記録の、TC の初期値を設定します。



[4]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[BACK (SHIFT + 4)]
編集点データをスクラッチパッドコードへコピーします。



[5]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[CORCT (SHIFT + 5)]
すでに EDL メモリーに登録している編集データを変更するとき押しします。



[6]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[EVENT (SHIFT+6) 数字入力 ENTER]
指定したイベントを呼び出します。
[EVENT 9999 SHIFT + ENTER]
全ての EVENT を消去します。
[CHANGE EDL (ENTER + EVENT)]
EDL がマルチ (256 イベント × 2) に設定されているときグループを切り替えます。



[7]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[LAST X (SHIFT + 7)]
一度編集した編集データを元に戻します。



[8]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[LAST ED (SHIFT + 8)]
ラストエディット。すでに実行済みの前回の編集 (プレビュー) データに戻します。



[9]
編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
[TRACK (SHIFT + 9)]
前のイベントの編集点との間でタイムトラックを行うとき押しします。

[ご参考]

[FS] ボタンを押したとき、自動的にタイムトラックさせるには「操作方法ののセットアップ」(88 ページ) の AUTO TAG を RECORDER & PLAYER または ALL VTR にします。



[-]
数字データを減少するとき使用します。
[BS (SHIFT + '-')]
前のイベントに変更するとき押しします。SETUP モードの時は、ページを変更します。
[IN + '-']
押す毎に 1 フレームづつ減少します。
[OUT + '-']
アウト点を 1 フレームずつ減少します。
[DUR + '-']
デュレーションを 1 フレーム短くします。
[SPEED + '-']
スピードを 1 % 遅くします。



[+]
数字データを増加するとき使用します。
[FS (SHIFT + '+')]
次のイベントに変更するとき押しします。SETUP モードの時は、ページを変更します。
[IN + '+']
押す毎に 1 フレームづつ増加します。
[OUT + '+']
アウト点を 1 フレーム前に進めます。
[DUR + '+']
デュレーションを 1 フレーム長くします。
[SPEED + '+']
スピードを 1 % 速くします。

エラー表示一覧

モニター表示	エラーの内容 / 処置
CANNOT CF EDIT	カラーフレーム調相ができません。REF VIDEOの未接続、TCの不連続、[SETUP]のVTRパラメーターが合っていない、CF PHASEが合っていないなどが、考えられます。また、VTRの機種により、カラーフレーム編集できないものもあります。
CANNOT CHANGE MODE	編集モードの変更はできません。アッセンブルモード、インサートモード、TCインサートモードを切り換えるには、編集モードを一度解除してください。
CANNOT COMM	[LOAD] [DUMP]中に、外部機器が応答しなくなりました。外部機器との、接続を確認してください。
CANNOT CUEUP xx	VTR xxが頭出しできません。VTRのTCが、不連続になっている可能性があります。基準信号をCTLに変更し再度編集点を設定してください。
CANNOT EXECUTE xx	編集できません。VTR xxを調べてください。
CANNOT FOUND EVENT	未編集のイベントが見つかりません。
CANNOT LAST ED	[LAST ED]にて、現在のイベントNo.と記録されているイベントNo.とが異なります。
CANNOT OPERATE	編集中、または[LOAD] [DUMP]中にできない操作です。
CANNOT READ TC	VTRのタイムコードが読めません。VTRとの接続などを確認してください。また、使用できるタイムコード(LTCまたはVITC)を調べ[CONFIG]で設定してください。

モニター表示	エラーの内容 / 処置
CANNOT RECORD	VTRに記録できません。レコーダVTRがREC INHIBIT ONになっていないか、またテープの爪が記録禁止になっていないかを確認してください。
CANNOT RESET TC	CTL以外では、RESETできません。
CANNOT REVIEW	編集データがないため、[REVIEW]できません。
CANNOT SWITCH TC	TCに切り換えられません。VTRにTC機能がないなどが考えられます。
CANNOT SYNCHRONIZE xx	調相できません。VTR xxを調べてください。 REF VIDEOの未接続、TCの不連続、[SETUP]のVTRパラメーターが合っていない、CF PHASEが合っていないなどが、考えられます。 また、VTRの機種により、編集精度を高くできないものもあり、そのときは編集精度を下げてください。
EDIT DATA NOT FOUND	[TRACK]にて、参照するデータがありません。
EDIT SERVO ERROR	編集中、VTRのサーボロックが外れました。ご使用中のテープを確認してください。
EDL OVERFLOW	EDLメモリーが一杯です。
EDL WRITE ERROR	EDLデータが書き込めません。当社サービス窓口へご相談ください。
EDL READ ERROR	EDLデータが壊れています。このイベントのデータ修正しました。
EVENT NOT FOUND	指定されたイベントNo.は登録されていません。

エラー表示一覧

モニター表示	エラーの内容 / 処置
FORMAT ERROR	[LOAD] しているデータに誤りがあります。[LOAD] 可能なデータは、AJ-A900, AG-A850, CMX340, BVE9000 フォーマットのデータのみです。
INVALID REC POINT	レコーダ VTR の編集 IN 点が、OUT 点より大きい値になっています。
INVALID SPLIT POINT	スプリットデータが正しい値ではありません。
NO ERROR	電源 ON 以降にエラーは発生していません。
OPERATE ERROR	操作が間違っています。正しく入力してください。
RS232C COMM ERROR	[LOAD] [DUMP] するとき、通信エラーが発生しました。外部機器の通信プロトコルや、接続を確認してください。接続が正常なときは両方の通信速度を遅くしてください。
TC ERROR	入力されたタイムコードは正しい値ではありません。
TC JUMP FOUND	VTR の TC が不連続になっています。
UNDEFINED IN POINT	編集 IN 点が設定されていないか誤りです。
UNDEFINED SOURCE	ソース VTR が設定されていないか、またはスレーブ設定されたプレーヤー VTR がソース VTR に設定されているので編集できません。
UNDEFINED OUT POINT	編集 OUT 点が設定されていないか誤りです。
VTR xx LOCAL	VTR xx がローカルになっています。

警告番号一覧

モニター表示	警告の内容 / 処置
DIFFER FRAME MODE	レコーダ VTR のテープに記録されたタイムコードと、AJ-A900 のシステム設定とのフレームモードが異なります。一致させてください。
EDL OVER FLOW	[LOAD] するとき、EDL メモリーが飽和しました。 [LOAD] できるイベント数は 512(256) までです。
EXECUTE xx	スレーブ VTR xx が制御できません。VTR xx を使用せずに、他の VTR で編集を行います。
OVERWRITE EXECUTE	EDL メモリーに上書きにしました。
SWITCHER COMM ERROR	スイッチャーとの通信エラーが発生しました。
SWITCHER LOCAL	スイッチャーがローカルになっています。
UNDEFINED EDIT MODE	編集モードが設定されていません。

VTR・スイッチャーの設定

当社製 VTR の設定

機種	設定
S-VHS AG-7750 7750H 7650 7650H	1) 9P DEVICE TYPE を S-VHS ID にする。 SETUP MENU No. 3002 : S-VHS ID(01) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SETUP MENU No. 4003 : 0 FRAME(00) 3) TC を使用するときには、ポケット内のスイッチを INT, PRESET, FREE RUN にする。 (AG-7750(H)のみ) 4) LTC を使用するときには、ポケット内のスイッチをオーディオ ch2 を LTC にする。 5) REMOTE OPERATION を 9P にする。 SETUP MENU No. 3003 : 9P(00) 6) FRAME SERVO を ON にする。 SETUP MENU No. 4005 : ON(01) 7) SHORT FF を ON にする。 SETUP MENU No. 1007 : ON(01) 8) フロントのモードスイッチを PLAYER 側は PLAY, RECORDER 側は EDIT に設定する。 (AG-7750(H)のみ) 9) CONTROL SW を REMOTE にする。
S-VHS AG-DS850 DS840 DS555 DS545 DS550 DS540	1) 9P DEVICE TYPE を S-VHS ID にする。 SETUP MENU No. 5002 : S-VHS ID(01) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SETUP MENU No. 6004 : 0 FRAME(00) 3) TC を使用するときには INT, FREE RUN にする。 SETUP MENU No. 7001 : INT (00) SETUP MENU No. 7002 : FREE RUN (02) SETUP MENU No. 7007 : UB (02) 以外 (AG-DS850/DS555/DS550のみ) 4) LTC を使用するときには、オーディオ ch2 を LTC にする。 SETUP MENU No. 3006 : LTC (01) 5) 調相するときには、DIGITAL SLOW SW を OFF または 1 にする。 (AG-DS850/DS840のみ) 6) FRAME SERVO を ON にする。 SETUP MENU No. 6005 : ON (01) 7) SHORT FF を ON にする。 SETUP MENU No. 1006 : ON (01) 8) CONTROL SW を REMOTE にする。

機種	設定
MII AU-660 650 640 630 620 60	1) 9P DEVICE TYPE を M2 ID にする。 L6 基板 SW3-5 : ON 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 L6 基板 SW5-1 ~ 4 : OFF (AU-650/620 を除く) 3) TC を使用するときには、INT, PRESET, FREE RUN にする。 (AU-660/650/640のみ) 4) HEAD SW を PLAYER 側は PLAY、RECORDER 側は R/P に設定する。 (AU-660/650/640のみ) 5) CONTROL SW を REMOTE にする。 < ノート > AU-650 はカラーフレーミング編集ができません。
MII AU-W35H/R W33H/R W32H/R 655 66H 65(H) 63(H) 62(H)	1) 9P DEVICE TYPE を M2 ID にする。 SETUP MENU No. 3004 : M2 ID (2) 2) TC を使用するときには、AU-F65 を装着する。 (AU-66H/65(H)/63(H)/62(H)のみ) 3) TC を使用するときには、INT, PRESET, FREE RUN にする。 (AU-W35H/665/66H/65(H)のみ) 4) HEAD SW を PLAYER 側は PLAY、RECORDER 側は R/P に設定する。 (AU-665/66Hのみ) 5) CONTROL SW を REMOTE にする。
DVCPRO AJ-LT75 LT85	1) ID SEL を DVCPRO ID にする。 SET MENU No. 200 : DVCPRO (1) (VTR1, 2 ともに設定) 2) PLAY DELAY を設定する。 SETUP MENU No. 301 : 0 3) TC を使用するときには INT, PRESET, FREE RUN にする。 SETUP MENU No. 507 : P-FREE (1) (VTR2 をレコーダにするときのみ) 4) CONTROL SW を REMOTE にする。
DVCPRO AJ-LT95	1) ID SEL を DVCPRO ID にする。 SET MENU No. 202 : DVCPRO (1) (VTR1, 2 ともに設定) 2) PLAY DELAY を設定する。 SETUP MENU No. 107 : 0 3) TC を使用するときには TC ジェネレータスイッチを F-RUN にする。 4) CONTROL SW を REMOTE にする。

< ノート >

次の VTR はカラーフレーミング編集に制限があります。

NTSC : S-VHS フォーマットの VTR は、カラーフレーミング編集はできません。

PAL : S-VHS フォーマットの VTR は、8 フィールドのカラーフレーミング編集はできません。

設定の必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされますと、感電や故障の原因となる恐れがあります。
 機器をお買い求めになられました販売店か、当社サービス窓口にご相談ください。

VTR・スイッチャーの設定

当社製 VTR の設定

機種	設定
DVCPRO AJ-D960 D950 D940 D850 D840 D750 D650 D640 D450 D440	1) ID SEL を DVCPRO ID にする。 SETUP MENU No. 202 : DVCPRO (1) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SETUP MENU No. 106 : 0 FRAME (0) (AJ-D960 以外) SETUP MENU No. 107 : 0 FRAME (0) (AJ-D960 のみ) 3) 9P SEL を ON する。 SETUP MENU No. 201 : ON (1) 4) VAR RANGE を - 4 ~ + 4 にする。 (AJ-D960 以外) SETUP MENU No. 300 : 1 本設定がないときは、 ● VAR STEP を FINE にする。 SETUP MENU No. 316 : FINE (0) ● VAR FWD MAX を + 4.1 にする。 SETUP MENU No. 317 : + 4.1 (0) 5) TC を使用するときには、INT, PRESET, FREE RUN にする。 ● フロントパネルのスイッチを INT にし、 ポケット内のスイッチを PRESET, FREE RUN にする。 (AJ-D960/D950/D850/D750) ● ポケット内のスイッチを INT にする。 (AJ-D650/D450) ● SETUP MENU No. 504 : OFF (0) (AJ-D650/D450) ● SETUP MENU No. 504 : SW (3) (AJ-D960/D950/D850) ● SETUP MENU No. 510 : FREE (1) (AJ-D650/D450) 6) CONTROL SW を REMOTE にする。
DVCPRO HD AJ-HD150	1) ID SEL を ORIG にする。 SETUP MENU No. 202 : ORIG (2) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SETUP MENU No. 108 : 0 FRAME (0) 3) 9P SEL を ON する。 SETUP MENU No. 201 : ON (1) 4) TC を使用するときには、INT, PRESET, FREE RUN にする。 ● フロントパネルのスイッチを INT にする。 ● SETUP MENU No. 503 : PRE (1) ● SETUP MENU No. 504 : FREE (1) 6) CONTROL SW を REMOTE にする。
D5/D3 AJ-D580 D350 D351 D360	1) 9P DEVICE ID を DEFAULT にする。 INTERFACE SETUP MENU : DEFAULT 2) RS-422 制御モードを設定する。 INTERFACE SETUP MENU : MODE-1 3) TC を使用するときには、INT, PRESET, FREE RUN にする。 TC/CHR MENU : INT, PRESET, FREE RUN 4) CONTROL を REMOTE にする。 HOME : REMOTE (AJ-D350/D351) CONTROL SW : REMOTE (AJ-D580)

当社製 DISK RECORDER の設定

機種	設定
DISK LQ-D5500	1) DEVICE TYPE を LQ-D5500 にする。 SETUP MENU No. 6-10 : LQ-D5500(0) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SETUP MENU No. 6-3 : 0 FRAME(0) 3) EDIT DELAY を 3 FRAME にする。 SETUP MENU No. 6-4 : 3 FRAME(3) 4) TC の設定を INT, PRESET, FREE RUN に する。 SETUP MENU No. 4-1 : PRESET(0) SETUP MENU No. 4-2 : FREE, RUN(1) 5) CTL のモードを選択する。くわしい内容は、 LQ-D5500 の取扱説明書をご覧ください。 SETUP MENU No. 5-6 : CTL(0)/ATC(1) 6) カラーフレーミング編集を行うときは COLOR FRAMING を ON にする。 SETUP MENU No. 6-5 : ON(1) 7) スプリットモードを選択する。くわしい内 容は、LQ-D5500 の取扱説明書をご覧くだ さい。 SETUP MENU No. 6-9 : ON(1) 8) CONTROL を REMOTE にする。
DISK LQ-4100	1) 9P DEVICE TYPE を LQ-4100 にする。 SETUP MENU No. 1-4 : A0A1 2) EDIT TIMING を 5 FRAME にする。 SETUP MENU No. 1-2 : 5 FRAME 3) PREROLL TIME を AJ-A900 とあわせる。 SETUP MENU No. 1-1 : 5 SEC (標準) 4) CONTROL を REMOTE にする。 < ノート > ● スレーブ VTR として使用できません。 ● LQ-4100 のソフトウェアのバージョンによ り動作しないことがあります。

設定の必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされますと、感電や故障の原因となる恐れがあります。
 機器をお買い求めになられました販売店か、当社サービス窓口にご相談ください。

VTR・スイッチャーの設定

JVC 社製 VTR の設定

機種	主な設定/AJ-A900 接続時注意点
BR-S822 S622 S525 (SA-R22 含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● 9PIN DEVICE TYPE ID を JVC SVHS-1 にする。 ● VIDEO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 ● AUDIO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 < ノート > TC インサート編集はできません。
BR-S800 (SA-K26 SA-R50 SA-N50 含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● 9PIN DEVICE ID を JVC SVHS-1 にする。 ● VIDEO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 ● AUDIO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 ● SYNCHRONIZATION を ENABLE にする。 < ノート > <ul style="list-style-type: none"> ● TC インサート編集はできません。 ● ファーストエディット編集時、タイムコードは設定できません。 ● オーディオスプリット編集時、編集点がずれることがあります。
PR-D85 D80	<ul style="list-style-type: none"> ● 9PIN DEVICE ID を JVC D80 にする。 ● タイムコード設定は、INT, FREE, PRESET にする。 < ノート > <ul style="list-style-type: none"> ● アッセンブル編集、ファーストエディット編集を行うと、編集終了後 VTR が FF 動作を行うことがあります。 ● ソース VTR のスロー再生信号の品質により、編集できないことがあります。 ● カラーフレミング編集はできません。

上記以外の設定は、「システム設定」および、各 VTR のマニュアルをご覧ください。

SONY 社製 VTR の設定

機種	主な設定/AJ-A900 接続時注意点
BVU-800	CTL 編集のみ可能
BVU-950	<ul style="list-style-type: none"> ● TCG/R 別売・TC インサート編集不可 ● TC スイッチ (サブパネル) は SERVO LOCK = INT に設定 ● カラーフレミング編集はプリロール時間を 10 秒以上に設定
EVO-9800	<ul style="list-style-type: none"> ● 調相不可・PLAYER のみ可・外部同期不可 ● AJ-A900 の REF. IN は EVO の VIDEO OUT を接続 ● レコーダ VTR の REF.IN に入力しないレコーダ VTR はインカムロックにする。 ● SYNC SELECT: NORM (S-VHS)
EVO-9850	調相を失敗するときは、SYNC GRADE をおとす。
PVW-2800 PVW-2650 PVW-2600	TC を設定するときは、INT, PRESET, FREE RUN にする。
BVW-75	<ul style="list-style-type: none"> ● TC を設定するときは必ず INT, PRESET, FREE RUN にする。 ● カラーフレミング編集はプリロール時間を 10 秒以上に設定する。

上記以外の設定は、「システム設定」および、各 VTR のマニュアルをご覧ください。

設定の必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされると、感電や故障の原因となる恐れがあります。

機器をお買い求めになられました販売店か、機器メーカーにご相談ください。

他社製品につきましては、仕様変更等によりここで記載した設定で動作しないことがあります。

VTR・スイッチャーの設定

ビデオスイッチャーの設定

機種	主な設定/AJ-A900 接続時注意点																											
共通	1) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の SWITCHER SELECT を、接続する機種に合わせる。 2) [EDITOR ENABLE] ボタンのある機種は、ランプを点灯させる。 3) フレームシンクロナイザーを内蔵するスイッチャーを使用するときは、機器に応じた遅延フレームを AJ-A900 のシステムの拡張セットアップ “DVE DELAY” で設定する。																											
WJ-MX50	1) リアパネルの EDIT CONTROL スイッチを RS422 にする。 2) アナログ基板のスイッチを以下のように設定する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr> <td>SW702</td><td>on</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>on</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td></tr> </table>		1	2	3	4	5	6	7	8	SW702	on	off	off	off	on	off	off	off									
	1	2	3	4	5	6	7	8																				
SW702	on	off	off	off	on	off	off	off																				
GVG モデル 100	1) 067714 SIA 基板のスイッチを以下のように設定する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr> <td>S1</td><td>off</td><td>off</td><td>on</td><td>on</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td></tr> <tr> <td>S2</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>on</td></tr> </table> S3 : “RS422” 表示側 S4 : “38400” 表示位置 S5 : “ON” 側 S6 : “RS422” 表示側 2) [EDITOR ENABLE] ボタンを押してランプを点灯させる。		1	2	3	4	5	6	7	8	S1	off	off	on	on	off	off	off	off	S2	off	off	off	off	off	off	off	on
	1	2	3	4	5	6	7	8																				
S1	off	off	on	on	off	off	off	off																				
S2	off	off	off	off	off	off	off	on																				
DFS-700	1) セットアップメニューの 1 ページ目で F3 (PORTS) を PVE-500 に設定する。 2) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の SWITCHER PVW MODE を “EE” にする。 3) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の SWITCHER SELECT を “DFS-500” にする。																											
DFS-500	1) 編集機選択スイッチ (SY-172 基板) を BVE-900 の位置にする。 2) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の SWITCHER PVW MODE を “EE” にする。																											
DFS-300	1) 編集機選択スイッチ (SY-199 基板) を PVE-500 の位置にする。 2) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の SWITCHER PVW MODE を “EE” にする。 3) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の SWITCHER SELECT を “DFS-500” にする。																											

ビデオスイッチャーの設定

機種	主な設定/AJ-A900 接続時注意点																											
KM-3000	1) CPU 基板スイッチを以下のように設定する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr> <td>S3</td><td>on</td><td>on</td><td>on</td><td>on</td><td>on</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td></tr> <tr> <td>S4</td><td>off</td><td>on</td><td>on</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td><td>off</td></tr> </table>		1	2	3	4	5	6	7	8	S3	on	on	on	on	on	off	off	off	S4	off	on	on	off	off	off	off	off
	1	2	3	4	5	6	7	8																				
S3	on	on	on	on	on	off	off	off																				
S4	off	on	on	off	off	off	off	off																				
VPS-300	1) CPU 基板 DS2-7 は OFF (初期設定) にする。 2) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の SWITCHER PVW MODE を “EE” にする。																											

上記以外の設定は、各ビデオスイッチャーのマニュアルをご覧ください。

- GVG モデル 100 は、THE GRASS VALLEY GROUP 社の製品です。
- DFS-700/500/300 は、SONY 社の製品です。
- KM-3000 はビクター社の製品です。
- VPS-300 は朋栄社の製品です。

オーディオミキサーの設定

機種	主な設定/AJ-A900 接続時注意点
共通	1) AJ-A900 の「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の MIXER SELECT を接続する機種に合わせる。 2) システム (チャンネル数他) に合わせて、ミキサーの設定をする。 3) フェーダーレバー、LOCAL スイッチ等を適宜設定する。
PAM-300 (PAM-300IF 含む)	1) PAM-300IF の設定を 38.4 Kbps. ODD, ESAM- , フレームレート (NTSC : 30F, PAL : 25F) にする。 2) EDITOR スイッチを点灯させる。
MXP-S390	1) MODE スイッチを EDITOR にする。
D/ESAM200	1) 内部スイッチを 38.4 Kbps. ODD に設定する。 2) EDIT I/F スイッチを点灯させる。
03D (03DVEK 含む)	「SWITCHER/MIXER のセットアップ」の MIXER SELECT を “DESAM200” に設定する。 2) MIDI/HOST ページの HOST INTERFACE を EDITOR TO EDITOR を ENABLE PARITY FLAG を ODD にする。

上記以外の設定は、各オーディオミキサーのマニュアルをご覧ください。

- PAM-300 は朋栄社の製品です。
- MXP-S390 は、SONY 社の製品です。
- D/ESAM200 は GRAHAM-PATTEN SYSTEM 社の製品です。
- 03D は、ヤマハ社の製品です。

設定に必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされますと、感電や故障の原因となる恐れがあります。機器をお買い求めになられました販売店か、機器メーカーにご相談ください。他社製品につきましては、仕様変更等によりここで記載した設定で動作しないことがあります。

付録 1. 編集に関する解説

■ 編集コントローラーの機能

編集コントローラーは、記録・再生VTRの調相（タイミングあわせ）を±0フレームで行いますので、VTRを手動操作して編集した場合に比べ、精度の高いシーン接続が可能です。

2台のソースVTR・スイッチャーを接続し、シーンの切り替わり点ヘワイプ・ディゾルブ等の特殊効果を入れるA/Bロール編集が可能となります。さらに音声と映像の接続タイミングをずらせた、スプリット編集等もできます。

■ 編集方法の種類

アッセンブル編集

新品、使用済みテープへ、頭から後ろへ順番にシーンをつなぎます。

VTRの固定消去ヘッドで、テープの全面を消去しながら記録しますので、途中から記録することはできません。（接続点に無信号部が発生します）

A/Bロール編集が可能です。

オーディオのスプリットはA/B点のみ可能です。

自動編集の為、1回目の編集の開始点のより前の部分に、20秒程度プリロール（助走）の為の、記録済み部分が必要です。

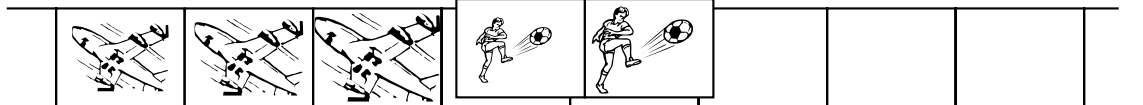
（一般のRECまたは1ST EDITでBB/ブラックバースト、カラーバー等を記録します）

全ての編集完了後、インサートモードで修正が可能です。

ソース



記録状態



インサート編集

事前に記録するテープ全体に、ブラックバースト等の記録（一般のREC）を行い、テープのフォーマットをします。

編集は、記録済みテープのCTL（コントロールパルス/テープの走行スピードを制御する為、一定間隔毎に記録される）もしくは、TC（タイムコード/テープ上に記録された時間信号）を基準に行われます。

TC基準で編集する場合、TCに不連続点があると編集できません。（「CONFIGの一覧」（108ページ）のTC JUMPをALLOWに設定する必要があります）

映像・音声・TCを個別に、任意の位置へインサート（挿入）できます。

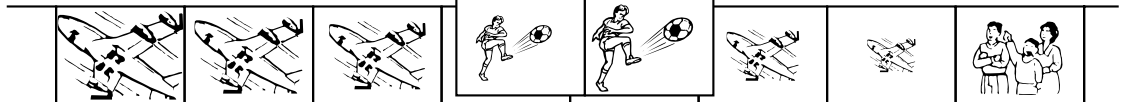
A/Bロール編集が可能です。

オーディオスプリットは、IN点、A/B点、OUT点共実行が可能です。

ソース



記録状態



付録 1. 編集に関する解説

■ タイムコード (TC) に関して

タイムコードは、自動編集の為に絶対必要な条件ではありません。しかし CTL には絶対番地がありませんので、VTR の性能によっては、編集点で数フレームの誤差が発生します。

テープ上のタイムコードの記録方法には、次の 2 つがあります。

LTC (Longitudinal Time-and-control Code)

テープの長手方向 (オーディオ C カセットでの音声記録と同様) に記録されます。

あるスピード迄は、シャトルでも読み取り可能ですが、テープが停止時は読めません。

VITC (Vertical Interval Time-and-control Code)

ビデオ信号と同じトラックに記録されています。

テープが停止していても読み取り可能ですが、シャトルでは読み取り出来ません。

以上のようにそれぞれ特長がありますので、編集では LTC/VITC/CTL を自動選択して使うのが一般的です。

タイムコードは連続している必要があります。

不連続 TC が存在する場合は、CTL モードで編集するか、「CONFIG」(108 ページ) の TC JUMP を ALLOW に設定します。

タイムコードには次の 2 種類があります。

DF (Drop Frame)

映像の周波数と実時間に発生する若干の時間差 (1 時間あたり数秒) を補正する為、0・10・20・・・分以外の毎分で 00、01 フレームを飛ばしています。(但しこれは不連続 TC としては扱われません)

この結果、目的のタイムコードを入力しても存在しない場合が発生します。

NDF (Non Drop Frame)

連続的に記録します。タイムコード値と実際の時間に若干の誤差が発生します。

DF を使うか NDF を使うかは、できあがったテープの使用目的によります。

オンエア用は DF が適しています。

カンパケ (完成品) の長さを気にしない場合は、NDF の方が使い易いでしょう。

付録 1. 編集に関する解説

■ プリロール、ポストロールに関して

複数の VTR の調相（時間関係を合わせる）の為、プレーヤー・レコーダ共 IN（記録開始）点前にプリロール（助走区間）が必要です。

プリロールの値は「システムのセットアップ」(90 ページ) で設定します。

CTL 編集等、精度を要求しない編集の場合は、プリロール区間は 3 秒で問題ありませんが、調相を行う設定にしている場合は、一般的に 5 秒を選択します。

調相に失敗した場合、編集コントローラーは何回かリトライ（再実行）します。

調相に要する時間は、VTR の性能と編集コントローラーの設定（オーバーラン等、機種毎の特性に合わせた制御をします）によります。

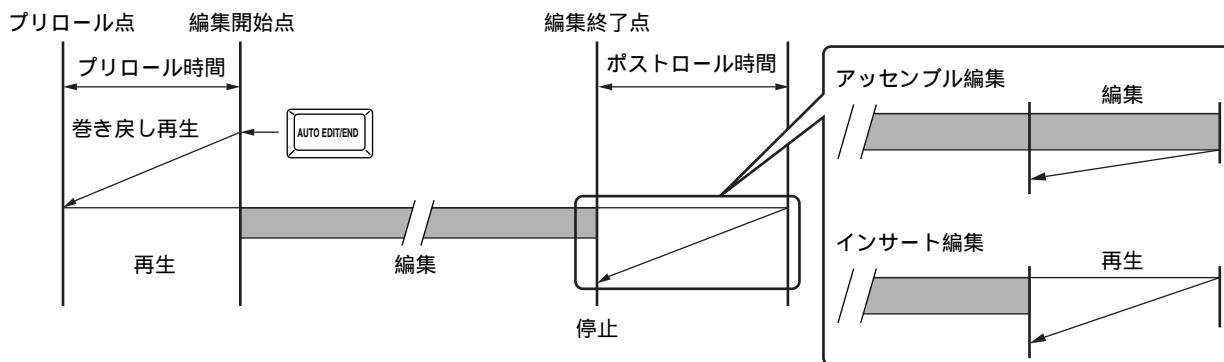
一般的 VTR は、編集コントローラーが VTR の ID を読み取り最適値に自動設定されますが、登録されていない VTR のタイプの場合は、個別設定が必要です。

設定値に関しては、当社サービス部門にご相談ください。

アッセンブル編集では、OUT（編集完了）点通過後も、次の接続のためしばらく編集を継続します。

インサート編集では、レコーダは編集終了後しばらく再生モードにして編集状況を確認する事が可能です。

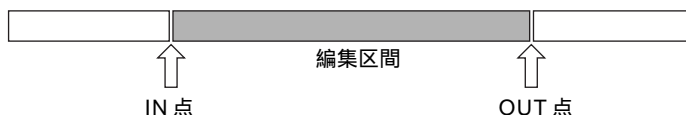
このポストロール時間は「システムのセットアップ」(91 ページ) で設定出来ます。



■ 編集開始点（IN 点）終了点（OUT 点）に関して

IN 点から記録を開始し、OUT 点の手前で記録は完了します。

プレーヤー、レコーダの両方で OUT 点を指定すると、レコーダの値を優先し、プレーヤーの値を無視します。



■ カラーフレーム及び HDTV 信号に関して

本編集コントローラーはタイムコードもしくは CTL 基準で編集を行いますので、NTSC、PAL、HDTV 等の映像信号方式に対応します。

NTSC 信号のフレーム周波数は 29.97Hz ですが、HDTV (1080i) は 30Hz、29.97Hz の両方式が存在しますので注意が必要です。異なった周波数間の編集は出来ません。

インターレース方式（一般の TV 信号）の 1 画面（フレーム）は 2 枚のフィールド（偶数フィールド、奇数フィールド）で構成されていますので編集は最低 1 フレーム単位で行われます。

プログレッシブ信号の場合はフレームのみで構成されていますので特に配慮は不要です。

NTSC（コンポジット）信号は 2 フレーム単位で色信号を構成しています。PAL 信号は 4 フレーム単位です。これをカラーフレームと言います。

この単位の連続性が保たれない接続（編集）を行いますと接続点で H シフト（画像が水平方向にピク付く）が発生したり、PAL の場合はフラッシング（色が一瞬とぶ）したりします。

コンポジット編集の場合は「システムのセットアップ」(90 ページ) でカラーフレームモードを 4 フィールド（2 フレーム）に設定する事をお勧めします。

編集コントローラーはタイムコードのフレーム情報を基準にカラーフレーミングを保つよう編集することができます。この場合接続精度は 2 フレーム単位の制約を受けます。

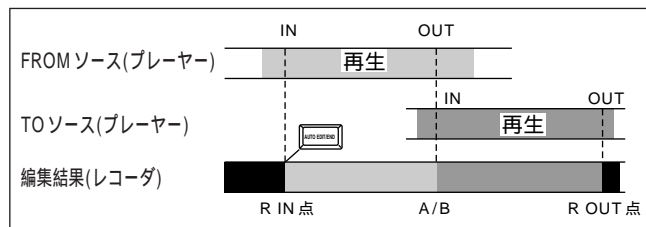
システム全体がコンポーネント信号を扱う場合は全く配慮が不要で、常に 1 フレーム単位で接続が可能です。

付録 2. 編集モードの種類と図解

AJ-A900 で可能な編集モードには次の種類があります。
個別のモードについての詳しい説明はそれぞれのページをご覧ください。

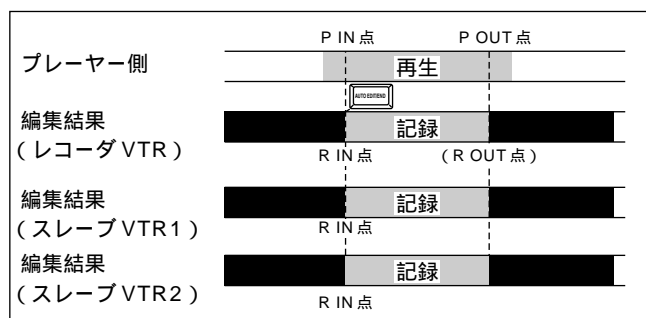
■ A / B ロール編集

2 台のプレーヤーを同時に制御して切り換えます。A/B 点で特殊効果を加えることで 2 つの映像（動画）がワイプやディゾルブでなめらかにつながります。



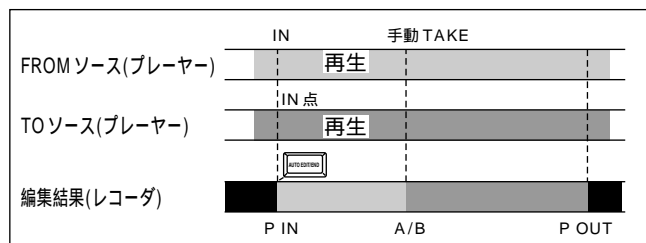
■ マルチレコーダ編集

一回の編集で同時に複数のマスターテープを作成します。編集点をプレーヤーとレコーダで設定すると、スレーブ設定された VTR もレコーダと同じ編集点で記録します。レコーダ VTR とスレーブ VTR のタイムコードの値や DF/NDF は一致している必要があります。



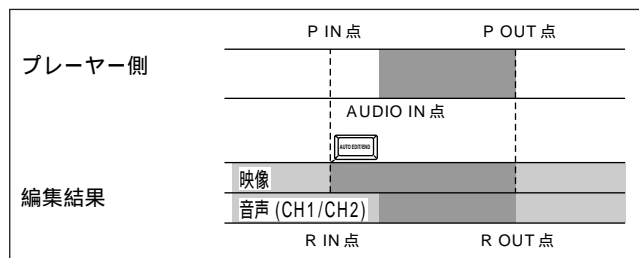
■ シンクロール編集 (手動 TAKE)

A / B ロールモードの中の一つのテクニックです。FROM ソースと TO ソースを同時にスタートさせて、画面を見ながら任意の点で A/B 切り換えを行います。



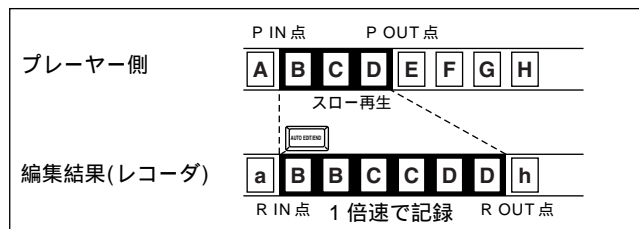
■ オーディオスプリット編集

音声の編集点をずらせるテクニックが使えます。



■ スロー編集

プレーヤーをスロー再生した映像を記録する編集です。A / B ロール編集でも行えます。



付録 3. EDL フォーマットについて

パーソナルコンピューターなどの外部機器へ、編集データ (EDL) を転送するときのデータフォーマットは、AJ-A900、AG-A850、CMX340、BVE9000 の 4 種類から選択できます。また、AG-A800 のデータフォーマットを取り込むこともできます。

1) AJ-A900, AG-A850

本機独自のフォーマット。EDL メモリーの編集データをすべて送じますので、ダンプしたデータを再度ロードしたとき、編集データは完全に復元できます。(TC インサート編集を除く)

[出力例]

TITLE: PANASONIC EDITING CONTROLLER AG-A850									
EVENT	REEL	MODE	TYPE	TRANS	P-VTR IN	P-VTR OUT	R-VTR IN	R-VTR OUT	
0001R	0008	VA1234	C		00:00:00:00	00:00:05:00	00:00:00:00	00:00:05:00	
0001R	0001	VA1234	D	01:10	00:01:05:00	00:01:00:00	00:00:05:00	00:00:10:00	
0001R		SPEED	REEL 0001		-100	00:01:05:00			
0001R		GPI1	REEL 0001		00:01:04:00				
0001R		GPI1	RECORDER		00:00:07:00				
0002R	0001	VA1234	C		00:01:00:00	00:00:53:00	00:00:10:00	00:00:17:00	
0002R	0005	VA1234	W0050R	02:00	00:00:00:00	00:00:03:00	00:00:17:00	00:00:20:00	
0002R		SPEED	REEL 0001		-100	00:01:00:00			
0002R		GPI1	FROM IN		-01:00				
0002R		GPI1	TO OUT		-00:10				
0003D	0001	ASMBL	C		01:21:51.07	01:21:51.20	00:01:49:11	00:01:49:24	
0004R	AUDIO	SPLIT	REC IN		-01:00				
0004R	0002	VA1234	C		01:05:12:05	01:05:19:05	00:00:20:00	00:00:27:00	
0005R	AUDIO	SPLIT	RECORDER		00:00:26:00				
0005R	0003	VA1234	C		00:51:06:10	00:00:09:10	00:00:27:00	00:00:30:00	
0005R	0002	VA1234	D	01:20	01:02:10.00	01:01:15.00	00:00:30:00	00:00:35:00	
0006	0002	VA1234	C		01:01:15.00	01:01:20.00	00:00:35:00	00:00:40:00	
0007	0001	VA1234	C		00:00:00:00	---:---:---:---	00:00:00:00	---:---:---:---	

					プレーヤーIN点	プレーヤーOUT点	レコーダIN点	レコーダOUT点
					エフェクト (タイプ、パターン番号、トランジション)			
					タイプ	C:カット	D:ディゾルブ	W:ワイプ
					パターン番号		R:リバースパターン	
					編集モード		VA1234:インサート編集	
					ASMBL:アッセンブル編集		0003:P3 0004:P4	
					リール番号		0001:P1 0002:P2	
					0005:AUX1 0006:AUX2		0007:AUX2 0008:AUX4	
					イベント番号		R:編集済みイベント	
					D:削除イベント			

< ノート >

AJ-A900 のフォーマットでは、上記データ以外にスイッチャーの設定情報などがサポートされます。

付録 3. EDL フォーマットについて

2) AG-A800

AG-A800 のフォーマット。一部のデータを変換して取り込みます。

(1) リールナンバー

P1 : 001 P2 : 002 AUX1 : AX AUX2 : 004 AUX4 : BL

(2) DSK

GPI1 に変換されます。

(3) EFFECT、OUT 点のオーディオスプリット

取り込みません。

(4) フェード IN、フェード OUT

取り込まないときがあります。

3) CMX340

CMX340 と共通のフォーマット。一部のデータは変換されますので、ダンプしたデータを再度ロードしても、完全には復元されません。

(1) イベント番号

EDL メモリーに 1000 以上のイベント番号で登録されているデータは出力しません。

また削除したイベントのデータも出力しません。

(2) リールナンバー

リールナンバーは、次のようにソースを変換して出力します。

P1 : 001 P2 : 002 P3 : 003 P4 : 004
AUX1 : AX AUX2 : 006 AUX3 : 007 AUX4 : BL

(3) 編集モード

次のように変換して出力します。

- アッセンブル インサート(V, A1, A2)
- インサート(A3) インサート(A1)
- インサート(A4) インサート(A2)

また、編集モードが設定されていないときは、インサート(V, A1, A2)に変換します。

(4) ワイブのパターン番号

4 桁のパターン番号は下 3 桁のみを出力します。但し下 3 桁が 0 のとき、パターン番号は 001 になります。またリバースパターンも通常のパターン番号と同じになります。

(5) トランジション時間

999 フレームをこえる時間は、999 フレームで出力します。

(6) GPI

セットアップで設定した GPI は出力しません。

(7) シンクロール編集は送出しません。

(8) スロー編集時は、オーディオスプリットおよび、GPI の設定は、出力されません。

付録 4. 編集用語集

ア行

頭出し (Cue-up)
編集 IN 点や OUT 点など、テープを特定の位置に移動させること。

アッセンブル編集 (Assemble)
何も信号の入っていないテープに、シーンを順序良くつないで編集していく方法。映像、音声、タイムコード、コントロール信号 (CTL) などすべての信号が一度に記録される。まったくの生テープを用いる場合には、最初にファーストエディットをする必要がある。(ファーストエディット参照)

A/B ロール編集 (A/B Roll Editing)
プレーヤー VTR や補助ソースから、2 つの信号を合成して行う編集のこと。ワイプやディゾルブなど、映像的效果が高い編集が行える。

EE (Electric to Electric)
VTR に入力している (記録しようとしている) 映像・音声信号をそのままモニターに出力すること。また、その信号自身も EE という。

EDL (Edit Decision List)
マルチイベント編集における、ソースやレコーダの IN/OUT 点、エフェクトなどがリストになったデータをいう。

イベント (Event)
レコーダが 1 回記録するときの編集動作を 1 イベントまたは 1 エディットという。EVENT ボタンは、マルチイベント編集においてイベントナンバーを登録したり、呼び出したりするために用いる。

インサート編集 (Insert)
タイムコードおよびコントロール信号、(映像・音声信号) がすでに記録されたマスター用テープに編集 IN/OUT 点を決めて映像、音声を個別にはめ込む編集方法。まったくの生テープに記録する場合には、ブラックバースト信号をあらかじめ記録 (フォーマッティング) してからインサート編集をする必要がある。

AT (Auto Tracking)
ノイズのないスロー、スチル、逆再生を行うための機構。この機能を使った編集をスロー編集や AT 編集という。同様の機能を DT と呼ぶこともある。

エディット (Edit)
レコーダ VTR に編集 IN/OUT 点を決めて映像、音声を記録すること。また、その動作もエディットという。

NTSC (National Television System Committee)
カラーテレビジョン方式の 1 つで、1 秒間は 30 フレームで構成される。日本や米国、カナダなどで採用されている。

LTC (Longitudinal Time Code)
テープの長手方向に記録するタイムコード。長所は TC インサート編集で書き換えが可能なこと、短所はスチル/スロー再生など低速時に読みとりできないことにある。

オートタグ (Auto Tag)
レコーダ VTR やプレーヤー VTR の編集 OUT 点を、次のイベントの編集 IN 点として自動的に設定する機能をいう。編集点設定を順次行う場合に効率よく作業できる。

オーバーフローエディット (Overflowed Edit)
記憶できる EDL メモリーの容量を越えたときの処理モードで、AJ-A900 は 2 つモードを持つ。1 つは、登録されているイベント中、最初に登録した順に消去し、新しいイベントを登録するようになっている。もう 1 つのモードでは、既に登録しているイベントを保護するため新しいイベントが登録できないようになっている。

オグジュアリー[オックス] (Auxiliary, AUX)
補助ソース。編集システムではコントローラが直接制御していない映像または音声ソースをいう。一般的には、カメラやマイク等を用いる。

オフライン編集 (Off Line Editing)
本編集の前に、オリジナルからコピーしたテープなどを用いて行う、仮編集のこと。その目的は、オリジナルテープのダメージを避けることと、時間がかかる編集データ (EDL) の作成作業をローコストのシステムで行い、本編集にかかるコストを抑えることにある。

オンライン編集 (On Line Editing)
オリジナル素材から実際に編集 (記録) してマスターテープを作製する本編集のこと。オフライン編集で作製した編集データ (EDL) を取り込んで行うこともある。

カ行

カット編集 (Cut Editing)
プレーヤー VTR や補助ソースから、1 つの信号をエフェクトなし (単につなぐ) でレコーダ VTR に記録する編集をいう。

カラーバー信号 (Color Bar Signal)
モニターの色相や彩度を調整するテスト信号。

カラーフレーム (Color frame)
NTSC 信号ではカラーサブキャリアの位相が 1 フレームごとに 180° 反転しているため、水平同期との位相関係は 2 フレーム (4 フィールド) で一巡する。PAL 信号では 1 フレームごとに 90° 回転しているため、4 フレーム (8 フィールド) で一巡する。この連続性を保つためには、2 フレーム (PAL では 4 フレーム) を一組としてまとめて取り扱う必要があり、これをカラーフレームという。また、編集などでカラーフレームを崩さないようにすることをカラーフレーミングという。カラーフレーミングを無視して編集すると編集点で映像がピクついたり (H シフト) PAL 信号では、映像がフラッシュしたりする。

GO TO
編集点や任意点の頭出しをワンタッチで行う機能をいう。

コントロール信号 (Control Signal, CTL)
テープの長手方向にヘッドドラムの回転位相を基に記録されるパルス信号で、サーボ系の基準信号になる。TC/TCL ボタンで CTL にしたとき、この信号をカウントした時間が表示される。

付録 4. 編集用語集

サ行

サーボロック (ServoLock)
VTRの再生時、サーボ系が安定し、良好な映像・音声が得られた状態をいう。編集システムでは、外部基準信号にフレーム同期した状態になる。

CFロック (Color Frame Lock)
VTRの再生時、外部基準信号に再生信号がカラーフレーム同期した状態をいう。

GPI (General Purpose Interface)
外部機器を制御するための汎用性のあるインターフェイスの1つ。あらかじめ決めた再生スタートや信号の切り換えなどといった単機能を、オン・オフトリガー（起動）信号を出力して制御する。

シンクロール編集 (Sync Roll Editing)
複数のカメラで同時収録されたテープを素材に、複数のプレーヤーでタイムコードを基準に同期再生して行う編集をいう。また特に、再生しながらソースの切り換えのみでシーンを決める編集をオンザフライ編集という。スポーツやイベントなどの編集で多く用いられる。

スプリット編集 (Split Editing)
ビデオとオーディオの切換タイミングをずらした編集を一度に行う機能をいう。また特に、ビデオを基準にオーディオをずらす場合を、オーディオスプリット編集という。

スタンバイオフ (Stand By Off)
テープ保護のため、テープテンションをゆるめたり、ヘッドドラムを停止したモードになることをいう。一般的に、良好な静止画像は得られない。

スレーブ (Slave)
編集システムでは、マスターに従うVTRやテープをいう。AJ-A900では、つねにレコーダVTRをマスターとしており、スレーブ設定されたプレーヤーVTRは、編集時レコーダVTRと同じ動作をするため、複数のVTRに同時に記録することができる。

スロー編集 (Slow Editing)
プレーヤーVTRをスロー再生させて行う編集をいう。VTRにAT機構や、デジタルスロー再生機能がないと、良好な映像は得られない。

SECAM
カラーテレビジョン方式の1つで、1秒間は25フレームで構成される。フランスや旧ソビエト、東欧諸国などで採用されている。

ソース (Source)
編集のために用いる、映像や音声素材の総称。また、素材を再生するプレーヤーVTR等の機器を示す場合もある。

夕行

タイムコード (Time Code)
編集を正確に行うために、テープ上に記録する時・分・秒・フレーム単位の絶対アドレスで、“TC”と表記されることが多い。NTSC信号では、SMPTEが推奨する信号形式：SMPTEタイムコードが、PAL/SECAM信号ではEBUタイムコードが一般的に用いられている。記録する場所（トラック）の違いによってLTCとVITCがある。

ターミネーション (Termination)
映像機器や音声機器の入力回路に、規定された抵抗値の負荷抵抗を接続すること。映像機器では、75Ωを用いることが多い。接続しないと信号レベルが約2倍となるだけでなくリングングやゴーストが発生する。

ダンプ (Dump)
AJ-A900では、RS-232C端子を介して、編集データ（EDL）を外部機器に転送することをいう。

調相 (Synchronization)
編集時、プレーヤーVTRとレコーダVTRの編集IN点が一致するように、プリロール位置から、編集IN点まで走行する間に再生速度を調整する動作をいう。

テイク (Take)
ビデオスイッチャーなどで、映像の切り換えを行うこと。

ディゾルブ (Dissolve)
映像をオーバーラップさせて切り換える効果をいう。前の映像が薄れていく中に後の映像が徐々に浮かび上がってくる。

デュレーション (Duration, DUR)
デュレーションタイムの略称。プレーヤーそれぞれ再生時間の長さや、1イベントの長さ、編集区間全体の長さなどを示す。

同ボジ編集 (Match Frame Editing)
同一のシーンを複数のイベントに分けて編集を行うとき、イベントを分けた箇所で、シーンの連続性が保たれ、違和感のない映像を得る編集をいう。カラーフレームを合わせる必要がある。

トランジション (Transition, TRANS)
トランジションタイムの略称。ワイプ、ディゾルブ等の効果において、効果の開始から終了までの長さをいう。

トリミング (Trimming, TRIM)
編集点を設定した後に修正すること。プレビューした結果を見て、元の編集点を前後に少しずつ動かすときなどに行う。

ドロップフレームモード (Drop Frame Mode, DF)
NTSC信号は、1秒は正確には29.97フレームで構成されるため、30フレームを1秒として計算するタイムコードと実際の時間とのずれが生じる。これを補正するモードをドロップフレームモードという。ドロップフレームモードでは、0、10、20、30、40、50分を除く毎正分の開始から、0、1フレームをカウントしない（1時間当たり108フレーム）ことにより修正を行う。
なお、PAL/SECAM信号には、実際の時間とのずれがないため、ドロップフレームは必要ない。

付録 4. 編集用語集

ナ行

ノンドロップフレームモード
(Non-Drop Frame Mode, NDF)
ドロップフレームの修正を行わないタイムコードの動作モード。
フルフレームモードともいう。

ハ行

パターン (Pattern)
ワイプパターンの略称。

PAL
カラーテレビジョン方式の1つで、1秒間は25フレームで構成される。ヨーロッパ諸国や中国などで採用されている。

ファーストエディット (1st. Editing)
アッセンブル編集に先立って、レコーダの生テープの始端に、数十秒のリファレンス(ブラックバースト)信号を記録すること。手動でも行えるが、AJ-A900はこれを自動化したモードが備わっている。

VITC (Vertical Interval Time Code)
映像信号の垂直ブランキング期間に記録するタイムコード。超低速スローやスチルでも正確に読みとることができる。一方、高速走行のサーチなどでは、読みとれないためLTCと併用して使用されることが多い。

フィールド (Field)
画像の走査を行う単位。通常ビデオ信号は、第1フィールドと第2フィールドの2回画像走査を行ない1つの画像(フレーム)を作る。

フォーマット (Formatting)
テープにタイムコードとコントロール信号を記録して編集用のテープをつくること。生テープにインサート編集するときは、編集の前に必ず行う必要がある。

ブラックバースト信号 (Black Burst Signal, BB)
バースト信号と同期信号が合成された信号で、編集システム内でのリファレンス信号(Ref Video)として使用する。

フリーラン (Free Run)
タイムコードの動作モードの一つ。VTRの記録・停止に関係なくカウントが進んでいく方式。

プリロール (Preroll)
編集時の調相動作と、テープ走行を安定させるため、編集IN点から一定時間分巻き戻して置くこと。VTRの機種や編集手法によって調相などに要する時間は異なるので、プリロール時間は3秒から30秒程度までいろいろある。

プレビュー (Preview)
編集のリハーサル再生。編集点や効果などを設定したあと、実際には編集(記録)を行わずに、編集時と同じように信号切り換えを行うことで、編集のシミュレーションができる。これを行うことによって、編集点や効果をチェックする。

フレーム (Frame)
1つの画面を構成する単位。1フィールドはさらに、第1フィールドと第2フィールドに分けられる。通常、編集コントローラーで行う編集の最少単位となる。

編集モード (Edit Mode)
アッセンブル編集やインサート編集といった、レコーダVTRの記録モード。

ポストロール (Postroll)
編集のとき、編集OUT点以降の映像・音声を再生して確認できるように、編集OUT点から一定時間分そのままテープを走行させること。

マ・ヤ行

マークイン/マークアウト (Mark in/Mark out)
編集点を設定するための操作(ボタン)の一つ。VTRを再生中、または頭出しをした状態で[MARK IN]または[MARK OUT]ボタンを押すとその地点が編集IN点または編集OUT点として設定される。

ユーザビット (User's Bit, UB)
SMPTE/EBUタイムコードのデータ長は80ビットあるが、このうちテープの位置情報以外に、ユーザーが自由に使用できるエリアが、32ビット設けられている。これをユーザビットといい、任意の番号(A~Fのアルファベットと数字)を8桁つけることができる。ロール番号、制御コマンド、そのほかの情報などに利用される。

ラ・ワ行

リジェネ (Regen)
編集時のタイムコードの連続性を保つために、編集済みの終端タイムコードを読みとり、編集開始時に自動的に連続させて記録する機能。ファーストエディットやTCインサート編集では、任意のタイムコードから記録させるために、この機能は働かないようになっている。

リップル (Ripple)
マルチイベント編集において、あるイベントのレコーダの編集点を修正すると、その後のイベントの編集点を、同様に修正しなければならないことがある。この修正を行う処理またはその機能をリップルという。AJ-A900ではリストマネージメント機能の1つとしてサポートしている。

リトライ (Retry)
自動編集またはプレビューを行った際、編集データどおりにVTRが動作しなかったとき、自動的に再度繰り返す機能。一般的には調相ミスが発生したとき行う。

リファレンス信号 (Ref Video)
複数の映像機器の同期をとるために用いる基準信号。一般に同期信号発生器(SG)からのブラックバースト(BB)信号を用いて、カメラのゲンロック端子、VTR、ビデオスイッチャー、編集コントローラー等のREF IN/OUT端子に接続する。

レックラン (Rec Run)
タイムコードの動作モードの一つ。VTRが記録中のみタイムコードのカウントが進んでいく方式。

付録 4. 編集用語集

レビュー (Review)
自動編集を行ったあとに、編集結果を自動再生して確かめる機能。

ロード (Load)
AJ-A900 では、RS-232C 端子を介して、編集データ (EDL) を外部機器から読み込むことをいう。

ロム (Read Only Memory, ROM)
読みとり専用のメモリー用 IC のこと。AJ-A900 では、ロムにプログラムを記録しており、これを交換しプログラムを更新することで、機能アップや接続する機器を拡張することができるようになっている。

ワイプ (Wipe)
映像をぬぐい去るように次の映像が現れる効果をいう。水平シフト、バーチカル、コーナー、サークルなど様々な形のワイプがあり、これをワイプパターンという。

お問い合わせになる前に

故障かな？...と思うときは（トラブルシューティング）

下記の項目を点検していただき、それでもなお異常のあるときは販売店にご相談ください。

症 状	処 方
<ul style="list-style-type: none"> ●VTR が動かない ●タイム表示が点灯しない 	<ul style="list-style-type: none"> ●REF VIDEO IN 端子に不正規な信号が入力されていませんか？ TBC がないVTR の出力信号は、接続しないでください。また、正規な信号がないときは、REF VIDEO IN 端子には何も接続せずに、SYNC GRADE を OFF にして編集を行ってください。 ●VTR の CONTROL スイッチを REMOTE (9P) にしてください。 ●VTR にカセットが入っていますか？ ●AJ-A900 と VTR との接続 (9P リモートコントロールケーブル) を確認してください。 ●「ポート、ディレイの拡張セットアップ」(103 ページ) の PORT STATUS で VTR を接続している PORT が NONE, SW'ER, MIXER のいずれかの設定になっているときは、R または、P1 ~ P6、P1 (SLAVE) ~ P4 (SLAVE) の設定にしてください。
<ul style="list-style-type: none"> ●タイム表示が変化しない 	<ul style="list-style-type: none"> ●テープに CTL 信号が記録されていますか？ ●タイムコードを扱えない VTR では CTL で編集してください。 ●VITC を扱えない VTR (UVW-1800 など) では CONFIG メニューの TC SOURCE を LTC にしてください。 ●S-VHS でオーディオ ch2 を LTC にしていないときは、CONFIG メニューの TC SOURCE を VITC にしてください。
<ul style="list-style-type: none"> ●記録ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットが記録禁止状態になっていないか確認してください。 ●レコーダ VTR に再生専用機 (AJ-D940 など) を使用していませんか？ ●VTR 側で REC INHIBIT が ON になっていませんか？ ●レコーダ VTR の INPUT スイッチは正しく設定されていますか？ ●レコーダ VTR の SERVO LOCK ランプは点灯していますか？
<ul style="list-style-type: none"> ●編集動作に入らない 	<ul style="list-style-type: none"> ●アッセンブル編集をするときは、ファーストエディットなどを行い編集 IN 点の前後に記録部分が必要です。 ●タイムコードが不連続になっているときは CTL で編集するか、タイムコードを記録しなおすか、または「CONFIG の一覧」(108 ページ) の TC JUMP を ALLOW に設定してください。 ●「システムのセットアップ」(90 ページ) の COLOR FRAME REFERENCE を TIME CODE に設定しカラーフレーミング編集を行うときは、ビデオ信号とタイムコードのカラーフレーム位相差を「CONFIG の一覧」(108 ページ) の CF PHASE で設定してください。
<ul style="list-style-type: none"> ●編集リトライを繰り返して編集ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ●「システムのセットアップ」(90 ページ) で SYNC GRADE を OFF 以外に設定して編集を行うときは、必ず AJ-A900 の REF VIDEO IN 端子に、外部基準信号 (ブラックバースト信号) を入力してください。 ●カット編集システムでは、同期信号発生機の代わりにプレーヤー VTR のビデオ出力信号で代用することもできます。(編集に入りにくいときは、プリロール時間を長くしてください。調相時に同期信号が乱れる VTR では、同期信号発生機の代用ができないことがあります)
<ul style="list-style-type: none"> ●編集点がずれる 	<ul style="list-style-type: none"> ●AJ-A900 の REF VIDEO IN 端子に外部基準信号 (ブラックバースト信号) を入力し、「システムのセットアップ」(90 ページ) で SYNC GRADE を ACCURATE に設定して編集を行ってください。 ●VTR 側の 9P DEVICE TYPE 設定をオリジナル ID にしてください。詳しくは、「VTR・スイッチャーの設定」(119 ページ) を参照してください。 ●CTL での編集では、VTR の性能により 2 フレーム程度編集点がずれることがあります。 ●プレーヤー VTR とレコーダ VTR の間に、フレームシンクロナイザーを内蔵するビデオスイッチャーなどを接続しているときは、機器に応じた遅延フレームを「システムの拡張セットアップ」(100 ページ) の DVE DELAY で設定してください。 ●スロー編集ではご使用になる VTR により、編集精度は悪くなる場合があります。 ●VTR によっては、編集点がわずかにずれることがあります。編集点を前もって補正してから編集を行ってください。

お問い合わせになる前に

故障かな？...と思うときは（トラブルシューティング）

下記の項目を点検していただき、それでもなお異常のあるときは販売店にご相談ください。

症 状	処 方
●編集した画面に横縞がでる	●スロー再生機能（AT）がないVTRでスロー編集をすると、正常な映像を記録できません。
●再生が不安定	●VTR やスイッチャーに入力している外部基準信号を、適切な信号（ブラックバースト信号など）にしてください。 ●TBC を持たないプレーヤー VTR を使ったシステムで、レコーダ VTR の基準信号をビデオ入力にしているときは、プレーヤー VTR を標準再生以外（SHTL/JOG 操作や GO TO など）にすると、レコーダ VTR の再生画像が乱れることがあります。
●マルチレコーダ編集を行った時、レコーダ VTR とスレーブ VTR とで、編集点が異なる。	●カラーフレーミング編集を行うときに、「システムのセットアップ」（90 ページ）の COLOR FRAME REFERENCE を ALL VTR または、RECORDER ONLY に設定すると、編集点がずれることがあります。 ●カラーフレーミング編集を行うときに、「システムのセットアップ」（90 ページ）の COLOR FRAME REFERENCE を TIME CODE に設定していても、レコーダ VTR とスレーブ VTR の機種が異なるときや、映像とタイムコードの位相が合っていないと、編集点がずれることがあります。 ●カラーフレーミング編集ができない VTR [S-VHS（NTSC）など] を使用して、マルチレコーダー編集を行うときは、「システムのセットアップ」（90 ページ）の COLOR FRAMING を OFF にしてください。
●ファーストエディット時、CF 位相が合わない。	●S-VHS（PAL）は、カラーフレーム位相を合わせることができません。 「システムのセットアップ」（90 ページ）の COLOR FRAME REFERENCE を TIME CODE に設定しないでください。 ●S-VHS（NTSC）や AU-650（M ）は、CF ロックができないため、カラーフレーム位相を合わせることができません。 ●他社の VTR を使用してファーストエディットを行うときは、カラーフレーム位相が合わないことがあります。VTR に位相を合わせる機能があるときは、VTR 自身の操作でファーストエディット（フォーマット）を行ってください。
●ビデオスイッチャーが動かない	●ビデオスイッチャーの内部設定はされていますか？ （スイッチャーのマニュアルまたは、「VTR・スイッチャーの設定」（119 ページ）を参照） ●AJ-A900 とビデオスイッチャーとの接続（9P リモートコントロールケーブル）を確認してください。 ●スイッチャーに EDITOR ENABLE スイッチがあるときは、ENABLE に設定してください。 ●「ポートディレイの拡張セットアップ」（103 ページ）の PORT STATUS で、ビデオスイッチャーを接続している PORT が SW'ER になっていますか？ ●「SWITCHER/MIXER のセットアップ」（92 ページ）の SWITCHER SELECT は、使用している機種と一致していますか？ ●ビデオスイッチャーの電源を先に入れた後、AJ-A900 の電源を入れてみてください。
●オーディオミキサーが動かない	●オーディオミキサーの内部設定はされていますか？（ミキサーのマニュアルを参照） ●AJ-A900 とオーディオミキサーとの接続（9P リモートコントロールケーブル）を確認してください。 ●ミキサーに EDITOR ENABLE スイッチがあるときは、ENABLE に設定してください。 ●オーディオミキサーにも、外部基準信号を入力しないと動作しない機種があります。 ●「ポートディレイの拡張セットアップ」（103 ページ）の PORT STATUS で、オーディオミキサーを接続している PORT が MIXER になっていますか？ ●「SWITCHER/MIXER のセットアップ」（92 ページ）の MIXER SELECT は使用している機種と一致していますか？

お問い合わせになる前に

故障かな？...と思うときは（トラブルシューティング）

下記の項目を点検していただき、それでもなお異常のあるときは販売店にご相談ください。

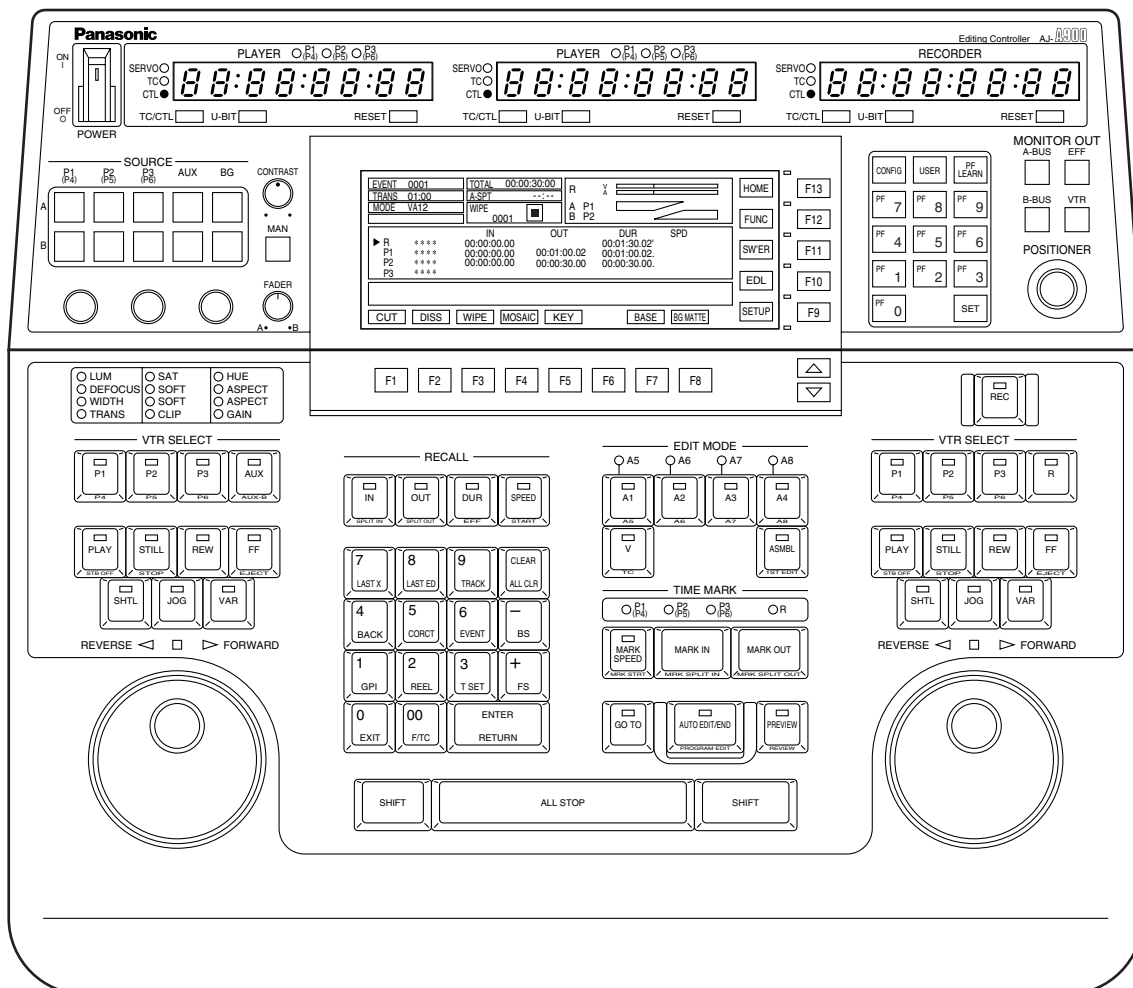
症 状	処 方
<ul style="list-style-type: none"> ● 違う画像が出る ● 画像が出ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 映像ケーブルを確認してください。 ● 「ポートディレイの拡張セットアップ」(103 ページ)の SW'ER XPOINT は、正しく設定されていますか？ ● ビデオスイッチャー及び、レコーダ VTR の INPUT スイッチは、正しく設定されていますか？
<ul style="list-style-type: none"> ● 違う音声が出る ● 音が出ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音声ケーブルを確認してください。 ● 「ポートディレイの拡張セットアップ」(103 ページ)の MIXER XPOINT は、正しく設定されていますか？ ● オーディオミキサーまたは、スピーカーの音量を絞っていませんか？ ● オーディオミキサー及び、レコーダ VTR の INPUT スイッチは、正しく設定されていますか？
<ul style="list-style-type: none"> ● 正常に起動しない 	<ul style="list-style-type: none"> ● LOAD 機能を使って、異常な SETUP データを読み込んだりすると、AJ-A900 が正常に起動しなくなることがあります。当社サービス窓口へご相談ください。

補足説明

項 目	内 容
<ul style="list-style-type: none"> ● SETUP MENU “COLOR FRAMING” について 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご使用になる VTR により、カラーフレーミング編集に制限があります。 カラーフレーミング編集ができない VTR <ul style="list-style-type: none"> ・ S-VHS (NTSC) ・ 一部の S-VHS (PAL) [AG-7700, AG-7600] ・ 一部の M (NTSC) [AU-650] カラーフレーミング編集に制限がある VTR <ul style="list-style-type: none"> 8 FIELD のカラーフレーミング編集はできません。また、カラーフレーミング位相を合わせることはできませんので、“CF REF.” は ALL VTR または、R ONLY に設定してください。 ・ S-VHS (PAL) [AG-7700, AG-7600 を除く] カラーフレーミング編集ができる VTR <ul style="list-style-type: none"> ・ M (AU-650 を除く) ・ DVCPRO ・ D3、D5 など。

操作部

この操作部を開いたままで操作説明のページを読むと便利です。



アフターサービスについて

1. 保証書—内容のご確認と保存のお願い

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入を確かめてお買い上げの販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

2. 保証期間—1 年間

取扱説明書及び本体貼付ラベル等の注意事項に従った正常なご使用状態で、保証期間内に万一故障を生じた場合には、保証書記載事項に基づき販売店で「無償修理」させていただきます。

補償期間内でも次の場合には原則として有料とさせていただきます。

- (イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
- (ロ) お買い上げの後の取付場所の移転、輸送、落下等による故障及び損傷
- (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害、(硫化ガスなど) 異常電圧、指定外の使用電圧(電圧、周波数)などによる故障及び損傷
- (ニ) その他指定外の使用条件で使用された場合に生じた故障および損傷
- (ホ) 他の接続機器及び接続部材に起因して生じた故障及び損傷

3. 補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後約8年です。

4. 修理を依頼される前に

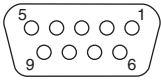
この取扱説明書をよくお読みの上、以上のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店にお申し付けください。

5. ご転居・定期保守サービス等ご不明な点は、お買い上げの販売店にご相談ください。

コネクタ信号について

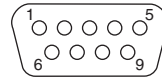
GPI 端子または RS-232C 端子を結線する場合、ケーブルの芯線と端子のピンがそれぞれ正しく対応するように結線してください。また、ケーブルはシールド線を使用し、シールドはプラグケースに接続してください。

RS-422 端子 (メス)



ピン番号	信号内容
1	GND
2	RECEIVE A
3	TRANSMIT B
4	TRANSMIT COMMON
5	NSPARE
6	RECEIVE COMMON
7	RECEIVE B
8	TRANSMIT A
9	GND

RS-232C 端子 (オス)



ピン番号	信号内容
1	DCD
2	RD
3	TD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	

外部機器との接続 (RS-232C 推奨結線)

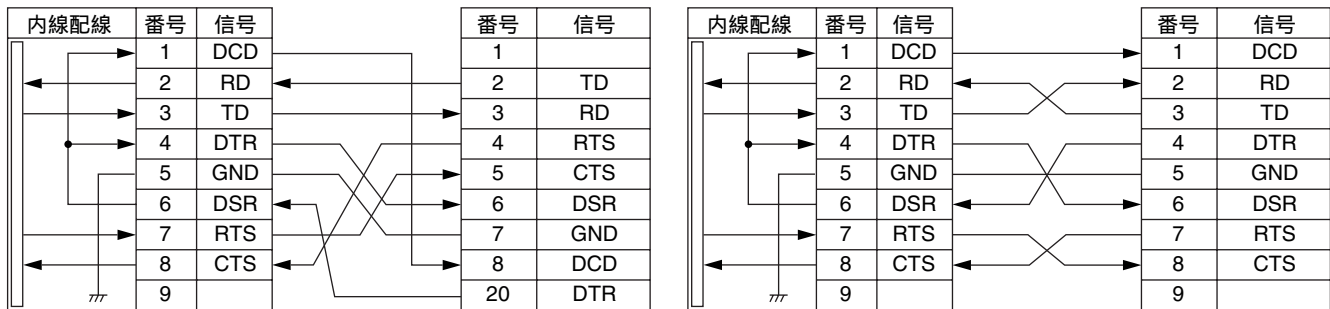
AJ-A900 では、次の図の結線をおすすめしますが、外部機器 (パーソナルコンピューターなど) の仕様により、これ以外にもいくつかの方法があります。

AJ-A900

D-sub 25P

AJ-A900


D-sub 9P



インターリンクケーブル仕様

定格

電源：AC 100 V、50Hz/60Hz
消費電力：14 W

 は安全項目です。

[一般]

許容周囲温度：	5 °C ~ 40 °C
許容周囲湿度：	35 % ~ 80 % (結露無きこと)
外形寸法：	424 (幅) × 160 (高さ) × 364 (奥行き) mm
重量：	4.8 kg (本体のみ、ケーブル等含まず)
[ディスプレイ]	液晶 DSTN、640 × 240 (ハーフVGA)
[テレビジョン信号方式]	NTSC、PAL、HD 60 Hz、HD 59.94Hz、HD 50Hz (SETUP で設定)
[編集機能]	
方式：	マイクロコンピュータ × 3 によるソフトウェア制御
メモリー容量：	512 イベント
編集モード：	●ビデオ、オーディオ 1 ~ 8 のアッセンブル/インサート編集 ●カット編集 ●A / B ロール編集 ●オーディオ IN/OUT スプリット編集 ●カラーフレーム編集 ●スローモーション編集
編集リファレンス：	CTL、SMPTE タイムコード、VITC (全て 9P 通信のみ)
編集精度：	± 0 フレーム (タイムコード編集時、対応 VTR のみ)
[コネクター部]	
RS-422 端子：	9P × 7 (ビデオスイッチャー、オーディオミキサー制御含む)
RS-232C 端子：	9P × 2 (予備 1 含む)
GPI 端子：	ピンジャック × 2 (TTL レベル [LOW : 0 V ~ 0.5 V (10 mA) HIGH : 3.0 V ~ 5 V (- 1 mA)])
REF VIDEO IN 端子：	BNC × 2 (ループスルー、75 Ω ON/OFF) (コンポジット信号、3 値 HD REF、1.0 V ± 0.2 V _{P-P})

[制御系]

接続可能 VTR 台数：	最大 7 台 (ただしスイッチャー、ミキサーを接続しない場合。レコーダは最大 3 台)
接続可能編集機器：	9P リモート機能を持つ VTR、ディスクレコーダ

●DVCPRO-HD	: AJ-HD150
●DVCPRO50	: AJ-D960, D950, D940
●DVCPRO	: AJ-D850, D840, D750, D650, D640, D450, D440
●HD-D5	: AJ-HD2000, HD2700
●D-3	: AJ-D350, D351, D360
●D-5	: AJ-D580
●MII	: AU-62(H), 63(H), 65(H), 66(H), 620, 630, 640, 650, 660, 665, W32H, W33H, W35H
●DISK	: LQ-D5500
●DVCPRO SERVER	: AJ-HDR150
●他社製 VTR	: D- cam, cam, HDcam

< ノート >

機種により編集精度、スローモーション機能など制限を受ける場合があります。上記以外の機種に関しては、あらかじめ販売店にご相談ください。

定格

接続可能スイッチャー：

9P リモート機能を持つビデオスイッチャー

AJ-HSW900, WJ-MX50, AS-D700/740, GVG100,
DFS-300/500/700, HD-SW10, KM3000

< ノート >

機種によりリモート手動調整などの機能が制限を受ける場合があります。
その他の対応機種に関しては、あらかじめ販売店にご相談ください。

接続可能ミキサー：

9P リモート機能を持つオーディオミキサー

AJ-HSW900, D/ESAM200, 03D+03DVEK, PAM300, MXP-S390,
WR-DA7V

< ノート >

機種により一部機能が制限を受ける場合があります。
その他の対応機種に関しては、あらかじめ販売店にご相談ください。

■ お願い

標準機能として搭載した VTR、ディスクレコーダ、スイッチャー、ミキサー以外との接続は、基本的にお受けできません。もし対応した場合でも高額なソフト開発費が発生することをご了承ください。

付属品：

電源コード

別売：

9P リモートケーブル (AU-C5/5 m 他)

本取扱説明書に記載した会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。

松下電器産業株式会社 AVC 社 システム事業グループ

☎ 571-8503 大阪府門真市松葉町 2 番 15 号 ☎ (06) 6901 - 1161

VQT8799-1

F0401T 